

### (3) 花園院地区の調査 第116次

#### I はじめに

調査地は、大安寺旧境内の伽藍復原によると花園院推定地の南辺にある。当該地では、同じ敷地内で昭和59年度に市DA第18次調査を実施している。南北に流れ、幅4mの自然流路(SD02)を検出し、調査地の南側を流れる岩井川の支流の一つと考えられている。また、この流路の南端で11世紀末～12世紀初頭に埋まる土坑(SK03)を検出し、その頃までは流路が埋まっていることがわかる。今回の調査は、市DA第18次調査発掘区の北側に東西方向の発掘区を設定して行った。

#### II 層序

発掘区内の層序は上から造成土、灰黒色土、淡灰緑色土、黄灰色土と続き、現地表下約1.0mで灰色粗砂にいたる。この灰色粗砂が市DA第18次調査で検出したSD02の埋土にある。黄灰色土には奈良時代の遺物が含まれており、整地土の可能性も考えられるが、この層の上面では遺構はなかった。灰色粗砂上面の標高は62.2mである。灰色粗砂以下を約0.5m掘り下げたが、粗砂、細砂、灰

色シルトが互層になって堆積していた。

#### III 掘出遺構

今回の調査では南から続く流路の一部を検出したが、幅が拡がっているよう、幅員や深さを確認することができなかつた。遺物は出土せず、流路の時期は不明である。

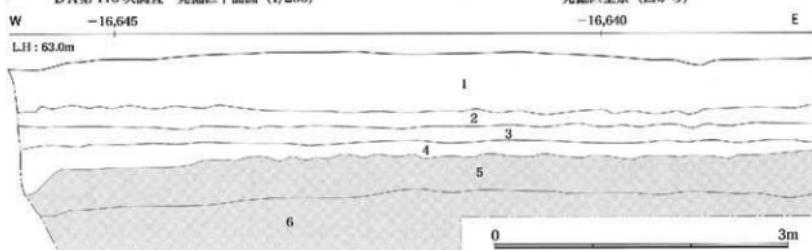
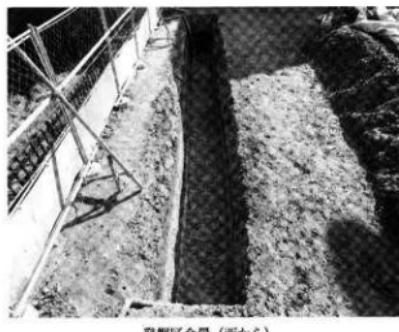
#### IV 出土遺物

黄茶色土からは奈良時代のものと思われる土師器・須恵器が遺物整理袋で1袋分出土しているが、いずれも細片で詳細な時期を特定することができない。

#### V 調査所見

今回の調査では大安寺に関わる遺構はなかった。また、流路の時期についても遺物が出土しなかつたため明らかにすることができなかつた。この流路が大安寺造営の際には既に埋められていたのか、奈良時代にこの場所に自然流路が流れていたのかを明らかにすることは、今後の周辺での調査における課題の一つとなろう。(池田裕英)

1) 奈良市教育委員会「史跡大安寺旧境内の調査 84-1・2・3次の調査」  
『奈良市埋蔵文化財調査報告書 昭和59年度』昭和60年



I 造成土 2 灰黒色土(旧耕作土) 3 淡灰緑色土 4 黄灰色土 5 灰色粗砂 6 粗砂・細砂・灰綠色シルト (5・6は流路埋土)

## 24. 元興寺旧境内の調査

奈良市教育委員会では、平成 18 年度に、元興寺旧境内において計 2 件の調査を実施した。第 61 次調査は「塔院地区」にあたり、第 62 次調査は「僧坊推定地区」にあたり。いずれも個人住宅新築に伴う発掘調査である。

平成 18 年度元興寺旧境内の調査 発掘調査一覧表

調査名	調査次数	事業名	調査地	調査期間	調査面積	調査担当者
元興寺旧境内	GG 61	個人住宅新築	西新屋町 43	H 18.7.10 ~ 7.21	27m <sup>2</sup>	武田
元興寺旧境内	GG 62	個人住宅新築	北京町 7-1	H 19.2.26 ~ 3.30	90m <sup>2</sup>	池田裕



元興寺旧境内の調査 発掘区位置図 (1/3,000)

# (1) 元興寺旧境内 小塔院地区の調査 第61次

## I はじめに

調査地は、塔院推定地に該当しており、西隣は現在の小塔院敷地で、東側には道路がある。調査は、西・中・東の3箇所（計27m<sup>2</sup>）の発掘区を設定して行った。

## II 基本層序

調査地は東から西へ下がる傾斜地で、各発掘区とも造成土の下層は様々な様相を呈する。西発掘区は地表下0.5m付近で、中発掘区は同約1.1m、東発掘区は同約1.8m付近で遺構面がみとめられた。地山を確認できたのは中・東発掘区のみで、東発掘区は井戸掘形の壁面で検出した。確認した地山の標高は、中発掘区では85.0m前後、東発掘区では84.7m前後である。

## III 検出遺構

各発掘区ごとに検出遺構について記す。

**西発掘区** 地表下0.5m付近の遺構面で、南北方向の柱穴2基（P1・2）を検出した。各々に根固め石状の石材があり、長径約0.5～0.7m。その周辺には真砂土を南北に帯状に入れ造成した跡がある。18世紀頃の土師器皿や陶磁器が出土した。南壁に沿って断ち割り、地表下約1.5m付近で黄灰色土を、またその下層で13世紀頃の土師器を含む堆積を各々確認したが、発掘区の制約により、それより下層の掘削は断念した。

**中発掘区** 現地表下1.1m付近の遺構面で、土坑SK04とSK05を検出した。SK05は18世紀頃の瓦質土器深鉢を据えている。SK04下層では井戸SE03を検

出した。掘形の径は1.5m以上で、発掘区外北へ延びる。井戸と土坑から、18世紀中～後半頃の土師器皿・陶磁器と大量の鉄滓・轆羽口が出土。その後北壁側で断ち割りを行い、地表下2m付近で黄灰色粘土の地山を確認した。  
**東発掘区** 現地表下約1.8m付近で、土坑3基（SK06～08）と井戸SE09を確認した。土坑SK06は長径1.2m、深さ0.3mである。他の土坑は発掘区外へ延びる。SE09は掘形の径1.4m、深さは0.7m以上で、17世紀中～後半の遺物が出土した。各遺構の埋土から、江戸時代の土師器皿・陶磁器のほかに、大量の鉄滓と轆羽口が出土した。

## IV 出土遺物

遺物は遺物整理箱30箱分が出土。奈良～平安時代の須恵器・丸瓦・平瓦、平安時代以降の軒丸瓦（巴紋）、鎌倉時代の土師器・瓦器、江戸時代の土師器・瓦質土器・軒桟瓦・墨書陶磁器、その他に輸入陶磁器（15世紀）・土製品（江戸以降）・土管・砾石・炭・鍛造剥片・錢貨（皇朝通寶・寛永通宝・近代貨幣）・轆羽口・炉壁・鉄滓（江戸時代以降）等がある。

## V 調査所見

想定以上の造成土に阻まれ、鎌倉時代以降の遺構の検出と、部分的な断ち割りによる地山の確認に留まり、小塔院に関する手掛かりは得られなかった。また、調査地周辺の西新屋町は江戸時代に鍛冶屋が集中した地区であり、鑄造関係遺物が多く出土した。

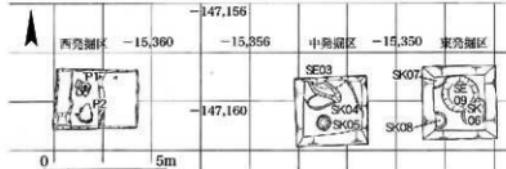
（武田和哉）



西発掘区全景（南から）



中発掘区全景（北から）



東発掘区全景（南から）

## (2) 僧坊地区の調査 第62次

### I はじめに

調査地は、元興寺の伽藍復原では僧坊が推定されている位置にあたる。元興寺の僧坊は、講堂の北に東室と西室が各4棟ずつ、計8棟があったと考えられており、今回の調査地は西室北階小字坊が推定される場所にあたる。付近の調査例としては、本調査地の西側隣接地で平成4年度に本市教育委員会が実施した市GG第37次調査がある。この調査では、西室僧坊の遺構は検出されなかったものの、明治時代以降につくられた水琴窟がみつかり、当時の町衆の生活を伺う点で興味深い成果があげられている。今回の調査は、敷地の関係から発掘区を北と南との2回に分けて調査を行った。

### II 基本層序

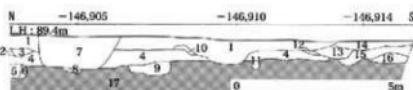
発掘区内の層序は、基本的に上から黒灰色土・茶褐色粘質土の盛土で、現地表面から概ね0.6mで茶黄色土の地山にいたる。地山上面の標高はほぼ88.0mである。遺構はすべてこの地山上面で検出した。

### III 検出遺構

検出した遺構には柱穴・土坑・井戸・溝がある。出土した遺物の中には9～10世紀の土師器片や縁部陶器・灰釉陶器片がみられるが、この時期の遺構はなかった。掘形の底に石を置いた礎石建物の柱穴をいくつか検出しているが、建物としてはまとまらず、出土遺物も少なく、時期を特定することは困難である。

検出できた遺構は13世紀以降になってからのものである。出土遺物によって時期ごとに区分し、主な遺構について以下に概述する。

**13世紀前半～中頃の遺構** SK01は東西2.0m以上、南北1.5m、深さ0.2mの土坑である。SK02は大半がSE11によって壊されており、規模等は不明である。13世紀前半～中頃の土師器・瓦器片が多数出土した。



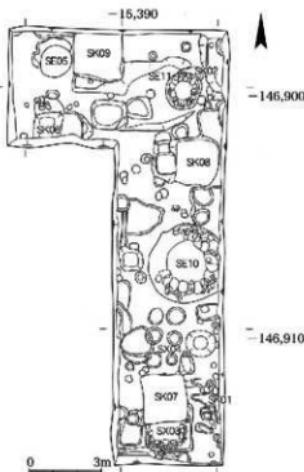
1 黒色土 2 粘灰褐色土 3 茶褐色砂質土 4 茶褐色粘質土  
5 粘黄茶色土 6 灰褐色土混合土 7 黄茶色土 (5・6は柱穴埋土)  
8 粘茶褐色土 9 茶褐色土混合土 (土坑埋土)  
10 黄灰色砂質土  
11 黑褐色土・灰褐色土混合土 (土坑埋土)  
12 青灰色粘土  
13 茶灰色土  
14 茶褐色土  
15 淡灰褐色土  
16 粘黄茶色砂質土  
17 茶褐色土 (地山)

GG第62次調査 発掘区東壁土層図 (1/150)

**13世紀後半～14世紀前半の遺構** SX03は石室（いしむろ）である。後述するSK07により北半を壊されているが、東西3.9m、南北1.7m以上の掘形の中に人頭大的石が方形に組まれている。裏込めには小ぶりの石が使われている。石組みの内法は東西2.1m、南北1.7m以上である。石積みは1～2段分が残存し、深さは0.1～0.2mである。

**14世紀後半～15世紀初頭の遺構** SX04は東西2列、南北3列の円形土坑群である。形状から埋葬遺構とおもわれる。壇は残っていないかった。壇の据え付け痕跡は径0.4～0.7m、深さ0.2～0.3mである。SE05は径1.5m、深さ2.1m以上の井戸である。断面形は台形状になっている。埋土から土師器脚付皿が遺物整理箱にして3箱分出土しており、祭祀等に使用された後に一括して棄てられたものかと考えられる。SK06は東西2.0m、南北1.0m以上の隅丸方形土坑で、深さは0.9mである。SE05と同様に土師器脚付皿が出土しており、同時期の遺構と考えられる。

**17世紀の遺構** SK07は東西1.8m、南北1.9mの方形土坑で、深さ0.8mである。遺物整理箱にして30箱の土器・陶磁器が出土している。SK08は東西1.7m、南北1.9mの方形土坑で、深さ0.6mである。



GG第62次調査 遺構平面図 (1/200)



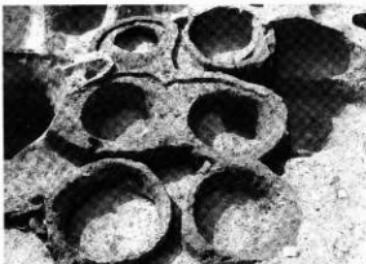
発掘区南半全景（南から）



発掘区北半全景（東南から）



SX03 全景（北から）



SX04 全景（南から）

GG第62次調査 検出遺構一覧表

遺構番号	概形			井戸枠		主な出土遺物・備考
	平面形	平面規模（m）	深さ（m）	構造	内法（m）	
SE06	円形	径 1.25	2.1以上			14世紀後半～15世紀初頭 土師器。
SE10	円形	径 3.2	1.8以上	石組	径 1.7	19世紀。
SE11	円形	径 1.5	2.6以上	石組	径 0.7	19世紀 煉瓦、金網鋼パイプ。
遺構番号	平面形	平面規模（m）	深さ（m）	主な出土遺物	備考	
SK01	不整形	東西 2.0以上 × 南北 1.5	0.2	13世紀前半～中頃 土師器、瓦器、瓦		
SK02	不整形	東西 1.0 × 南北 0.5以上	0.5～0.8	13世紀前半～中頃 土師器、瓦器、瓦	SE11より古い。	
SK05	扇丸方形	東西 2.0 × 南北 1.0以上	0.9	14世紀末～15世紀初頭 土師器		
SK07	方形	東西 1.8 × 南北 1.9	0.8	17世紀 土師器、陶器、磁器		
SK08	方形	東西 1.7 × 南北 1.9	0.6	17世紀 土師器、陶器、磁器、瓦		
SK09	方形	東西 1.9 × 南北 2.0	0.4	18世紀 土師器、陶器、磁器、灰塙壁		
SX03	方形	石組 東西 2.3 × 南北 1.7以上	0.1～0.2	13世紀後半～14世紀前半 土師器	圓形 東西 3.0 × 南北 1.7以上	
SX04	円形	径 0.4～0.7	0.2～0.3	14世紀後半～15世紀初頭 土師器	井戸枠	井戸枠付焼鉢。

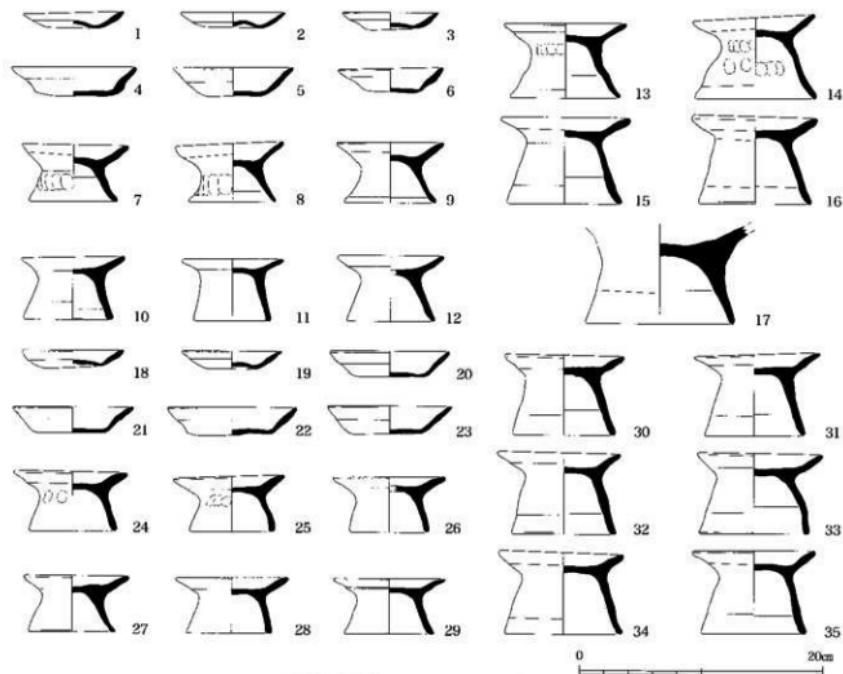
18世紀の遺構 SK09は東西 1.9m、南北 2.0m 以上の方形土坑である。多くの土師器・陶磁器片が出土し、「泉湊伊織」の刻印がある焼塙壁が出土した。

19世紀以降の遺構 SE10は内法径 1.7m の円形石組井戸である。石組みは井戸の上部に2～3段分しかなく、それ以下は素掘りである。深さは 1.8m 以上ある。塩化ビニール製の管による息抜きが認められるので、埋められたのは比較的最近のことかと思われる。SE11は内法径 0.7m、深さ 2.6m 以上の円形石組井戸である。煉瓦

や金属製のパイプ等が出土しており、近代に埋められたものと思われる。

#### N 出土遺物

本調査では、遺物整理箱で約 70 箱の遺物が出土している。7～8世紀の軒瓦 (6201型式 Aa種・Ab種・A種・6661型式 Da種)、8世紀の軒瓦 (6688型式 Ab種・6661型式 Db種)、9～10世紀の土師器・綠釉陶器・灰釉陶器、13世紀前半から中頃の土師器・瓦器・丸瓦・平瓦、13世紀後半～14世紀前半の土師器・陶器・軒瓦、14世



GG第62次調査 SK05・SE06 出土上器 (1/4)

紀後半～15世紀初頭の土師器・瓦器・陶器・磁器・軒瓦、17世紀の土師器・陶器・磁器・丸瓦・半瓦、18世紀の土師器・陶器・磁器・焼塩壺がある。ここではSE05、SK06から出土した14世紀後半の土師器について概述する。

I～17はSE05から、18～35はSK06から出土したものである。上師器皿(1～6・18～23)は、口縁部をよこなでいる。底部が凸状になるものと平底のものがある。I～16は前者が7.8～8.6cm、後者が8.6～10.2cmである。7～17・24～35は土師器脚付皿である。いずれの造構からも20個体以上出土している。法量により小型品(7～12・24～29)、中型品(13～16・30～35)、大型品(17)の3つに分けることができる。小型品は口径8～9cm、器高4～5cmであるが、形態をみると、皿部が深く、全形が「く」字状になるもの(7～9・24～29)と、皿部が浅く、脚部が高いもの(10～12)とに細分ができると思われる。また、口縁部と脚部端部の両方をよこなでするものと口縁部のみよこなでするものとに分けることができる。

中型品は口径10～11cm、器高6～7cmである。いずれも口縁部、脚部端部をよこなでしている。脚部内・外面に指頭圧痕が残るもの(13～14)となでにより残されないもの(15～16)とがある。大型品は口径、器高とも不明であるが、底径は12.2cmである。これらの脚付皿は、形態が春日大社で神饌に用いられる高壇上器(春日社ではコハイ・ゴンバイ・ゴンバイなどとよばれる)と類似し、1つの造構からまとめて出土していることから、調査地付近において神事の際に使われ、その後に廻棄されたものであろうか。

#### V 調査所見

今回の調査では、元興寺の僧坊に関する造構は検出されなかった。しかし、13世紀以降、近代までの造構を検出し、奈良町の変遷に係わる知見が得られた。また、供饌に用いられたとみられる土器がまとめて出土したこととは、当時の人々の生活の一端を垣間見ることができるよう、興味深い。

(池田裕英)

1) 奈良市教育委員会「元興寺境内第37次の調査」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書』平成4年度 1993

## 25. 西大寺旧境内（西面回廊推定地区）の調査 第22次

事業名	個人住宅新築	調査期間	平成18年5月29日～6月1日
届出者名	個人	調査面積	3m <sup>2</sup>
調査地	奈良市西大寺小坊町348-18	調査担当者	池田裕英

### I はじめに

本調査は小坊町で行った個人住宅新築に伴う事前の発掘調査である。本調査地は、西大寺の西面回廊が通ることが想定される場所にあたり、回廊の検出を目的に調査を行った。南北0.6m、東西5mの発掘区を設定し、調査面積は3m<sup>2</sup>である。

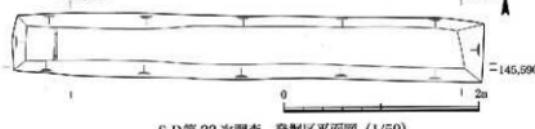
西大寺は、764年(天平宝字8)に孝謙天皇が発願した寺院で、寺域は平城京の右京に三十一坪を占めていたとされる。創建当初の西大寺伽藍は「西大寺資財流記帳」から、薬師金堂、彌勒金堂からなる金堂院を中心とし、東西両塔、十一面堂院、四王院、食堂院、正倉院などから構成されていたことがわかる。食堂院については、近年の奈良市教育委員会(市SD第12・15次)や奈良文化財研究所(平城第404次)の調査によって、その概要が明らかになりつつある。上記の堂塔の配置は後世に描かれた絵図等を参考に考証されており、それによると今回の調査地は、金堂院の中門から薬師金堂へとつながる西面回廊が推定される場所となる。

### II 基本層序

発掘区内の基本的な層序は、上から造成土、灰緑色土、灰褐色砂、黒灰色土(耕作土)、灰色粘土と続き、現地表下約1.3mで黄茶色土の地山にいたる。地山上面の標高は、概ね75.1mである。

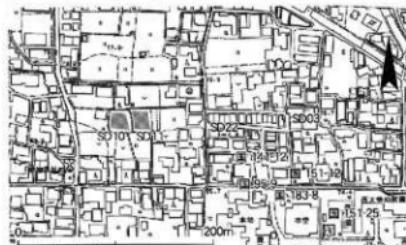
-20.025

-20.021



1 造成土 2 黒灰色土(旧耕作土) 3 灰色粘土 4 黄茶色粘土(地山)

SD第22次調査 発掘区北壁土層図 (1/50)



### III 検出遺構

発掘区が狭小なこともあり、今回の発掘区内では遺構を検出できなかった。

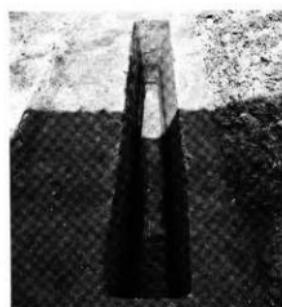
### IV 出土遺物

今回の調査では、遺物が出土しなかった。

### V 調査所見

今回の発掘調査では西面回廊に関わる遺構が検出されなかった。発掘区の位置から推定すると、西面回廊は本調査地よりも西に位置すると考えられる。(池田裕英)

- 1) 「西大寺旧境内の調査 第12次」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書(第2分冊)』平成9年度 1998  
「平城京跡(右京一条三坊八坪)・西大寺旧境内(食堂院跡推定地)の調査 第15次」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書』平成15年度 2006
- 2) 「西大寺食堂院・右京北辺の調査 第404・410・415次」『奈良文化財研究所紀要』2007



## 26. 東紀寺遺跡の調査 第9次

事業名	市立奈良病院リニアック棟新築工事	調査期間	平成18年9月14日～9月27日
通知者	奈良市長	調査面積	50m <sup>2</sup>
調査地	奈良市東紀寺町一丁目50番1号	調査担当者	秋山成人

### I はじめに

調査地は、春日山の南西を流れる能登川沿いに形成された扇状地上に位置する。平城京左京五条七坊十三坪の調査（市HK第243次：平成3年度）及び奈良女子大学中学・高等学校構内での調査（国第240次：平成4年度）で古墳が確認され、この扇状地上に広がる遺跡は、東紀寺遺跡として周知される。最近実施した市営住宅建築事業に係る調査（市HK第5・6次：平成13・15年度）では、古墳時代の掘立柱建物・溝・河川跡が検出され多くの木製品・製塙土器が出土している。

今回、東紀寺遺跡の範囲確認と様相を明らかにすることを目的に調査を行った。

### II 基本層序

発掘区の層序は、上から造成土、黒灰色土（耕作土）、褐灰色砂、灰色粘土、灰褐色土、黄灰色砂礫土、黄灰色土（地山）の順である。黄灰色砂礫土は、東から流れてきた拳大の礫と土砂が互層に流れ溜まって形成されたと考えられる。遺構検出は、地表下0.8mの黄灰色砂礫土上面（標高97.2m）と地表下0.8～1.1mの黄灰色土（地山）上面（標高96.9～97.2m）の2面で行った。

### III 検出遺構・遺物

黄灰色砂礫土上面に、落ち込みSX01・02がある。小片であるため詳しい時期はわからないが、SX02から埴輪が1点出土した。黄灰色土上面では、遺構はみつからなかった。なお、概要は遺構一覧表にまとめた通りである。

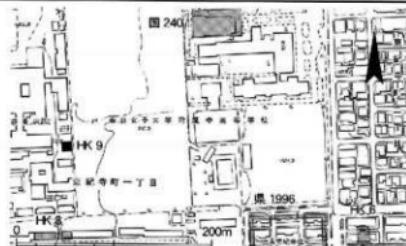
### IV 調査所見

今回の調査では、遺構、遺物とも顕著なものはみられなかった。しかしながら、SX02埋土の灰褐色土から埴輪小片が出土したことにより、黄灰色砂礫土上面が古墳時代遺構面で、周辺に古墳が存在する可能性がある。

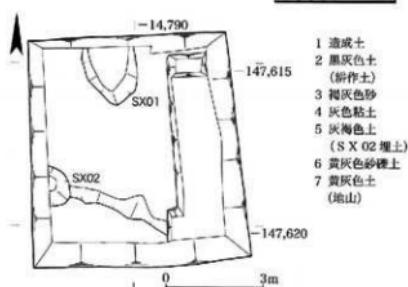
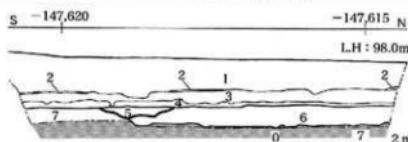
（秋山成人）

HK第9次調査 検出遺構一覧表

遺構番号	平面形	平面規模（m）	深さ（m）	埋土	出土遺物
SX01	不整形	東西1.85×南北1.8以上	0.14	灰褐色土	なし
SX02	不整形	東西0.6以上×南北1.25	0.2	灰褐色土	埴輪小片



HK第9次調査 発掘区位置図 (1/5,000)



発掘区西壁土層図 (1/80) (上)・遺構平面図 (1/150) (下)



発掘区全景 (北西から)

## 27. 史跡瓢箪山古墳隣接地の調査 第3次

事業名	個人住宅新築	調査期間	平成18年9月25日～9月29日
届出者名	個人	調査面積	11m <sup>2</sup>
調査地	奈良市佐紀町3241-3	調査担当者	池田裕英

### Iはじめに

本調査は、史跡瓢箪山古墳の西側に隣接した場所で実施した発掘調査である。史跡瓢箪山古墳は、1973年に奈良県立橿原考古学研究所により発掘調査が行われ、後円部西側で葺石を確認し、埴丘西側に外堤が復原想定された<sup>1)</sup>。しかし、本市が昭和63年に埴丘西側で発掘調査(市HY第1・2次)<sup>2)</sup>を実施し、東から西へ下る地形の傾斜からみて前方部西側には古墳築造当初から外堤はなかったとの調査所見を得ている。今回の調査地は、想定されている埴丘西側の外堤の部分に東西2箇所の発掘区を設けて実施した。

### II 基本層序

東発掘区 造成土を除去すると地山である黄白色粘質土にいたる。地山上面の標高は、81.9～82.4mである。

西発掘区 造成土、灰色砂礫と続き、現地表下0.3mで赤褐色土の地山にいたる地山上面の標高は81.7mである。

### III 検出遺構

両発掘区とも遺構はなかった。

### IV 出土遺物

両発掘区とも遺物は出土しなかった。

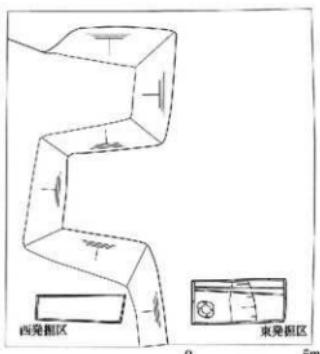
### V 調査所見

今回の調査地では地山が削平されている可能性が高く、外堤の存否に関する知見を得ることができなかつた。しかし、前回の調査成果等も勘案すると、前方部西側の外堤はなかった可能性が高いと考えられる。(池田裕英)

- 1) 奈良県立橿原考古学研究所編「奈良県古墳発掘調査集報Ⅱ」奈良県文化財調査報告書第30號 1978
- 2) 奈良市教育委員会「史跡瓢箪山古墳隣接地の調査」「奈良市埋蔵文化財調査概要報告書「昭和63年度」」1989



HY第3次調査 発掘区位置図 (1/5,000)



HY第3次調査 発掘区遺構平面図 (1/200)

W E  
LH: 83.3m



1 造成土 2 黄白色粘質土 (地山)

W E  
LH: 82.2m

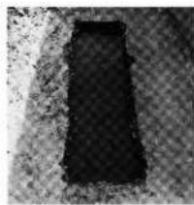


1 造成土 2 灰色砂礫 3 赤褐色土 (地山)

HY第3次調査 東発掘区 (上)・西発掘区 (下) 北壁土層図 (1/50)



東発掘区全景 (東から)



西発掘区全景 (西から)

## 28. 奈良山第51号窯の調査 第1次

事業名	宅地造成	調査期間	平成18年5月9日～平成18年6月30日
届出者名	三和住宅(株)	調査面積	147m <sup>2</sup>
調査地	奈良市秋篠町1546-1の一部他	調査担当者	中島和彦

### I はじめに

平城京の北方に位置する奈良山丘陵には、約40基の瓦窯が分布調査で確認されている。奈良山第51号窯は奈良山丘陵の西方にあり、秋篠川によって形成された谷の東側に面した丘陵部分にある。瓦窯はこの谷沿いの南北方向の丘陵の東斜面に位置するが、周辺の開発が進んだ結果、瓦窯の正確な位置は不明であった。

この丘陵上の宅地造成が計画されたことから、開発区域内の踏査を実施し、その後遺構の存在が考えられる地点に対して試掘調査(市05-17・市06-01調査)を行った。試掘調査の結果、丘陵南端の東側斜面に瓦窯を1基、北端の西側斜面裾に時期不明の溝・小土坑・旧河道を確認したことから、奈良県、開発業者と協議を行ったが、瓦窯部分の保存は難しく、記録保存のための発掘調査を実施した。



NARA51 第1次調査 発掘区位図 (1/5,000)

### II 基本層序

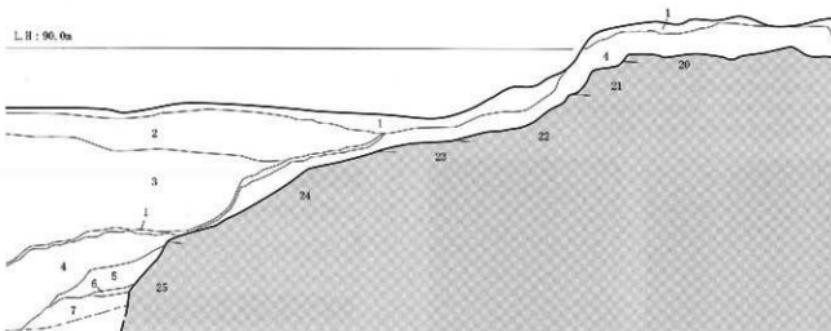
先述したように、瓦窯は丘陵南端の東側斜面に存在している。この部分は幅約8m、高さ約2mの歪な円形の高まりで、中央には祠が建っていた瓦積の基壇が1つあり、その南側にはコンクリート階段があった。瓦窯はこ

L.H : 93.0m

8

L.H : 92.0m

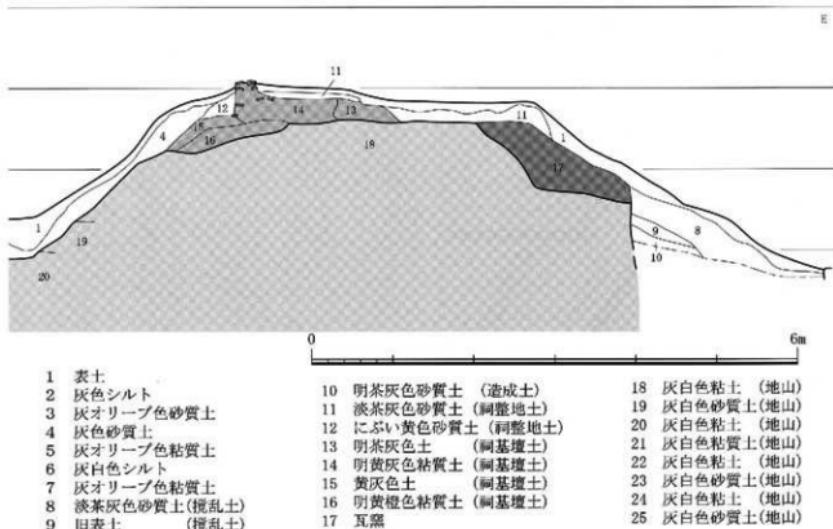
L.H : 91.0m



NARA51 第1次調査 発掘区・試掘第06-01 次調査 発掘区土層図 I (1/60)



NARA51 第1次調査 発掘区全景（北から）



NARA51 第1次調査 発掘区・試掘第06-01次調査 発掘区上層図2 (1/60)

奈良山第51号窯の調査 第1次



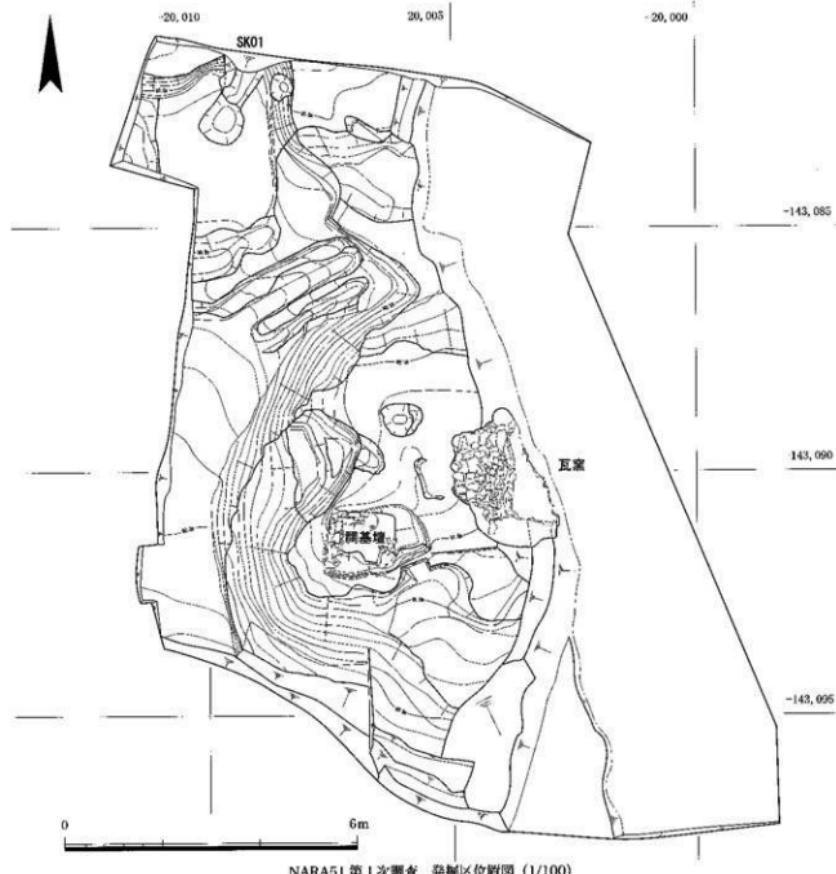
発掘区位置図 (1/1,000)

の高まりの中央や北よりの東斜面にある。調査地東側には南北方向の里道があり、この道に沿って幅約2.5m分が工事によって大きく掘削されている。このため瓦窯の焼成室中程から焚口以下が削平されている。

瓦窯周辺の層序は、厚さ0.1～0.2mの表土層（土層Ⅰ）の下で明灰白色粘土などの地山となり、祠基壇周辺では、厚さ約0.1～0.5mの基壇土と整地土（11～16）がある。東側は先の擁壁工事後の埋め戻し土とその後の堆積土（8～10）が0.9m以上堆積する。この層内には瓦・窯壁片が含まれる。南側も大きく削平されており、高まりの裾部には、厚さ0.3～0.5mの丘陵の崩落土が

堆積する。地山上面の標高は瓦窯の西側で約91.7mである。

瓦窯の西側では、現況で鐘壇状の2ヵ所の平坦面が見て取れる。試掘調査の結果これらの平坦面は、丘陵の削平と盛土によって造られていることがわかった。地山面は、瓦窯がある高まりの裾から、西へ幅約3mの平坦部を経た後、緩やかに下降してゆく。さらに西へ約5mのところで急激な斜面となり、発掘区内では底が確認できなかった。これら西側斜面の地山上面には、灰色砂質土（4）が堆積している。この層は祠基壇上にも堆積しており、丘陵西側の改変は近年のものと考えられる。



### III 検出遺構

奈良時代の瓦窯1基、土坑1基、江戸時代以降の糞跡の基壇がある。

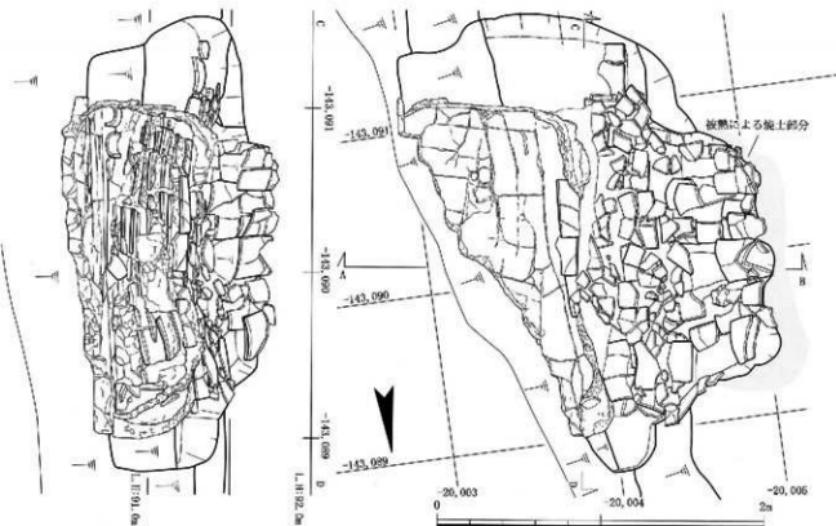
**瓦窯** 東側に焚口を向ける半地下式の無牀平窯で、焼成室中程から煙出し部までの約2.3m分が残存している。なお、以下の瓦窯の記述における左右は、焚口から奥壁を見ての方向とする。

焼成室は内法が幅約2.0m、長さ1.2m以上の平面方形と考えられ、高さは残存する側壁部分で約0.7mある。側壁はやや内傾して立ち上がり、左側壁と奥壁の接点近くでは一部円弧を描き焼成室天井に向かう。天井は残存していない。床面はやや傾斜し、中軸線上では約1.05m間で0.19m分奥壁側が高くなり、傾斜は $10^{\circ} 15' 25''$ となる。床面は地山のままで、暗青灰色に硬く焼き飾まり、表面にはひび割れが多数はしる。掘形は横幅約2.8mで、両側壁との間の裏込め土には、厚さ0.07m前後の暗赤褐色砂質土（瓦窯上層図11）と、厚さ0.03m前後の暗赤褐色土（12）の互層が確認できる。この互層の横幅は0.22～0.29mで、暗赤褐色土を介してブロック状の暗赤褐色砂質土を積み上げたと考えられ、暗赤褐色砂質土は日干燥瓦であった可能性も考えられる。焼成室の側壁表面にはスサ入り粘土が塗りつけられ、暗青灰色から赤褐色に焼き締まる。



瓦窯検出状況（東から）

奥壁は、ほぼ原型を保ったまま焼成室内にずり落ちておらず、幅約1.95m、高さ0.4m以上、厚さ約0.15mである。半蔵した平瓦とスサ入り粘土を交互に積み重ねて積み、床面に接する所には、中央と左右端の3ヵ所に煙出

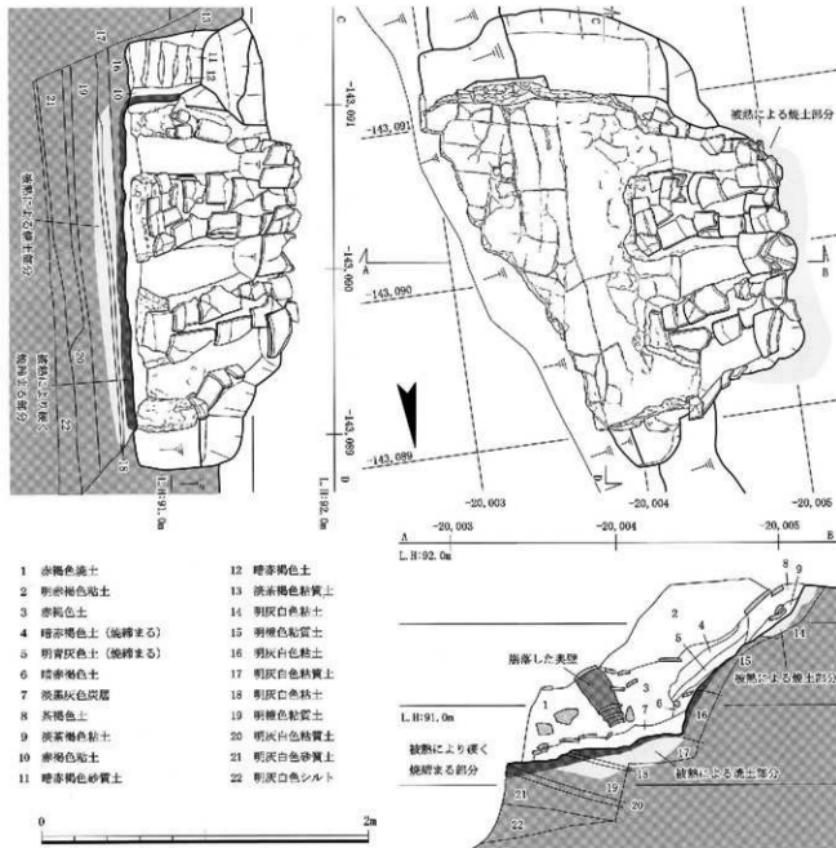


瓦窯検出状況平面・立面図 (1/30)

し部につづく孔がある。

焼成室床面上からは、丸瓦と平瓦が出土するが、出土状況から焼成時の原位置を保つ瓦はない。詳細は出土遺物の項で後述するが、丸瓦はすべて筒部の中央部で半割されており、焼き台と考えられる。一方、平瓦は大小の破片で出土し、1個体またはそれに近く復原できるものがまとまって出土した。後述する平瓦の型式別の出土分布から、この平瓦は窯内に廃棄された製品と考えられる。焼成室床面上には瓦と共に淡黒灰色炭屑（瓦塵土層図7）が約0.07m堆積し、その上には窯壁片を多く含んだ赤褐色焼土（I）が約0.3m堆積する。

煙出し部は長さ約1.1m、幅約1.8mで、中央と左右両端に煙突がある。横幅は中央部の煙突が約0.3m、左右の煙突が約0.15m、上下幅はいずれも頂部近くで約0.2mある。焼成室最奥部から煙出し部最頂部までの高さは約0.9mで、その間の水平距離は約0.7mである。煙突床面の横断面形は「U」字形で、縦断面形は北側から見て緩やかな逆「S」字形を描く。中央と左右の煙突間は、高さ0.15～0.2mの畦状の高まりで区切られる。この高まりは、煙突間の地山を高さ約0.1m削り残し、その上に粘土を厚さ約0.1m盛って凸面を上にした平瓦を貼り付けつくられる。また左右両端の煙突の掘形側に



瓦窯平面・立面図・土層図(1/30)



瓦窯全景（北東から）



瓦窯全景（東から）



も、幅0.1m、高さ0.1mの同様の高まりが掘形に沿つてつくられる。この畦状の高まり間を覆う形で煙突の天井がつくられ、煙突の頂部では凸面を上にした平瓦を2枚重ねし、それ以下は粘土でつくるが、この部分は煙突内に崩れ落ちる（瓦窯土層図4・5）。煙突の天井の上には、煙出し部全面に平瓦を1・2層分敷き、さらに明赤褐色粘土（瓦窯土層図2）で埋める。

瓦窯周辺では柱穴、排水溝等は確認できなかった。

**土坑 SK01** 発掘区北西隅にあり、東西約1.2m、南北約2.0m以上、深さ約0.9mの平面長方形の土坑で、発掘区北側に続く。上層からは焼土とともに埠と須恵器の盤の破片が出土した。

**祠墓壇** 一辺約1.4m、高さ約0.4mの平面方形の瓦積み基壇である。瓦積みの幅は約0.25mあり、南側を除き周囲を「コ」字状に積む。瓦の多くは江戸時代以降の平瓦・熨斗瓦であるが、一部に奈良時代の瓦を含む。また、基壇下の整地土と周辺の堆積土からは奈良時代の瓦が多く出土し、特に南側と西側に集中する。この他に寛永通宝1点、口永通宝2点、10円硬貨2点（昭和41年・59年）が周辺から出土した。

#### V 出土遺物

瓦塊類が遺物整理箱49箱、土器類が1箱、銭貨が5点、鉄釘が1点ある。

瓦塊類には、奈良時代の丸瓦435点（46.57kg）、平瓦3,399点（384.505）、丸平不明瓦444点（3.562kg）、

埠46点（24.672kg）、江戸時代以降の軒丸瓦2点（0.56kg）、軒平瓦8点（0.67kg）、丸瓦29点（1.171kg）、平瓦152点（9.18kg）、熨斗瓦25点（10.68kg）、棟瓦86点（7.49kg）がある。以下、瓦窯出土のものについて記す。

瓦窯出土の瓦は、大半が窯の構築部材で、焼成室出土のものには焼き台と製品が含まれている。焼成室からは丸瓦88点（21.45kg）、平瓦95点（13.280kg）、丸平不明瓦9点（0.045kg）、煙出し部と焼成室奥壁からは丸瓦8点（0.77kg）、平瓦630点（154.020kg）、丸平不明瓦16点（0.205kg）が出土した。

丸瓦はすべて玉縁式で、大半が焼成室床面出土である。ここからは丸瓦23個体分が出土し、すべて筒部の中央部で半割される。玉縁部側が17点、筒部端部側が8点出土し、そのうち2個体が完全に復原できた。すべて技法・法量が同一である。玉縁部と筒部端部の出土比率から見て製品ではなく、すべて焼き台と考えられる。この他には、窯の構築部材として使用された丸瓦を確認できない。

1は全長31.7cm、筒部長27.3cm、筒部幅15.2cm、玉縁長4.6cmである。玉縁幅は欠損して不明だが、玉縁が残存するその他の個体では9.4～11.3cmである。筒部外面は、縦方向の継タタキ後、丁寧にヨコナデ調整しタタキ目をほぼ消す。玉縁部は、筒部と玉縁部を一体で作った粘土円筒の肩部に、粘土紐を貼り付けて成形することが、他の個体から判明する。玉縁部の凸面はヨコナデ調整でカキメ風の条痕が残り、玉縁成形のための型板状の

工具が想定出来る。玉縁端部は押しつぶされてやや歪で、端面に砂や粘土屑が付着するものが多い。筒部端面はヘラケズリ調整する。筒部と玉縁部側面は未調整で、分割截線と分割破面が残る。分割截線は筒部には内面にあるが、玉縁部では外面まで及び、玉縁部では分割破面が端部から内面にかけて残る。凹面は未調整で布目圧痕が残る。焼成は堅緻で、色調は青灰色である。

2は祠基壇の西側の遺物包含層から、多量の瓦とともに出土した。瓦窯内出土のものと様相が異なるため報告する。全長35.7cm、筒部長30.5cm、筒部幅17.5cm、玉縁長5.2cm、玉縁幅9.1cmである。凸面は縦方向の綱タタキ後ナデ調整するが、全面にタタキ目が残る。玉縁端部、筒部端部、筒部と玉縁部側面はいずれもヘラケズリ調整する。筒部と玉縁部側面のヘラケズリ調整は、側面と内面側の2回に分けて施される。このケズリ調整のため、凸面を上にして置くと、玉縁部側面が接地面からやや浮き上がる。凹面は未調整で布目圧痕が残る。焼成はやや軟質で、色調は明黄褐色である。

平瓦は、接合後全形が判明するものが多く、製作技法の差異によって型式分類ができる。共通する技法としては、凹面に布目圧痕が残り、その下に糸切り痕跡が認められるものがあること、凹面の側面・端部側はケズリ調整で面をとること、凸面は綱タタキを施し、その下に糸切り痕跡が認められるものがあること、側面と端部とともにケズリ調整で面を整えることである。

一方、調整技法の差異による分類基準は、凹面では①模骨痕跡の有無（I・II類）、②板状工具によるナデ調整（以下板ナデ調整とする）の有無（A・B類）、凸面では③綱タタキ後のナデ調整の有無（a・b類）、④離れ砂の有無（1・2類）である。これらの分類基準の組合せを型式名とした以下の6型式が確認できた（平瓦分類表）。

I Aa1型式 凹面に模骨痕と、布目痕跡が残り、凸面は綱タタキ目を残し、離れ砂がないもの。1個体分のみの出上で、法量は全長33.8cm、広端幅不明、狭端幅22.8cm、最大厚1.5cmである。凹面には一列の布の綴じ合わせ痕跡が狭端側に長さ約9cm分である。凸面には粘土板の接合痕らしき跡があることから、桶巻作りの可能性がある。焼成は軟質で、色調は灰白色である。

I Ba1型式 凹面は模骨痕を残し、布目痕跡を板ナデ調整で消し、凸面は綱タタキ目を残し、離れ砂がないもの。1個体分が復原できた。法量は全長36.9cm、広端幅28.2cm、狭端幅25.2cm、最大厚1.7cmで、復原できた個体中最大のものである。凹面の板ナデ調整は横方向である。焼成はやや軟質で、色調は灰白色である。

I Bb1型式（3） 凹面は模骨痕を残し、布目痕跡を板ナデ調整で消し、凸面は狭端側をナデ調整で綱タタキ目を消し、離れ砂がないもの。法量は全長33.1～35.4cm、広端幅26.4～29.0cm、狭端幅22.5～25.6cm、最大厚1.9～2.6cmである。他の型式に比べ器壁が厚い分重量が増す。なお3は全長33.1cm、広端幅26.0cm、狭端幅23.2cm、最大厚2.0cmである。

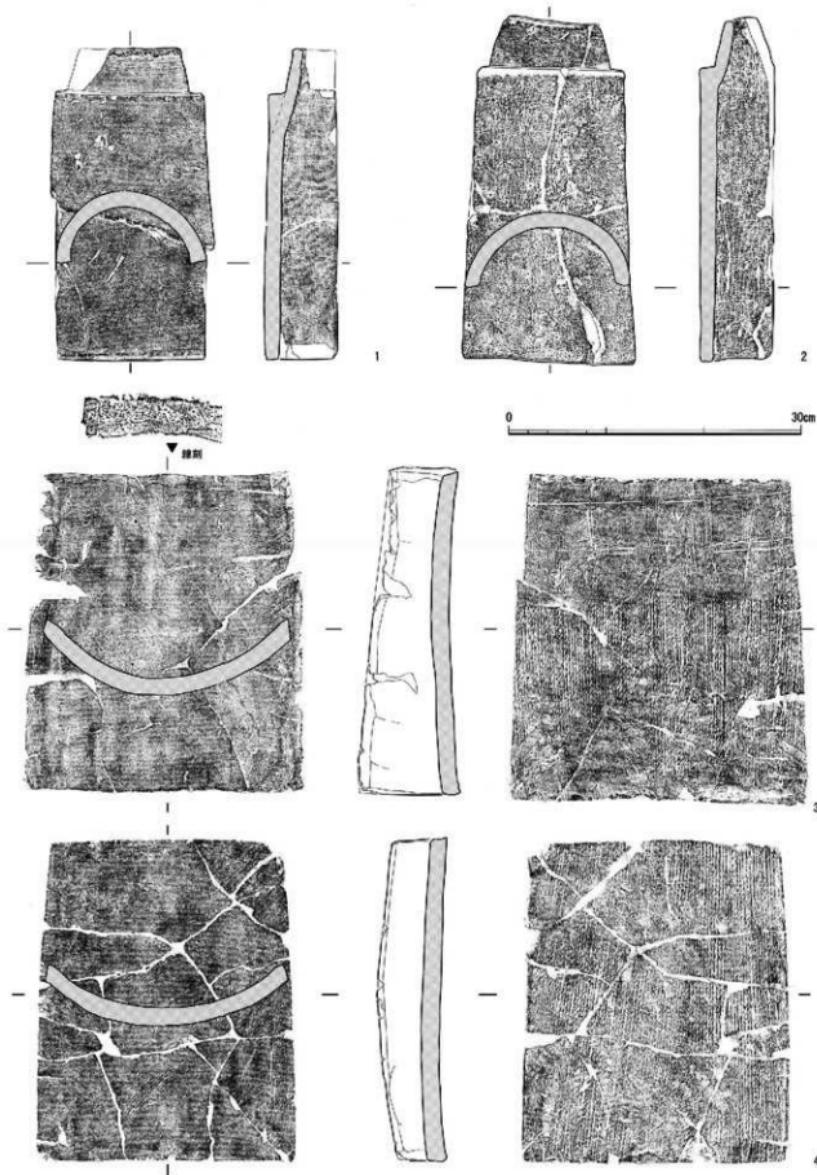
凹面の板ナデ調整は横方向で、大半の布目痕跡を消す。凸面のナデ調整も横方向で、狭端側の幅約18cm分を行う。ナデには条痕風の痕跡があり、板状の工具が想定される。凸面の狭端部側には凹型台の圧痕が残るものがあり、綱タタキ目は一部押し潰されている。これらのことから凹面の板ナデ調整時は凹型台が使用されたと考えられる。さらに凸面中央には、狭端側のナデ調整の上に縦方向の条痕が残る。また凸面の広端部両端近くには、人差し指大のナデ痕跡が2～3条ある。この2つの痕跡は、その施される範囲が僅かであり、調整技法とは考えられない。またI Bb1型式のみならずII Ba1型式の瓦にも多く確認でき、何らかの共通する行為の結果と言える。可能性として、後者は凹型台から瓦を持ち上げる時に広端両側から指を差し込んだ跡、前者はその後持ち上

平瓦分類表

基骨種	凹面 ナデ調整	凸面 最終調整	型式名	
			砂目	
有 (I類)	無 (A類)	タタキ (a類)	無(1類)	I Aa1
		ナデ調整 (b類)	有(2類)	I Ab1
	有 (B類)	タタキ (a類)	無(1類)	I Ab1
		ナデ調整 (b類)	有(2類)	I Ba1
	無 (II類)	タタキ (a類)	無(1類)	II Aa1
		ナデ調整 (b類)	有(2類)	II Ab1
無 (II類)	有 (B類)	タタキ (a類)	無(1類)	II Ba1
		ナデ調整 (b類)	有(2類)	II Ba2
	無 (II類)	タタキ (a類)	無(1類)	II Bb1
		ナデ調整 (b類)	有(2類)	II Bb2

瓦窯出土平瓦型式別出土表

型式名	点数	%	重量(g)	%
I Aa1	15	2.1%	1840	1.1%
I Ba1	16	2.2%	3760	2.2%
I Bb1	133	18.3%	47427	28.3%
II Aa1	9	1.2%	2090	1.2%
II Ba1	459	63.3%	103875	62.1%
II Ba2	49	6.8%	7333	4.4%
不明	44	6.1%	975	0.6%
合計	725		167300	



NARA51 第1次調査 出土瓦 (1/5)

げた瓦が凹型台の向こう側に押された際に、凹型台の角と接触した痕跡と考えられる。焼成は堅緻なものが多く、色調は灰白色～青灰色である。

なお3の狭端部端面には、ヘラによる線刻がある。「□(大カ) □〔 〕」と記され、その意味は不明である。

これら1 Bb1型式の平瓦は、恭仁宮出土のB型式平瓦と調整技法・厚い器壁等の共通点が見られる一方、法量がやや小さいくこと、人名の刻印がないことが相違点としてあげられる。凹面凸面の調整が、恭仁宮出土のものに比べ難い点から、1 Bb1型式の平瓦は、恭仁宮B型式の平瓦よりやや後出するものと考えられる。

**II Aa1型式** 凹面に模骨痕がなく、布口痕跡が残り、凸面は繩タキ目を残し、離れ砂がないもの。1個体分が復原できた。法量は全長34.0cm、広端幅不明、狭端幅21.9cm、最大厚1.6cmである。凹面凸面とともに糸切り痕跡が明瞭に残る。焼成はやや軟質で、色調は浅黄橙色～黄橙色である。

**II Ba1型式** 凹面に模骨痕がなく、布口痕跡を板ナデ調整で消し、凸面は繩タキ目を残し、離れ砂がないもの。出土個体は多く、法量・繩タキ目の粗細等から、さらに細分が可能である。法量は全長27.5～35.0cm、広端幅23.2～28.0cm、狭端幅20.5～25.2cm、最大厚1.3～2.3cmと幅広い。焼成は軟質～硬質があり、色調も灰白色・黄橙色・青灰色と多様である。一枚作りと考えられ、凹面の布口痕跡が側面に連続して及ぶものが1点ある。凸面の状況は狭端側のナデ調整を除くと、1 Bb1型式と共通しており、凹型台の使用が想定される。

**II Ba2型式** 凹面に模骨痕がなく、布口痕跡を板ナデ調整で消し、凸面は繩タキ目を残し、離れ砂があるものの。法量が判明するものは少ないが、4は全長33.1cm、広端幅26.0cm、狭端幅23.4cm、最大厚1.9cmである。凹面の板ナデ調整は横方向で、布口痕跡はやや残る。板ナデ調整は板状工具の木口跡が明瞭に残り、その幅が約6.5cmであることが見て取れる。凸面は繩タキ目が一部圧力で潰れ、離れ砂は繩タキ目間の凹部にも及ぶ。焼成はやや硬質で、色調は明青灰白である。

II Ba2型式は、そのほぼすべてが焼成室からの出土で、瓦窯の構築部材に利用されていない。瓦窯構築時に意図的に排除されたとは考えがたく、出土状況も考慮すると、この型式のものが奈良山51号窯の製品と考えられる。

これらの各型式別に出土点数を表で示した。重量比較ではII Ba1型式が約6割、I Bb1型式が約3割出土しており、その他は微量であることがわかる。また1 Bb1型式の1個体の重量は、他の個体に比べ重いことからも、

出土瓦の主体はII Bb1型式と言える。

以上のことから、瓦類は大きく次の4群に分けられる。

1群は、II Ba2型式を除く平瓦群で、瓦窯の構築部材に利用された一群。

2群は、瓦窯の焼成室出土の丸瓦群で、焼き台として利用された一群。

3群は、II Ba2型式の平瓦群で、製品の可能性が高い一群。

4群は、実測図2の丸瓦を含む一群で、瓦窯内から出土しない一群。

これら1～4群の瓦群うち、1群と3群はその性格から新旧関係である。2群は1群と3群いずれとも並行する可能性があるが、構築順序から、構築部材→焼き台→製品の新旧関係が成立立ち、時間的には1群→2群→3群となる。4群は3群と同時期、または別の瓦窯・遺構の遺物となる可能性があり、今後の検討を要する。

これらのことから、奈良山51号窯の年代は、有牀平窯の出現以前の瓦窯で、1群の平瓦のII Ba1型式が恭仁宮出土のB型式に後出するものとすれば、半城宮の瓦編年のⅢ期（8世紀中頃）頃に推定されよう。

なお遺跡踏査時に、瓦窯のある丘陵の西側斜面で、6291型式Aa種の軒丸瓦の破片を1点表面採集した。この瓦と奈良山51号窯との関係は不明だが、未知の瓦窯を含めた瓦窯群の年代を知る上で参考となろう。

#### V 調査所見

今回の調査では、奈良山第51号窯の位置とその構造が明らかになった。奈良山第51号窯は瓦の専業窯で、半地下式の無牀平窯である。焼成室半ばから煙出し部が残存しており、平面方形の焼成室と、その奥壁から天井へむかってのびる煙突3本が確認できた。奈良山丘陵上では40基近くの窯が確認されるものの詳細不明な場合が多く、51号窯は構造が判明する貴重な例と言える。操業時期や供給先は、軒瓦の出土がなく確定できないが、恭仁宮出土の平瓦と同技法の平瓦が出土していることから恭仁宮以後の8世紀中頃と考えられる。

また出土した平瓦は、数型式に分類できる。この内I Bb1型式の平瓦は、恭仁宮出土のB型式平瓦と製作技法が共通し、恭仁宮の瓦生産工房と奈良山瓦窯群との関係を知る手掛かりとなる。さらに今回の発掘区の北側で平成20年度に実施した発掘調査では奈良山第52号窯を確認しており、今後52号窯出土瓦の分類と分析が進めば、両瓦窯の造瓦工房組織の検討が可能となるであろう。

（中島和彦）

1) 京都府教育委員会 1984「恭仁宮跡 発掘調査報告 瓦窯」

## 29. 平成 18 年度実施試掘調査一覧

調査 次数	調査名	調査地	調査日	調査面積	届出・通知者／事業内容	届出受理番号
2006 -1	遺物散布地	押野町 689-1 の一部 他	H18.4.12 ~20	252m <sup>2</sup>	三和住宅㈱／宅地造成	H17:3297
	調査結果：奈良時代の瓦窯跡を 1 基検出。本年度に本調査 (NARA51 第 1 次) を実施した。					
2006 -2	右京二条四坊二坪	脇原町 306-1	H18.4.12	20m <sup>2</sup>	新里和不動産㈱／宅地造成	H17:3333
	調査結果：盛土下面下 1.1 ~ 1.5 m (標高 80.0 ~ 80.5m) で、奈良時代の柱穴・土坑、遺物包含層を検出した。切上工事は遺構面や包含層まで達しないことが判明した。					
2006 -3	右京三条四坊十坪	宝来町 957-1	H18.5.12	12m <sup>2</sup>	衛クリーク／店舗・事務所新築	H17:3467
	調査結果：盛土下面下 1.9 m (標高 79.6 m) で、奈良時代の柱穴と土坑を検出した。基礎掘削工事は遺構面まで達しないことが判明した。					
2006 -4	右京丸塚四坊四・五坪	丸塚三条丁目 867-1	H18.5.15 ~16	65m <sup>2</sup>	個人／宅地造成	H18:3007
	調査結果：以前の宅地造成の際に大幅な切土がなされており、遺構面は残存していないかった。					
2006 -5	無造跡地図第 1 分冊 5・3A 古墳	中山町 1868	H18.5.18 ~29	75m <sup>2</sup>	奈良市教育委員会教育長／平城西小学校占領調査事業	...
	調査結果：古墳ではないことが判明した。遺跡地図の登録を抹消した。					
2006 -6	左京三条六坊十坪・奈良町遺跡	高大町 1-3 他	H18.6.12 ~15	58m <sup>2</sup>	鶴南都銀行／店舗新築	H17:3305
	調査結果：盛土下面下 1.0 ~ 1.8 m (標高: 81.8 ~ 82.6 m) で、奈良時代から江戸時代の遺構を検出。本年度に本調査 (HJ 第 559 次) を実施した。					
2006 -7	左京三条三坊二坪	大宮町七丁目	H18.7.20	42m <sup>2</sup>	信和興産㈱／店舗新築	H18:3010
	調査結果：盛土下面下 1.8 m (標高: 63.3 m) で佐保川の旧河内内の堆積土を検出した。					
2006 -8	左京六条一坊十六坪	和木町 469-3 他	H18.8.10	12m <sup>2</sup>	衛フレンド／店舗新築	H18:3148
	調査結果：盛土下面下約 1.8 m (標高: 56.7 m) で、奈良時代の遺物包含層、遺構面、素掘溝を検出。基礎掘削工事は包含層まで達しないことが判明した。					
2006 -9	左京四条二坊二坪	四条大路一丁目 797-1 他	H18.9.13	10m <sup>2</sup>	衛ユネッセ／店舗新築	H18:3185
	調査結果：盛土下面下約 1.8 m (標高: 59.0 m) で、奈良時代の遺構面を検出。基礎掘削工事は包含層まで達しないことが判明した。					
2006 -10	右京八条二坊十六坪	七条一丁目 235-2	H18.9.20	15m <sup>2</sup>	個人／共同住宅新築	H18:3152
	調査結果：盛土下面下約 1.3 m (標高: 57.3 m) で、室町時代以前の河川の泥堆積層を検出した。					
2006 -11	右京二条一坊三坪	三条大路五丁目 257-5 他	H18.10.24	22m <sup>2</sup>	衛ギャラリーハウス／店舗新築	H18:3237
	調査結果：盛土下面下約 1.7 m (標高 65.7 m) まで掘り下げた。基礎掘削工事は盛土内におさまることが判明した。					
2006 -12	左京二条五坊十二坪・奈良町遺跡	並阪地方町 8-1、並阪町 2-3 他	H18.11.6 ~10	110m <sup>2</sup>	個人／店舗新築	H18:3220
	調査結果：奈良時代の遺構面 (標高 65.5 ~ 66.8 m) を検出。本年度に本調査 (HJ 第 571 次) を実施した。					
2006 -13	左京二条五坊十坪	法連寺 275	H18.12.21 ~22	62m <sup>2</sup>	個人／共同住宅新築	H18:3273
	調査結果：表土下約 2.2 m (標高: 約 69.6 m) で、佐保川の旧河内内の堆積土を検出した。					
2006 -14	南紀寺遺跡	南紀寺町二丁目 330-1	H19.1.10	20m <sup>2</sup>	個人／共同住宅新築	H18:3311
	調査結果：耕作せり下約 0.4 m (標高: 95.9 m) で古墳時代の柱穴と溝の一部を検出したため、基礎構造を変更して遺構を保存した。					
2006 -15	右京五条四坊十四・十五坪	五条西一丁目 1022-1 他	H19.1.22 ~23	20m <sup>2</sup>	衛ファーストホーム／宅地造成	H18:3313
	調査結果：耕地化の際に地山が切土による改変を受け、遺構の存する面は残っていなかった。					
2006 -16	左京四条三坊十九坪	三条栄町 198-1、198-4	H19.2.7 ~ 9	110m <sup>2</sup>	衛ユニホー／宅地造成	H18:3305
	調査結果：盛土下面下約 2.3 m (標高: 60.8 m) で、奈良時代の柱穴を検出したので、本年度に本調査 (HJ 第 573 次) を実施した。					

## 30. 平成 18 年度実施工事立会一覧

### (1) 平成 18 年度文化財保護法第 93 条 1、94 条 1 の埋蔵文化財届出書・通知に伴う工事立会

番号	届出・通知 受理番号	遺跡	届出地	届出・通知者	事業内容	状況	日付	立会結果
1	H17.3416-3417	右京北辺防西坊一坪	西大寺本町一丁目 707-5, 707-2, 708-3	ファースト住 建(株)	分譲住宅新築	宅地	18.4.3	GL - 0.5 mまで掘削、地山確認。
2	H17.3337	左京四条八坊七坪、 余良町遺跡	寺町 1-1	個人	賃貸寓所新築	宅地	18.4.3・ 14	GL - 0.5 mまで削削。地山確認。
3	H17.3300	左京・三条四坊十三・十四坪、 三条五坊三・四坪	芝辻町三丁目 70-7 ~ 87-2 ~ 76-16	大阪ガス(株)	ガス管埋設	道路	18.4.6・ 7	GL - 0.6 ~ 1.0 mまで掘削、地山の可塑性あり。
4	H17.3359	左京三条二坊五坪、三条大 路	三条大路一丁目 7-3	三菱自動車工業(株)	自販販売店 新築	宅地	18.4.6	GL - 1.5 mまで削削、盛土内。
5	H17.3412	紀寺跡	紀寺町 658-1, 658-2, 659	(株)日本中央 住販	宅地造成、分 譲住宅新築	宅地	18.4.7 18.6.21	GL - 0.5 mまで掘削、盛土内。 GL - 1.6 mまで掘削、1.0 m下で 地山確認。
6	H17.3300	左京二条四坊十三・十四坪、 三条五坊三・四坪	芝辻町三丁目 70-7 ~ 87-2 ~ 76-16	大阪ガス(株)	ガス管埋設	道路	18.4.13・ 14・17・ 18・20・ 21・25・ 27	GL - 0.8 ~ 0.9 mまで掘削、旧水 田耕作土内。
7	H17.3017	南紀守遺跡	南紀寺町一丁目 62-10	大阪ガス(株)	ガス管埋設	道路	18.4.8・ 12 ~ 14	GL - 0.8 mまで掘削、0.3 m下で 地山の可塑性あり。
8	H17.3411	右京六条二坊十四坪、西二 坊八路	六条二丁目 852-9, -13	オーエスハウ ジング(株)	分譲住宅新築	宅地	18.4.11	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。
9	H17.3370	元興寺跡境内、余良町遺跡	公納荘町 24 番	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.12	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。
10	H17.3378	左京・三条四坊十坪	大宮町一丁目 162-32	個人	賃貸住宅新築	宅地	18.4.14	GL - 1.2 mまで掘削、1.0 m下で 地山の可塑性あり。
11	H17.3413	左京六条四坊八坪	人安寺四丁目 1020-1, 1020-2, 1021	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.14	GL - 0.5 mまで削削、盛土内。
12	H17.3446	左京六条三坊九坪	大安寺西一丁目 123 番 15、228 番	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.18	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。
13	H17.3315	左京四条五坊五・六・ 十一・十四坪	-条小町～杉ヶ町	余良市長	下水道施設工 事	道路	18.4.19・ 21、5.22	GL - 1.6 ~ 3.5mまで掘削、地山 および奈良時代以前の地盤層確認。
14	H17.3475	右京六条二坊四坪	六条町 332	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.19・ 24	掘削なし。
15	H17.3407	南紀守遺跡	南紀寺町三丁目 286-2 ~ 284-4	大阪ガス(株)	ガス管埋設	道路	18.4.19・ 20、21	GL - 0.7 ~ 0.9 mまで掘削、旧水 田耕作土露頭、0.7 m下で瓦灰色粘 土層確認。
16	H17.3468	左京九条一坊一坪、東二坊 大路	西九条町 180、181、 182-2 の一帯	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.21	GL - 0.2 mまで削削、盛土内。
17	H17.3394 ~ 3396	右京七条三坊二坪	七条一丁目 386-1、-6、 7、-8	(株)福岡住 宅流通	分譲住宅新築	宅地	18.4.21	GL - 2.5 mまで掘削、0.2 ~ 0.3 m下で地山確認。
18	H17.3373	右京・三条四坊十六坪	若葉台四丁目 H 323 番 27	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.24	GL - 0.1 mまで削削、盛土内。
19	H17.3455	右京四条三坊一坪	平松一丁目 63 番 3	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.24	GL - 0.39 mまで掘削、盛土内。
20	H17.3463	南紀守遺跡とその周辺地	南紀寺町二丁目	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路	18.4.24・ 25、5.1 2・22	GL - 0.65 ~ 1.8 mまで削削、盛土・ 川水田耕作土内。
21	H17.3314	元興寺旧境内、余良町遺跡	勝町三番地	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.25	GL - 0.85 mまで削削、地山確認。
22	H17.3426	右京五条四坊六坪	平松一丁目 395 番 14	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.25	GL - 0.4 mまで削削、盛土内。
23	H17.3368	左京五条四坊十四坪・東四 坊大路	大安寺六丁目 793-1、 -8、-9、-10、-11	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.25	GL - 1.2 mまで削削、地山確認。
24	H18.3008	右京六条四坊一坪・西三坊 大路	六条二丁目 852-11、-12	オーエスハウ ジング(株)	分譲住宅新築	宅地	18.4.26	GL - 0.4 mまで削削、盛土内。
25	H17.3415	右京一各二坊三坪・西二 坊間東小路	二条町一丁目 2 番 40 号	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.26	GL - 0.2 mまで削削、盛土内。
26	H17.3477	古市城跡	古市町 87-14	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.26	GL - 0.4 mまで削削、地山確認。
27	H17.3376	右京北辺防二坊三坪 の一部	西大寺北町一丁目 272-1	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.26	GL - 0.2 ~ 0.4 mまで削削、盛土 内。
28	H17.3366	左京一各六坊七坪	法蓮町 1338-1	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.27	GL - 0.2 mまで削削、地山確認。
29	H17.3444	右京・三条一坊七坪、 菅原東遺跡	菅原町(西大寺南側) 開業事業地内 60 街区 8 番	個人	個人住宅新築	宅地	18.4.27	GL - 0.3 mまで削削、盛土内。
30	H17.3384	南紀守遺跡	南紀寺町三丁目 142-1 他 14 番	(株)フォレス トホーム	分譲住宅新築	宅地	18.4.28・ 6.21、 9.25	GL - 0.25 ~ 0.3 mまで削削、盛 土内。
31	H17.3436	右京北辺防三坊五坪	西大寺北町四丁目 412-1	個人	賃貸住宅新築	宅地	18.5.1	GL - 0.25 mまで削削、柱穴(?) 検出、地山確認。

番号	届出・通知 受理番号	道路	届出地	届出・通知者	事業内容	現況	日付	立会結果
32	H17.3489	右京四条・坊七坪・西一 坊大路	三条大路五丁目 103-2 の 一部、104	個人	賃貸住宅新築 水川	18.5.1・ 23	GL	0.3 mまで掘削、盛土内。
33	H17.3439	左京一条六坊一坪、 奈良町道跡	高天市町 37 番地	個人	分譲住宅新築 宅地	18.5.2	GL	0.4 mまで掘削、盛土内。
34	H17.3341	マエ塚古墳	山腰町 373-5	個人	個人住宅新築 宅地	18.5.8	GL	0.3 mまで掘削、盛土内。
35	H17.3445	右京二条四坊八坪	貴源町 323 番 8	個人	個人住宅新築 宅地	18.5.8	GL	0.3 mまで掘削、盛土内。
36	H17.3372	奈良町道跡	高畠町 1204-1	個人	個人住宅新築 宅地	18.5.9	GL	0.5 mまで掘削、盛土内。
37	H17.3453	左京二条七坊六坪、 奈良町道跡	平田突抜町 5-6	個人	個人住宅新築 宅地	18.5.10	GL	0.4 mまで掘削、盛土内。
38	H17.3434	左京四条三坊十二坪・東幡 河	二条松町 27-11 ~ 26-5	大阪ガス(株)	ガス管敷設 道路	18.5.11	GL	0.8 mまで掘削、一帯地盤 混湿。
39	H17.3431	左京五条五坊八坪	大森町 4-9番地 他	個人	事務所新築 宅地	18.5.12	GL	1.9 mまで掘削、1.3 m下で 地山確認。
40	H17.3448	左京二条七坊二坪、 奈良町道跡	山西永町 16-1 ~ 西深井 町 40-2	大阪ガス(株)	ガス管敷設 道路	18.5.12	GL	0.4 ~ 0.5 mまで掘削、盛土 内。
41	H17.3456	左京三条坊十・坪・三条 大路、東一坊大路、 奈良町道跡	三条大路二丁目 511-5 他 7 里	個人	店舗新築 宅地	18.5.15	GL	0.5 mまで掘削、盛土内。
42	H18.3004	左京四条四十坪	三条前町 67-5	(株)神名	分譲住宅新築 宅地	18.5.15	GL	0.2 mまで掘削、盛土内。
43	H17.3433	右京八条三坊十六坪	七条一丁目 29	大阪ガス(株)	ガス管敷設 道路	18.5.16	GL	0.8 mまで掘削、旧水田耕作 十内。
44	H18.3043	左京四条四坊四坪	大森西町 203 番 13	個人	個人住宅新築 宅地	18.5.16	GL	0.5 mまで掘削、盛土内。
45	H18.3009	左京三条二坊四坪・三条 路	三条大路一丁目 8-8	個人	自己用倉庫新築 宅地	18.5.16	GL	0.3 mまで掘削、盛土内。
46	H17.3472	左京四条四坊二坪	三条源川町 218-2	個人	共同住宅新築 駐車場	18.5.16	GL	0.3 mまで掘削、盛土内。
47	H18.3031	右京五条三坊九坪	平松二丁目 264-13	個人	個人住宅新築 宅地	18.5.18	GL	1.6 mまで掘削、1.5 m下で 地山確認。
48	H18.3055	右京五条四坊四坪	五条三丁目 860-9, 860-10, 838-20	協栄ホーム	分譲住宅新築 宅地	18.5.18	GL	0.6 mまで掘削、盛土内。
49	H18.3057	左京二条二坊十・十一坪、 三条間閣	法華寺町地内	奈良市民	下水道施設 工事	18.5.19 20・21	GL	1.35 mまで掘削、1.2 m下 で造構面および井戸ほか造筋を確 認、瓦・上蓋出土。
50	H18.3023	右京八条四坊八坪	七条西町一丁目 1055-8	ファースト住 建(株)	分譲住宅新築 宅地	18.5.22	GL	0.2 mまで掘削、盛土内。
51	H18.3022	右京八条四坊八坪	七条西町一丁目 1055-11	ファースト住 建(株)	分譲住宅新築 宅地	18.5.22	GL	0.2 mまで掘削、盛土内。
52	H17.3275	奈良町道跡	高野町 1237-3、6、7、 1237-16	個人	旅館新築 宅地	18.5.22	GL	0.4 mまで掘削、盛土内。
53	H18.3480	左京六坊一三条間閣	法華寺町北一丁目 1702-1 ~ 14	大阪ガス(株)	ガス管敷設 道路	18.5.22	GL	0.8 ~ 1.0 mまで掘削、盛土 内。
54	H17.3449	左京二条七坊六坪、 奈良町道跡	東包水町 68-1、68-2	個人	個人住宅新築 宅地	18.5.23	GL	0.6 mまで掘削、盛土内。
55	H17.3471	右京二条三坊十三坪	菅原町 263 番 2	個人	個人住宅新築 宅地	18.5.23	GL	0.3 mまで掘削、0.2 m下で 地山確認。
56	H18.3011	左京二条五坊九坪、 三条間閣	芝辻町 11-16	ファースト住 建(株)	分譲住宅新築 宅地	18.5.23	GL	0.4 mまで掘削、盛土内。
57	H18.3033	左京三条五坊十六坪、 奈良町道跡	芝辻町 855 番 3 の一部	個人	個人住宅新築 宅地	18.5.24	GL	0.2 mまで掘削、盛土内。
58	H18.3021	右京三条三坊十四坪	六条二丁目 852-10	オーエスハウ ジング(株)	分譲住宅新築 宅地	18.5.25	GL	0.3 mまで掘削、盛土内。
59	H17.3461	左京五条二坊十二坪	四条大路南町 355-3	個人	個人住宅新築 宅地	18.5.26	GL	0.5 mまで掘削、盛土内。
60	H18.3019	右京五条西一坊大路	四条大路五丁目 69 番 1 号	個人	店舗新築 宅地	18.5.26	GL	2.0 mまで掘削、床土内。
61	H17.3474	池田道跡	池田町 233 番、235 番、 236 番	青空駐車場 造成	水川	18.5.26	GL	0.45 mまで掘削、連構面ま で達していない。
62	H18.3070	左京三条七坊五坪	杉町 32-1	個人	店舗新築 宅地	18.5.29	GL	0.45 mまで掘削、盛土内。
63	H18.3034	右京二条二坊十五坪	西大寺見町一丁目 296-97	個人	個人住宅新築 宅地	18.5.29	工事先行、GL	0.3 mまで掘削。
64	H18.3085	奈良町道跡	高畠町 1217-7 の一部	個人	個人住宅新築 宅地	18.5.31	工事先行、GL	0.4 mまで掘削、盛土内。
65	H18.3027	左京三条四坊十四坪	大富町二丁目 127 番 62	個人	個人住宅新築 宅地	18.5.31	GL	0.4 mまで掘削、盛土内。
66	H17.3465	右京四条四坊二坪・西三 大路	平松一丁目 801 番、802 番、802 番 1 の一部	個人	個人住宅新築 宅地	18.6.1	GL	0.3 mまで掘削、盛土内。
67	H17.3454	右京六条二坊八坪	六条一丁目 620 番 2	個人	個人住宅新築 宅地	18.6.2	工事先行、GL	0.15 mまで掘削、 盛土内。
68	H17.3441	右京四条一坊十三坪	尼辻町 82 番 3、83 番 4	個人	個人住宅新築 宅地	18.6.2	GL	0.15 mまで掘削、盛土内。

番号	照出・通知 受理番号	実施	届出地	届出・通知者	事業内容	現況	日付	立会結果
60	H18.3061	山陵遺跡設置地	山陵町 631-2	個人	個人住宅新築	宅地	18.6.5	GL - 0.3 mまで掘削、地山確認、盛土内。
70	H18.3069	左京五条四坊十五・十八坪	八幡町 124-1、77、78-1	(株)大林組	工事用進人路設置	水川	18.6.5	施工なし。
71	H18.3032	左京三条東・坊大路	八条五丁目 437 番 38	個人	個人住宅新築	宅地	18.6.5	T事先行。(GL - 0.4 mまで掘削、盛土内。
72	H18.3035	右京七条四坊一・坪	七条西町一丁目 627-27	ファースト住建(株)	分譲住宅新築	宅地	18.6.6	GL - 0.6 mまで掘削、盛土内。
73	H17.3404	右京六条四坊十四坪、 六条山道遺跡	六条二丁目 11-43 ~ 15-2	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路	18.6.7	GL - 1.1 mまで掘削、盛土内。
74	H17.3451	薬師寺旧境内	西ノ京町 392-2 希光先	奈良市長	道路改修工事	削溝	18.6.8	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。
75	H17.3375	左京六条・坊大路	柏木町 148-7、153-2	個人	個人住宅新築	宅地	18.6.8	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。
76	H17.3020	左京四条三坊十四坪	二条松町 381 番 11	個人	個人住宅新築	宅地	18.6.8	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。
77	H18.3452	左京三条三坊十六坪	芝原町四丁目 6-3	個人	共同住宅新築	宅地	18.6.12	GL - 1.15 mまで掘削、地山確認。
78	H17.3354	南紀寺遺跡	南紀寺町二丁目 156-1 ~ 271-5	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路	18.6.12	GL - 0.05 ~ 0.9 mまで掘削、盛土内。
79	H18.3024	右京八条四坊一坪	七条西町一丁目 1055-24	ファースト住建(株)	分譲住宅新築	宅地	18.6.14	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。
80	H17.3435	右京四条四坊四坪	平野三丁目 213 番 1	NTT ドコモ	携帯電話基地局設置	宅地	18.6.16	GL - 2.3 mまで掘削、0.95 m下で地山確認。
81	H18.3012	右京六条三坊六坪・西三坊 坊開拓	六条一丁目 744-1、 749-1	(株) 綱谷商店	分譲住宅新築	宅地	18.6.16	GL - 0.45 mまで掘削、0.3 m下で地山確認。
82	H18.3058	左京三条四坊九坪	芝原町 2 丁目 6-21-1 ~ 4-22	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路	18.6.19	GL - 0.7 ~ 1.0 mまで掘削、旧木川排水、盛土内。
83	H18.3037	左京四条六坊六坪、 奈良町遺跡	南魚屋町 8-1	個人	賃貸住宅新築	宅地	18.6.19	GL - 0.4 mまで掘削、盛土内。
84	H18.3014	左京二条七坊十一坪、 奈良町遺跡	川久保町 10-2	個人	個人住宅新築	宅地	18.6.19	GL - 0.9 mまで掘削、地山確認。
85	H17.3479	右京五条四坊六・十一坪	平野四丁目 20-1 ~ 19-8	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路	18.6.19	GL - 0.55 ~ 0.8 mまで掘削、0.2 m下で地山確認。
86	H18.3076	左京六条四坊一坪	大安寺四丁目 1033-16、 17	大光建設(株)	分譲住宅新築	宅地	18.6.20	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。
87	H18.3075	左京六条四坊一坪	大安寺四丁目 1033-14、 15	大光建設(株)	分譲住宅新築	宅地	18.6.22	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。
88	H18.3061	マエ哥古墳	山陵町 374 番 3、375 番 1	個人	個人住宅新築	宅地	18.6.22	GL - 0.2 mまで掘削、0.2 m下で地山確認。
89	H18.3042	東紀寺遺跡	東紀寺町一丁目 60 の 1 共	奈良女子大学 防災ネット我 校	中学校	18.6.23	GL - 4.0 mまで掘削、1.8 m下で地山確認。	
90	H18.3462	西陣寺境内	西大寺東町二丁目 1-52 ~ 西大寺家町 2-13	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路	18.6.23	GL - 0.5 mまで掘削、盛土内。
91	H17.3466	左京一条七坊九坪	川上町 576-4、578-8	個人	事務所付賃人 住宅新築	宅地	18.6.27	GL - 1.0 mまで掘削、盛土内。
92	H18.3082	左京四条四坊四坪	大森西町 198-15	個人	個人住宅新築	宅地	18.6.28	GL - 0.5 mまで掘削、盛土内。
93	H18.3064	左京一条四坊十六坪・二条 大路	芝原町二丁目 147-1	個人	個人住宅新築	宅地	18.6.28	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。
94	H18.3066	東市跡擬定地 (左京八条二・ 坊六坪)	各町 579-1 の一部	個人	賃貸住宅新築	宅地	18.6.29	GL - 0.5 mまで掘削、一部 GL - 1.0 mまで地盤改良、もと盛土内。
95	H18.3429	左京一条東西坊大路	法蓮町 701-4 番地	個人	個人住宅新築	宅地	18.7.3	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。
96	H18.3097	右京北辺四坊七坪	西大寺東町一丁目 153-4	個人	共同住宅新築	宅地	18.7.4	GL - 0.4 mまで掘削、地山確認。
97	H18.3073	右京二条三坊八坪	西大寺芝辻一丁目 2490-11	個人	個人住宅新築	宅地	18.7.6	GL - 0.4 mまで掘削、盛土内。
98	H18.3065	奈良山第 44 号窓 井	中山町 1738 番 1、1860 番 1	個人	個人住宅新築	宅地	18.7.7	GL - 0.8 ~ 1.8 mまで掘削、0.4 m下で地山確認。
99	H18.3074	左京六条四坊一坪	大安寺四丁目 1033-12、 13 (5 号地)	大光建設(株)	分譲住宅新築	宅地	18.7.10	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。
100	H17.3391	長谷遺跡	佐保古西町 95 番 他	丸紅(株)	マシンシャン研 磨	駐車場	18.7.10	GL - 0.8 mまで掘削、盛土内。
101	H18.3056	右京五条四坊四坪	五条一丁目 860-3、 860-4、868-33	協栄ホーム	分譲住宅新築	宅地	18.7.10	GL - 0.5 mまで掘削、盛土内。
102	H18.3447	右京北辺四坊三坪・一条 北大路	四大寺宝ヶ丘 2-17	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路	18.7.11	GL - 1.2 mまで掘削、盛土内。
103	H18.3080	右京北辺四・坊大路	山陵町 58	個人	ガレージ・門 扉	宅地	18.7.14	GL - 1.0 mまで掘削、0.7 m下で地山確認。
104	H18.3018	西陵寺境内	西大寺東町二丁目 1-56	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路	18.7.19	GL - 1.4 mまで掘削、1.1 m下で地山確認。
105	H18.3109	左京五条四坊六坪	大安寺七丁目 698 番 1 の一部	個人	個人住宅新築	宅地	18.7.21	GL - 0.1 mまで掘削、盛土内。
106	H18.3071	右京一条西三坊大路・西大 寺旧境内	西大寺新町 520、 521-1 の各 部	個人	賃貸住宅新築	宅地	18.7.21	GL - 0.1 mまで掘削、盛土内。

番号	届出・通知受理番号	進跡	届出地	届出・通知者	事業内容	現況	日付	立会結果
107	H18.3041	左京三条二坊三坪	大宮町四丁目 465-10	奈良ハウジング(株)	事務所新築 店舗・事務所付住宅	宅地	18.7.24	GL - 1.2 mまで掘削、盛土内。
108	H18.3149	左京四条三坊十五坪	三条浜川町 6番 21号	山口機械(株)	店舗・事務所付住宅	宅地	18.7.24	GL - 1.2 mまで掘削、盛土内。
109	H18.3029	右京三条四坊二坪	宝来三丁目 872-1、873-876	(株) サークルKサンクス	店舗新築 個人住宅新築	宅地	18.7.24	GL - 1.0 mまで掘削、盛土内。
110	H18.3100	左京七坊五条大路	紀伊町 663-4	個人	個人住宅新築	宅地	18.7.25	GL - 0.4 mまで掘削、盛土内。
111	H18.3091	左京三条三坊八坪	三条柴町 153番 8	個人	個人住宅新築	宅地	18.7.27	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。
112	H18.3101- 3102-3103	右京三条西四坊大路	宝来町丁目 648-1 の一部	アースネット住建(株)	分譲住宅新築	宅地	18.7.28 9.6.8	GL - 1.4 mまで掘削、地山確認。
113	H18.3397	右京三条二坊二坪	三条大路南五丁目 4-21	本源寺	宗教施設新築	寺院境内地	18.7.28	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。
114	H18.3458	右京五条二坊十坪	五条町 360-2	個人	個人住宅新築	宅地	18.7.28	削削なし。
115	H18.3145	右京北辺三坊二坪	西大寺新町一丁目 172-2	個人	個人住宅新築	宅地	18.7.31	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。
116	H18.3094	左京三条二坊二坪	四条大路南一丁目 780番 4	個人	個人住宅新築	宅地	18.7.31	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。
117	H18.3129	左京三条六坊一坪、奈良町通跡	辰巳新原町 29番	個人	個人住宅新築	宅地	18.8.1	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。
118	H18.3128	左京三条五坊七坪(記勝長家跡)	法雲町 267-13	個人	個人住宅新築	宅地	18.8.2	工事先行。
119	H18.3115	元興寺跡境内	薬師寺町内(私道)	奈良市公共下水道管理者	水道管改修工事	私道	18.8.3- 20	GL - 1.2 mまで掘削、盛土内。
120	H18.3115	元興寺跡境内	勝南町院地内(私道)	奈良市公共下水道管理者	水道管改修工事	私道	18.8.3	GL - 0.8 mまで掘削、盛土内。
121	H18.3016	元興寺跡境内	龍町 8 番 1	個人	個人住宅新築	宅地	18.8.4	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。
122	H18.3163	右京三条西四坊四坪	五条二丁目 860-1、860-2、888-4	協栄ホーム	分譲住宅新築	宅地	18.8.7	GL - 0.5 mまで掘削、盛土内。
123	H18.3130	右京三条西一坊大路	二条大路南五丁目 384-1、382-2	個人	店舗新築	宅地	18.8.8	GL - 0.9 mまで掘削、盛土内。
124	H18.3137	左京七条四坊六坪	東九条町 1136-23	個人	個人住宅新築	宅地	18.8.11	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。
125	H18.3036	下深川遺跡	下深川町 928番	(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ関西	無線電話基地局設置	畠地	18.8.11	GL - 0.7 mまで掘削、地山確認。
126	H18.3092	左京三条五坊十六坪	芝町 855	個人	個人住宅新築	宅地	18.8.16	GL - 0.4 ~ 0.5 mまで掘削、0.4m下で地山確認。
127	H18.3090	興福寺跡境内	中筋町 5番 1	個人	店舗新築	宅地	18.8.17	GL - 0.9 mまで掘削、江戸時代の歴史層確認。
128	H18.3141	奈良町通跡	紀伊町 835-1 倍	個人	個人住宅新築	宅地	18.8.20	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。
129	H18.3422- -2	右京三条三坊十一坪	菅原町 4-1、5-1、5-2、6-1、7-1	(株)ベルコ	集会場新築	被覆地	18.8.21 ~23	GL - 0.85 mまで掘削、造構面、造霧面、涼闇のうえ、基礎床をGL - 0.65 mに変更。
130	H18.3150	右京六条西四坊坊間路	七条西町一丁目 627-40	個人	個人住宅新築	宅地	18.8.21	GL - 0.7 mまで掘削、盛土内。
131	H18.3106	左京三条二坊十一坪(田村 第跡)	四条大路南一丁目 27-30	個人	個人住宅新築	宅地	18.8.21	GL - 0.4 ~ 0.2 mまで掘削、盛土内。
132	H18.3146	奈良町通跡	紀伊町 841番 60、841番 62	個人	個人住宅新築	宅地	18.8.22	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。
133	H18.3086	左京三条二坊十一坪(田村 第跡)	四条大路一丁目 1000番 54	個人	個人住宅新築	宅地	18.8.22	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。
134	H18.3089	左京六条二坊十一坪	八条五丁目 437-31	個人	個人住宅新築	宅地	18.8.22	GL - 0.5 mまで掘削、盛土内。
135	H18.3134	右京六条三坊六坪	六条一丁目 713-1 ~ 717-6	大阪ガス	ガス管設施	道路	18.8.24	GL - 0.7 mまで掘削、水道管破損で土層確認できず。
136	H18.3110	右京三条一坊八坪	四条大路四丁目 72-1、 72-3	個人	個人住宅新築	宅地	18.8.28	側削は行わず、地下構体に影響なし。
137	H18.3123	右京北辺三坊一坪	秋葉町 215番 21	個人	個人住宅新築	宅地	18.8.31	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。
138	H18.3155	右京五条四坊八条	平松四丁目 493-7	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.4	GL - 0.3 mまで掘削、地山確認。
139	H18.3143	左京六条軒四坊人路	大安寺一丁目 1212-1	個人	個人住宅新築	駐車場	18.9.4	I.事先行 GL - 0.35 mまで掘削、盛土内。
140	H18.3127	右京三条四坊七坪	音源町 573-2	(株)アコム	ボール設置	宅地	18.9.4	GL - 1.5 mまで掘削、木川耕作上を確認。
141	H18.3180	右京三条一坊八坪・西一坊 坊間路	二条大路南四丁目 218-23番地	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.6	掘削なし。
142	H17.3476	左京三条一坊十一坪	三条大路第二丁目 2-15	個人	事務所新築	宅地	18.9.6	GL - 1.2 mまで掘削、盛土内。
143	H18.3168	右京八条三坊九坪	七条一丁目 545-2	秋田工務店 (株)	分譲住宅新築	宅地	18.9.7	I.事先行。

番号	届出・通知受理番号	遺跡	新出地	届出・通知者	事業内容	現況	日付	立会結果
144	H18.3040	赤松根穴群	西大寺町四丁目 556-19, 26 号 19 番	西京法人平和 会	病院増築	宅地	18.9.7	GL - 1.5 m まで掘削、地山確認。
145	H18.3162	右京五条三坊十坪	平松：丁目 264 番地 21	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.11	GL - 1.4 ~ 1.5 m まで掘削、1.1 m 下で地山確認。
146	H18.3126	西人寺旧境内	西大寺本町 209-8, -11	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.11	GL - 0.6 ~ 0.4 m まで掘削、盛土。 内。
147	H18.3159	左京五条二坊三坪 の一部	西条大路南町 387 番 4	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.11	GL - 0.3 m まで掘削、盛土内。
148	H18.3116	右京二条二坊十一条	西大寺国見町二丁目 300-7	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.11	GL - 0.2 m まで掘削、盛土内。
149	H18.3171	左京五条二坊十坪	西条大路南町 8-4	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.12	GL - 0.4 m まで掘削、盛土内。
150	H18.3151	京左七条一坊一坪	柏木町 29-30	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.12	GL - 0.3 ~ 0.4 m まで掘削、盛土 内。
151	H18.3107	左京二条四坊十三坪・東四 坊大路	左近町三丁目 75-3	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.13	GL - 0.5 ~ 1.0 m まで掘削、水田 耕作土内。
152	H18.3165	右京三条四坊一坪	西大寺町二丁目 2057-1	三興建設	分譲住宅新築	宅地	18.9.14	GL - 0.5 m まで掘削、邊構面・地 山確認。
153	H18.3167	左京三条一坊四坪	西条大路三丁目 458-1, 461-2	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.14	GL - 0.4 m まで掘削、邊構面・地 山確認。
154	H18.3148	左京六条一坊十六坪	柏木町 469-3, 470-1, 471	(株)フレンド	店舗新築	駐車場	18.9.14	GL - 1 m まで掘削、盛土内。
155	H18.3157	左京二条七坊三坪、 奈良町通跡	北魚屋西町	奈良女子大学 長	受水槽設置	荒廃地	18.9.15	GL - 0.95 m まで掘削、盛土内。
156	H18.3172	右京五条三坊二坪	五条 - 丁目 481 番 109	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.15	GL - 0.1 m まで掘削、盛土内。
157	H18.3173	左京八条二坊四坪	吉町 42	個人	共同住宅新築	宅地	18.9.19	GL - 0.7 m まで掘削、盛土内。
158	H18.3160	右京七条二坊十四坪	七条一丁目 343 番 1	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.19	GL - 0.35 ~ 0.5 m まで掘削、近 世以降の瓦礫片を含む茶色粘土。
159	H18.3093	左京五条六坊三丁、四丁 (木等拠定地)・五条通開削 小路	西木辻町 110 番 5, 10, 12, 21	個人	店舗新築	宅地	18.9.20	工事先行。
160	H18.3176	右京二条四坊一坪	貴原町 668-6	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.21	GL - 0.31 m まで掘削、盛土内。
161	H18.3104	右京三条三坊十三坪	七条西町一丁目 627-51	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.27	GL - 0.3 m まで掘削、地山確認。
162	H18.3190	左京二条七坊十五坪	中御門町 5-1	個人	分譲住宅新築	宅地	18.9.26	GL - 0.1 m まで掘削、疊上内。
163	H18.3191	左京二条七坊十五坪	中御門町 5-6	個人	分譲住宅新築	宅地	18.9.26	GL - 0.1 m まで掘削、盛土内。
164	H18.3184	左京六条一坊十三坪	八条五丁目 437-32	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.28	GL - 0.3 m まで掘削、盛土内。
165	H18.3166	左京三条一坊二坪	八条大路南三丁目 27 ~ 1-18	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路	18.9.28	GL - 0.7 m まで掘削、水田耕作土 内。
166	H18.3044	左京六条一坊十三坪	八条五丁目 437-37	個人	個人住宅新築	宅地	18.9.28	GL - 0.4 m まで掘削、盛土内。
167	H18.3169	左京五条七坊五坪・五条大 路	勝原町 181-3, 181-12	個人	個人住宅新築	宅地	18.10.1	GL - 1.5 m まで掘削、地山確認で きす。
168	H18.3140	朱雀大路	四条大路三丁目 3 番 83 号	個人	個人住宅新築	宅地	18.10.2	GL - 0.2 m まで掘削、盛土内。
169	H18.3179	右京三条三坊八坪	皆原町 44-1, 44-3, 46-2, 46-3, 46-5	(株)ムラクモ コーポレーション	事務所新築	宅地	18.10.2 ~ 13, 11, 6, 7	GL - 4.6 m まで掘削、谷壁土内。
170	H18.3195	右京二条四坊十五坪・西 大路	右京東四丁目 242-1, 2-4, 243-4, 285-18	個人	宅地造成	宅地	18.10.3 ~ 10	GL - 0.8 m まで掘削、地山確認。
171	H18.3099	左京四条一坊九坪	四条大路一丁目 841-1	日立ブリッジ 奈良県敗戦(株)	ボールサイン 設置	宅地	18.10.10	GL - 1.1 m まで掘削、盛土内。
172	H18.3132	右京六条一坊一坪・六条 西ノ町通小路	西ノ町通 146-1	(株)ファジオ ードシステム	店舗新築	水田	18.10.10	GL - 0.6 m まで掘削、地山確認。
173	H18.3117	東市跡推定地(左京八条 一坊十二坪)	東九条町 435 番地の一 部	事務所付倉庫 新築	水田	18.10.10 ~ 14, 11, 9	GL - 0.3 ~ 0.4 m まで掘削、盛土 内。	
174	H18.3183	右京四条一坊十六坪(禪院 寺推定地)	四条人路五丁目 425	個人	事務所建設	宅地	18.10.11	GL - 1.7 m まで掘削、1.1 m 下で 地山および遺構確認。
175	H18.3194	元興寺旧境内・奈良町通跡	花園町 25	個人	個人住宅建設	宅地	18.10.13	GL - 0.4 m まで掘削、13 世紀頃 の瓦礫片出土、時期不明の上坑確認。
176	H18.3161	奈良町通跡	高瀬町 826 番地の一部	個人	賃貸住宅新築	宅地	18.10.13	GL - 0.4 m まで掘削、13 世紀頃 の瓦礫片出土、時期不明の上坑確認。
177	H18.3258	左京八条二坊二坪	八条町 390-1, 3-391 の 一部、柏木町 463-3 の 一部	フクダ不動産	店舗新築	宅地	18.10.10 ~ 12, 17	掘削の工事実施につき届出提出の 指示、GL - 1.5 m まで掘削、盛土内。
178	H18.3178	右京四条一坊一坪	平松一丁目 100-3 ~ 6, 872-1, 873	個人	個人住宅新築	宅地	18.10.18	GL - 0.5 m まで掘削、地山らしき 層を確認。
179	H18.3234	南紀守遺跡	南紀守町 3 丁目 142-28	(株)フォレス トホーム	分譲住宅新築	宅地	18.10.20	GL - 0.3 m まで掘削、盛土内。
180	H18.3213	秋櫛寺旧境内	秋櫛町 778 番 11, 778 番 9	奈良市消防局 長	地下式防火水 槽設置	駐車場	18.10.20, 24	GL - 0.55 m まで掘削、地山確認。

番号 受理番号	道路	届出地	届出者	事業内容	現況	日付	立会結果
181 H18.3135	左京三条五坊八坪、三条大路、東二坊坊間西小路	三条本町 地内	奈良市公共下水道管理課	水道管敷設	18.10.24	GL - 1.5 ~ 2.6 mまで掘削、1.2 m下で造路向建設、1.8 m下で地山確認。	
182 H18.3177	左京四条四坊三坪	三条大宮町 371-6、-7、372-2、-3	(社)奈良県農業技術普及センター	事務所新築	宅地	18.10.24	GL - 0.93 mまで掘削、水田耕作土内。
183 H18.3231	左京一条六坊二・三坪	法蓮町 1269-1	個人	分譲住宅新築	宅地	18.10.24	GL - 0.5 mまで掘削、掘削底で地山および奈良時代遺構・土器確認。
184 H18.3233	左京二条五坊七坪（紀勝長家跡）	法蓮町 267-2	個人	個人住宅新築	宅地	18.10.25	GL - 1.0 mまで掘削、盛土内。
185 H18.3206	左京二条五坊八坪	法蓮町 304-6	個人	個人住宅新築	宅地	18.10.27	GL - 0.4 mまで掘削、盛土内。
186 H18.3209	右京六条四坊十四坪	六条西町三丁目 1480-25 合地地所（株）	分譲住宅新築	宅地	18.10.27	GL - 0.7 mまで掘削、盛土内。	
187 H18.3207	南紀寺遺跡	南紀寺町 丁目 176-181-3 の各一部	個人	個人住宅新築	駐車場	18.10.31	GL - 0.4 mまで掘削、旧水田耕作土内。
188 H18.3199	南紀寺遺跡	南紀寺二丁目 154-8	(株)アーネストワン	分譲住宅新築	宅地	18.10.31	GL - 0.15 mまで掘削、盛土内。
189 H18.3271	左京四条二坊十五・十六坪、三条塩北小路	三条川町	東京市長	下水道施設工事	道路	18.11.6	GL - 1.6 mまで掘削、地山の可能性あり。
190 H18.3181	右京二条西四坊大路	音原町 687 番8、679 番1 の一部	個人	個人住宅新築	畠地	18.11.7	GL - 0.2 mまで掘削、表土層内。
191 H18.3152	左京一条坊二・三・四・五・六・七・八坪、東二坊間東小路・一条南北大路、東三坊大路	法華寺町 1351 番地	奈良市長	一棟校門・石積・堀の移設、学校用地、文庫蔵設置、地・歩道	18.10.10	GL - 0.6 ~ 1.8 mまで掘削、盛土内。	
192 H18.3188	左京八条東三坊大路	東九条町 497-2、3、5	個人	個人住宅増築	宅地	18.11.13	GL - 0.75 mまで掘削、引水川耕作土内。
193 H18.3192	朱雀大路	六条町 5-1	個人	個人住宅新築	宅地	18.11.13	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。
194 H18.3252	右京一条西四坊大路	西大寺新池町 1709-3	個人	個人住宅新築	宅地	18.11.14	GL - 0.1 mまで掘削、盛土内。
195 H18.3299	左京山東六条大坊路、奈良町山跡	保飯町 12-1、51、11-1	店舗建設	宅地	18.11.15	もじりどとのセンター・街頭協同組合	GL - 0.3 mまでクラック化。
196 H18.3067	東市野被定地（左京八条三坊六・七・八・九・十・十一・十二・十三坊間路）	杏町 579-1 の一部	個人	賃貸住宅新築	宅地	18.11.16	GL - 0.45 mまで掘削、盛土内。
197 H18.3219	左京六条・坊四坪	八条五丁目 425-1・426 の一部	個人	共同住宅新築	駐車場	18.11.16	GL - 0.4 mまで掘削、水田耕作土内。
198 H18.3235	南紀寺遺跡	南紀寺町 丁目 142-18	個人	分譲住宅新築	宅地	18.11.17	GL - 0.1 mまで掘削、盛土内。
199 H18.3144	左京五条六坊十坪、奈良町遺跡	西木辻町 295	ファースト住建（株）	分譲住宅新築	宅地	18.11.17	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。
200 H18.3230	右京二条二坊五坪	尼辻北町 2270 番地	近畿日本鉄道（株）	鉄道施設増築	鉄道施設	18.11.17	GL - 0.85 mまで掘削、盛土内。
201 H18.3196	左京四条四坊三坪	三条拾町 371-7	個人	個人住宅新築	宅地	18.11.20	GL - 0.45 mまで掘削、盛土内。
202 H18.3204	左京四条四坊十一坪	三条大宮町 347-21	個人	個人住宅新築	宅地	18.11.20	GL - 1.4 mまで掘削、GL - 0.8 mで水田耕作土確認。
203 H18.3156	遺物貯蔵地（県遺跡図 1B-169）	北之町 35-1、36-1、37-1 の各一部	(有)ネオフィールド	店舗新築	宅地	18.11.21	GL - 0.9 mまで掘削、盛土内。
204 H18.3243	右京五条西二坊大路	奈良市長	道路整備工事	宅地	18.11.21	GL - 0.85 mまでの土層を確認、最下部は床土内。	
205 H18.3158	左京九条一坊八坪・八条東一坊大路	西九条町 5-25	共栄社化（株）	液中燃焼式魔除除害装置	工場	18.11.21	GL - 0.85 mまで掘削、盛土内。
206 H18.3142	東市野被定地（左京八条三坊十一坪）	東九条町 440-1 の一部	個人	賃貸住宅新築	水田	18.11.21	GL - 0.35 mまで掘削、床土内。
207 H18.3208	興福寺境内	登大路町 35	(株)ケイ・オブティコム	光ファイバーケーブル敷設、ボール設置	宅地	18.11.21	GL - 0.45 ~ 0.6 mまで掘削、盛土内。
208 H18.3187	平松寺、右京四条四坊十一・十二坪	平松三丁目 665 番 1 の一部	個人	個人住宅新築	宅地	18.11.22	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。
209 H18.3265	左京三条五坊十一・十二坪	西木辻町 88 → 新町 135-1	大阪ガス（株）	ガス管敷設	道路	18.11.24	GL - 1.0 mまで掘削、盛土内。
210 H18.3216	左京四条一坊一坪・東一坊一十条間西小路	平松三丁目 590-42、48-571-4、-5、931、936	個人	共同住宅新築	宅地	18.11.27	GL - 1.2 mまで掘削、地山確認。
211 H18.3239	右京五条四坊十坪	西大寺北町 1-丁目 386-4 の一部、386-5	ファースト住建（株）	分譲住宅新築	宅地	18.11.27	GL - 0.5 mまで掘削、地山確認。
212 H18.3205	右京北辺坊二坊六坪	古市町 1843 番 6	個人	個人住宅新築	宅地	18.11.27	GL - 1.25 mまで掘削、茶色地點土層。
213 H18.3215	古市城跡	古市町 561 番 11	個人	個人住宅新築	宅地	18.11.28	GL - 0.2 ~ 0.6 mまで掘削、盛土内。
214 H18.3296	左京四条六坊二坪、奈良町遺跡	三条町 561 番 11	個人	個人住宅新築	宅地	18.11.28	GL - 0.5 mまで掘削、近世遺物包含層確認。

順 号	届出・通知 交付番号	地點	研出地	届出・通知者	事業内容	現況	日付	立会結果
215	H18.3211	左京四条四坊七坪	三条浜田町 9-10 ~ 9-17	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路 29	18.11.28 GL - 0.7 ~ 1.0 mまで掘削、溝上内。	
216	H18.3290	西陣寺境内	西大寺東町二丁目 1番 31 号	(株) 三和地所 建設	モルハウス 付販売事務所	宅地	18.11.29	GL - 0.6 mまで掘削、盛土内。
217	H18.3084	左京三条三坊七坪	大宮町六丁目 5-8、5-9	(株) 大阪治解	共同住宅新築	宅地	18.11.29, 19.1.15	GL - 4 mまで掘削。
218	H18.3223	右京北道四坊五坪	西大寺宝ヶ丘 796 番 4,	個人	個人住宅新築	宅地	18.11.30	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内、西 端で GL - 0.6 mまで掘削、地山 らしき層を検出。
219	H17.3304	右京七条一坊十五坪	六条町 98-1、-2	医療法人社団仁 会	病院増築	施駐車場	18.11.30	GL - 0.3 ~ 0.45 mまで掘削、盛 土内。
220	H18.3277	右京六条四坊十四坪、 六条七道跡	六条西三丁目 1480-8, 9,-14	合意地所(株)	分譲住宅新築	宅地	18.12.1 ~ 4, 7	GL - 0.45 ~ 1.4 mまで掘削、地 山確認。
221	H18.3248	右京六条四坊十六坪、 六条八路	六条西四丁目 1-24	(株) 周誠	分譲住宅新築	宅地	18.12.4 ~ 5	GL - 0.59 mまで掘削、地山確認。
222	H18.3304	左京三条六坊十一坪、 三条町遺跡	小西町 21-1 他	近畿日本鉄道 (株)	店舗新築	宅地	18.12.4	GL - 1.3 mまで掘削、地山確認。
223	H18.3228	左京八条四坊五坪	東九条町 603 番地	個人	個人住宅新築	宅地	18.12.4 ~ 19	GL - 0.8 mまで掘削、旧水田床 内。
224	H18.3305	左京四条三坊十九坪	三条安町 198-1、198-4	(株) ユニホー ル	マンション新 築	宅地	18.12.5 ~ 7	GL - 1.45 mまで掘削、地山確認。
225	H18.3226	左京七条一坊一坪	八条八丁目 437-11	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路	18.12.8	GL - 1.75 mまで掘削、地山確認。
226	H18.3298	左京五条五坊四、六坪・五 坊北側西小路	西本辻町 他 地内	奈良市長	公共下水道 渠造工事	道路	18.12.4 ~ 5, 6 · 7 11 · 13 · 20	GL - 1.6 ~ 2.3 mまで削削、水田 耕作土確認、地山らしさ土石確認。
227	H18.3276	左京四条一坊一坪・三條大 町内	大宮町四丁目 ~ 三条川口 東内	奈良市水道事 業管理課	水道管 改良工事	道路	18.12.11 ~ 19	GL - 1.36 mまで削削、盛土内。
228	H18.3281	右京北道二坊八坪・北道 坊北側京橋跡	秋篠早川町 209 番 43	ファースト住 建(株)	分譲住宅新築	宅地	19.12.12	GL - 0.65 mまで掘削、盛土内。
229	H18.3308	右京北道三坊一坪	西大寺新町 - 1 丁目 130-3	個人	個人住宅新築	宅地	18.12.13	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。
230	H18.3297	奈良町遺跡	紀伊町 595-10、595-11	日本不動産 (株)	分譲住宅新築	宅地	18.12.14	GL - 0.1 mまで掘削、盛土内。
231	H18.3284	左京五条五坊七・八坪	大嶺町 ~ 西木辻町 地内	奈良市水道事 業管理課	水道管 改修工事	道路	18.12.18	GL - 0.5 mまで掘削、盛土内。
232	H18.3297	奈良町遺跡	紀伊町 595-10、595-11	日本不動産 (株)	分譲住宅新築	宅地	18.12.18	GL - 0.05 mまで掘削、盛土内。
233	H18.3292	左京三条二坊十三坪	人安寺西一丁目 342 番 地	奈良市長	ブルーモール 構造変更、学校 改築	用地	18.12.18	GL - 1.2 mまで掘削、盛土内。
234	H18.3295	左京五条五坊六坪	西木辻町 64-1	個人	個人住宅新築	宅地	18.12.19	GL - 1.0 mまで削削、旧水田耕作 土内。
235	H18.3293	左京五条五坊四・五・六坪、 五坊坊西側小路	西木辻町 ~ 大安寺五丁目 地内	奈良市水道事 業管理課	水道管 改良工事	道路	18.12.19 ~ 20	GL - 1.0 mまで掘削、盛土内。
236	H18.3318	元興寺境内	元興寺町 46 番	個人	個人住宅新築	宅地	18.12.19	GL - 0.4 mまで掘削、盛土内。
237	H18.3267	右京五条四坊一坪	平松三丁目 462-7	ファースト住 建(株)	分譲住宅新築	宅地	18.12.19 ~ 28	GL - 0.4 mまで掘削、盛土内。
238	H18.3295	左京五条五坊六坪・五条柔 閣西小路	西木辻町 64-1	個人	個人住宅新築	宅地	18.12.19 ~ 19.1.15	GL - 0.25 ~ 0.3 mまで掘削、盛 土内。
239	H18.3264	右京五条六坊十二坪、 奈良町遺跡	小太郎町 19-4	個人	個人住宅新築	宅地	18.12.20	I.事先行、GL - 0.3 mまで削削、 盛土内に収まっている範囲。
240	H18.3246	左京一条五坊一坪	法蓮町 251-2, 251-5	個人	共同住宅新築	荒廃地	18.12.21	GL - 0.1 ~ 0.5 mまで掘削、盛土 内。
241	H18.3226	南紀寺遺跡	南紀寺四丁目 129-1 ~ 823-1	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路	18.12.22	GL - 0.85 mまで掘削、盛土内。
242	H18.3247	平清水北城跡	平清水町 420 番、426 番	個人	個人住宅新築	宅地	18.12.22	I.事先行 GL - 0.1m 剥削掘削。
243	H18.3186	古市城跡	古市町 1991 番 6	個人	個人住宅新築	宅地	18.12.25	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。
244	H18.3280	左京二条五坊一坪	法蓮町 316-1	個人	個人住宅新築	宅地	18.12.25	GL - 0.3 mまで掘削、旧水田耕作 土内。
245	H18.3314	左京二条六坊十四坪、 奈良町遺跡	(社) 佐保公 會	倉庫改築	宅地	18.12.25	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。	
246	H17.3206	左京三条九坊十九坪	人安町 9-1、-3、-4、-5	個人	賃貸住宅新築	宅地	18.12.26	GL - 0.3 mまで掘削、旧水田耕土 P3.
247	H18.3251	左京二条六坊六坪	法蓮町 10-6	個人	共同住宅新築	宅地	18.12.27	GL - 0.4 mまで掘削、盛土内。
248	H18.3303	左京五条二坊五坪	四条大路南町 368-11	個人	個人住宅新築	宅地	18.12.27	GL - 0.5 mまで掘削、盛土内。
249	H18.3338	右京北道二坊七坪	西大寺新町一丁目 1-15	個人	個人住宅新築	宅地	18.12.28	GL - 1.4 mまで削削、青灰色泥質 砂層(秋篠川の氾濫堆積層) 遷走。
250	H18.3268	右京五条四坊一坪	平松一丁目 462-5	ファースト住 建(株)	分譲住宅新築	宅地	18.12.28	GL - 0.4 mまで削削、盛土内。

番号	届出・通知 受理番号	進路	届出地	届出・通知者	事業内容	現況	日付	立会結果
251	H18.3289	右京六条四坊十四坪、六条 山東通跡	六条西三丁目 1480-10, -15,-19,-20	総合地所(株)	分譲住宅新築	宅地 17	19.1.9 - 19.1.10	GL - 0.3 ~ 1.2 mまで掘削、盛土 内。
252	H18.3265	東京跡遺定地(左京八条三 坊四坪)	西九条町一丁目 7 番の 1	京都市消防局 長	地下式防火 水槽設置	学校 19.1.10	GL - 3 mまで掘削、地山確認。	
253	H18.3256	右京六条四坊大路	六条二丁目 14 番 1 号	京都市消防局 長	地下式防火 水槽設置	学校 19.1.11	約 GL - 4 mまで掘削、塗山確認。	
254	H18.3339	左京三条五坊十六坪、 寺良町遺跡	芝原町 858-46	オーネスハウ ジング(株)	分譲住宅新築	宅地 19.1.11	GL - 0.4 mまで掘削、盛土内。	
255	H18.3344	左京三条二坊三条間路	法華寺町 317-1	個人	個人住宅新築	宅地 19.1.11	GL - 0.35 ~ 0.4 mまで掘削、 盛土内。	
256	H18.3331	左京三条八坊十坪	法華寺町 1137 の一部	個人	個人住宅新築	宅地 3.2	19.1.15 - 19.1.18	GL - 0.36 ~ 0.8 mまで掘削、盛 土内、造物確認。
257	H18.3306	左京一坊八条大路	西九条町 559-5, 559-8, 559-9	建設(株)	分譲住宅新築	宅地 19.1.18	GL - 0.25 ~ 40 mまで掘削、 造物包含層らしき荷物確認。	
258	H18.3319	奈良町遺跡	紀吉町 595 番 8, 595 番 9	個人	個人住宅新築	宅地 19.1.19	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。	
259	H18.3330	左京内条一坊十五坪	四条大路二丁目 863-1	個人	店舗新築	宅地 19.1.24	GL - 0.4 mまで掘削、盛土内。	
260	H18.3324	左京五条東四坊大路	大安寺六丁目 18-2 ~ 18-8	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路 26	19.1.25 - 19.1.26	GL - 0.9 ~ 1.1 mまで掘削、1.0 m 下地山確認。
261	H18.3358	左京三条四坊十四坪	大安寺二丁目 127-57, 127-80	個人	個人住宅新築	宅地 19.1.26	GL - 1.0 ~ 1.2 mまで掘削、 GL - 0.8 mで造橋面および柱坑底 構造確認。	
262	H18.3307	左京六条東一坊間間東小路	船木町 484-17	個人	個人住宅新築	駐車場 19.1.29	GL - 1.3 mまで掘削、盛土内。	
263	H18.3392	西大寺境内	西大寺町田 2560 番地、 2567 番地の一部	個人	資材置き場	水庭 19.1.31	工事先行、GL - 0.85 mまで掘削、 0.7 m 下地山および構・土壤状況 確認、瓦片出土。 19.1.31 (16 号地) GL - 0.2 mまで掘削、 盛土内。	
264	H18.3337	右京六条四坊十四坪	六条西三丁目 1480-2122, 2123, 2124	総合地所(株)	分譲住宅新築	宅地 19.2.1 - 19.2.26	(17 号地) GL - 0.3 ~ 0.6 mまで 掘削、盛土内。 (19 号地) GL - 0.8 mまで掘削、 盛土より塗山(大阪羽野)を確認。 (18 号地) GL - 0.3 ~ 1.2 mまで 掘削、地山確認。	
265	H18.3185	左京四条二坊一坪	四条大路一丁目 797-1, 800-9, 804-1 の一部	(株)共栄商會	店舗建設	宅地 19.2.2	試験 (06-9 次) で対応済、GL - 1.2mまで掘削、盛土内。	
266	H18.3218	吉市町遺物設置地	吉市町 529-4 他	社会福祉法人 こしの会	社会福祉施設 の構築	維持地 19.2.2 - 19.2.26	GL - 0.6 ~ 1.7 mまで掘削、地山 確認。	
267	H18.3355	右京三条三坊一坪	菅原町 4-1 ~ 16-1	大阪ガス	ガス管敷設	道路 7・8	GL - 0.7 ~ 0.8 mまで掘削、盛土 内。	
268	H18.3355	右京三条三坊十一坪	菅原町 16-1 ~ 4-1	大阪ガス	ガス管敷設	道路 8	GL - 0.7 ~ 1.0 mまで掘削、0.8 m 下地山確認。	
269	H18.3343	左京三条三坊十二坪	京九条町 1-1	個人	共同住宅新築	宅地 19.2.8	GL - 0.2mまで掘削、盛土内。	
270	H18.3244	左京四条三坊六坪	三条塚町 164-7	個人	個人住宅新築	宅地 19.2.9	GL - 0.1mまで掘削、盛土内。	
271	H18.3335	右京八条二坊八坪	七条一丁目 522-8	個人	個人住宅新築	宅地 19.2.13	工事先行。	
272	H18.3309	右京西四坊大路・一条南人 路	若葉台三丁目 323-21、 323-96	ファースト住 達(株)	分譲住宅新築	宅地 19.2.13 - 16	GL - 0.3 mまで掘削、0.1 ~ 0.2 m 下地山確認、立会後に無屋で 工事内容を変更・柱状灰炎実施を 後日確認。	
273	H17.3190-2	左京六条一坊十四坪	八条二丁目 424-4, 424-5	余良興(株)	遊牧場改築	宅地 19.2.16	GL - 0.5 ~ 0.8 mまで掘削、盛土 内。	
274	H18.3385	右京五条三坊六坪	五条二丁目 601 番 60	ファースト住 達(株)	分譲住宅新築	宅地 19.2.19	GL - 0.3 mまで掘削、盛土内。	
275	H18.3340	左京四条六坊十二坪、 奈良町遺跡	南中町 9 番の一部	個人	個人住宅新築	宅地 19.2.20	GL - 0.7 mまで掘削、盛土内。	
276	H18.3362	左京五条六坊一坪、 奈良町遺跡	西木辻町 337-4	(宗)幸福の科 学	教会新築	宅地 19.2.20	GL - 2.5 mまで掘削、地山確認。	
277	H18.3377	左京六条四坊九坪	大安寺門前 1008-1, 1008-4 の各一部	個人	個人住宅新築	宅地 19.2.22	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。	
278	H18.3279	右京三条二坊二坪	二条大路南 1 丁目 375-1	個人	個人住宅新築	宅地 19.2.22	GL - 0.2 mまで掘削、盛土内。	
279	H18.3376	西大寺境内	西大寺新池町 1736-2 の 一部	青空貿易有限 会社	維持地	19.2.22	工事先行、GL - 3.56 mまで掘削、 GL - 0.3 mで地山(大阪羽野)を確認。	
280	H18.3390	左京四条二坊二坪	三条池川町 1 番 27 号	(株)ユニホー 新築	駐車場 19.2.23	工事先行。		
281	H18.3370	左京三条西坊八坪	芝辻町二丁目 201-3	個人	個人住宅新築	宅地 19.2.26	GL - 0.6 mまで掘削、水川床下内。	

番号	届出・通知 交換番号	地籍	届出地	届出者	事業内容	現況	日付	立会結果
282	H18.3400	右京二条・坊十二坪	三条大路四丁目 470番 1-470 番 2-474 番 1 の 各一部	個人	個人住宅新築	宅地	19.2.26	掘削なし。
283	H18.3356	左京四条・坊十三坪	三条桜町 21 6 ~ 25-27	大阪ガス	ガス管敷設	道路	19.2.27	GL - 0.6 m まで掘削、盛土内。
284	H18.3373	余良町遺跡	高畠町 654-4 ~ -11	街都市開発 (株)	宅地造成	宅地	19.2.26 27	GL - 1.8 ~ 2.2 m 剥削、1.0 ~ 1.2 m 下で地山確認、時期不明確 確認認定。
285	H18.3322	右京...条二坊十一坪	西大寺見町二丁目 300- 番 9	個人	個人住宅新築	宅地	19.2.28	GL - 0.25 m まで掘削、盛土内。
286	H18.3393	西隆寺旧境内	西人寺本町 221-1	生和ホームズ (株)	モデルルーム 新築	宅地	19.3.1	GL - 0.6 m まで掘削、盛土内。
287	H18.3278	元興寺旧境内・左京三条七 坊六・七坪	川之上美坂北方町～川之 下町	余良市長	下水道整備工 事	道路	19.3.2	GL - 1.9 m まで掘削、1.0 m 下で 地山確認。
288	H18.3416	右京二条四坊十五坪	若狭白四丁目 286-11, 291-41, 291-63	個人	個人住宅新築	宅地	19.3.2	GL - 1.0 ~ 1.4 m まで掘削、地山 確認。
289	H18.3311-2	南紀寺遺跡	南紀寺町二丁目 330-1	個人	共同住宅新築	水田	19.3.5	GL - 1.4 m まで掘削、水田床土内。
290	H18.3381	左京八条四坊十坪	東九条町 840 番地 18	個人	個人住宅新築	宅地	19.3.6	GL - 0.4 m まで掘削、盛土内。
291	H18.3363	左京六条一坊十五坪	柏木町 451-2, 484-7, 10, ~ 16	ファースト住 建(株)	分譲住宅新築	宅地	19.3.16	GL - 0.25 m まで掘削、盛土内。
							19.3.30	GL - 0.3m まで削削、盛土内。
292	H18.3405	右京六条四坊十三坪	六条西四丁目 1482-30	(株)日本中央 住建	分譲住宅新築	宅地	19.3.6	GL - 0.5m まで掘削、地山確認。
293	H18.3320	右京一條五条条押前小路	五条町 172 番の 2	個人	個人住宅新築	宅地	19.3.12	GL - 0.1 ~ 0.2 m まで掘削、盛土 内。
294	H18.3357	左京七条東一坊切間路	柏木町 260 番地の 10	個人	個人住宅新築	宅地	19.3.13	GL - 0.4 m まで掘削、盛土内。
295	H18.3408	左京五条五坊八坪	大河内町地内	京良市水道事 業管理科	水道管改貯工 事	道路	19.3.15	GL - 0.4 m まで掘削、盛土内。
296	H18.3351	左京二条五坊四坪	芝辻町 3丁目 68-3	個人	個人住宅新築	宅地	19.3.16	GL - 0.1 m まで掘削、盛土内。
297	H18.3352	右京...条三坊十坪	青野町 68 番地	個人	個人住宅新築	宅地	19.3.16	GL - 1.0 m まで掘削、水田耕作上 に。
298	H18.3401	右京四条一坊十四・十五坪	尼辻西町 1029 番 1	まると工業 (株)	溜池護岸改修 堤防	溜池	19.3.19	池側の掘削、連続には、影響しない。
299	H18.3366	西大寺旧境内	西人寺町一丁目 2506-2, 2506-4	個人	個人住宅新築	宅地	19.3.19 22	GL - 0.7 ~ 1.2 m まで掘削、GL - 0.8m で地山確認、瓦・土砂等 被覆片確認。
300	H18.3387	右京...条一坊一坪	三条大路四丁目 504 番 の一部	個人	個人住宅新築	宅地	19.3.20	工事先行、GL - 0.3m まで掘削、 盛土内。
301	H18.3249	左京...条四坊九坪・一東北 大路	法蓮町 1928 番 6	個人	個人住宅新築	宅地	19.3.20	GL - 1.3 ~ 1.5m まで掘削、盛土 内。
302	H18.3433	広大寺池遺跡	池川町地内	余良市長	道路整備工事	道路	19.3.22 26	GL - 1.0 m まで掘削、地山未確認。 GL - 0.7 m まで掘削、南北点は 埋立、坑内、北点では床土内に、 それ以上認めます。
303	H18.3380	左京四条一坊十・坪	四条大路二丁目 3-30 ~ 南割町 55-4	大阪ガス(株)	ガス管敷設	道路	19.3.22	GL - 0.2 m まで掘削、0.15 m 下 で地山確認。
304	H18.3391	右京二条四坊十・坪	菅原町 337-2	個人	個人住宅新築	宅地	19.3.22	GL - 0.2 m まで掘削、盛土内。
305	H18.3406	左京...条六坊三坪、 余良町遺跡	杉ヶ町 64-1	個人	個人住宅新築	宅地	19.3.22	GL - 0.2 m まで掘削、盛土内。
306	H18.3421	左京二条東西坊人路	法蓮町 328-6	(株)ヒガワ コーポレーション	宅地造成	宅地	19.3.23	GL - 1.3 m まで掘削、水田耕作上 に。

## (2) 平成 18 年度文化財保護法第 125 条 1 の現状変更等許可申請に伴う工事立会

番号	申請受理 番号	地籍	届出地	届出者	事業内容	現況	日付	立会結果
1	H18.1002	史跡大安寺旧境内	大安寺町ヒュオ 1238-2, 1294-2	足池水利組合	ネットフエン ス設置	溜池 堤防	18.6.7	GL - 0.5 m まで掘削、盛土内、瓦 出土。
2	H18.1030	史跡大安寺旧境内	大安寺 1299-1 他	(京)大安寺	側溝の設置 排水溝	水田・ 排水溝	18.12.18	GL - 0.3 ~ 0.4 m まで掘削、盛土 内、瓦出土。

## 第 2 章      自然科学分析報告

---

奈良市教育委員会では、発掘調査の成果をより総合性の高い確実なものとするために、遺跡や遺物の肉眼観察では把握できない事象について、自然科学分析を活用している。

これまでにってきた主な自然科学分析は、下記の通りである。

1. 環境の指標性が高く、生活資源となっている植物を主とした生物遺体の同定
2. 年代の手がかりとなる遺物が含まれない地層や遺構の年代を比定するために行う、試料の含有放射線量から年代値を求める年代測定（例：放射性炭素年代測定、TL 年代測定）や、年代の指標性が高い広域火山灰（例：AT 火山灰、AH 火山灰）の同定
3. 遺物に付着したり土壤に含まれたりする有機物や化学物質、あるいは土器の胎土や地質に含まれる鉱物の成分を同定する理化学分析（例：蛍光 X 線分析）

平成 18 年度は、下記の自然科学分析を実施した。

- ① 平城京第 552 次調査　　旧河川から採取した流木の放射性炭素年代測定（AMS）  
　　弥生時代の井戸 S E 02 埋土の花粉分析  
　　奈良時代の東四坊大路東側溝 S D 1015 埋土の花粉分析・珪藻分析
- ② 平城京第 557 次調査　　河川 I から採取した流木の放射性炭素年代測定（AMS）・樹種同定  
　　河川 I 墓土の花粉分析・大型植物遺体（種実・葉）同定  
　　奈良時代の井戸 S E 508・509 出土金属製品の蛍光 X 線分析（XRF）
- ③ 平城京第 563 次調査　　奈良時代の溝 S D 08 埋土の花粉分析
- ④ 奈良山第 51 号窯　　奈良時代の瓦窯の窯体に用いられた瓦塊・焼土の TL 年代測定

このうち、本書には①～③を報告する。なお、④については次年度以降に報告する予定である。

# 1. 平城京第552次調査における自然科学分析

## I 放射性炭素年代測定

### 1 試料と方法

試料名	地点	種類	前処理・調整	測定法
No 1	旧河川埋土 灰色砂疊層	木 材	酸-アルカリ-酸洗浄	AMS

\* AMS (Accelerator Mass Spectrometry) は加速器質量分析法

### 2 測定結果

試料名	測定No (Beta-)	<sup>14</sup> C年代 <sup>1)</sup> (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}^2)$ (‰)	補正 <sup>14</sup> C年代 <sup>3)</sup> (年 BP)	曆年代 (西暦) <sup>4)</sup>
No 1	220720	5200±40	-27.5	5160±40	交点: cal 1 σ: cal 2 σ: cal cal

#### 1) <sup>14</sup>C年代測定値

試料の<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比から、単純に現在(AD1950年)から何年前かを計算した値。<sup>14</sup>Cの半減期は国際的慣例により Libby の 5,568 年を使用した。

#### 2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値試料の測定

試料の測定<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比を補正するための炭素安定同位体比(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分率差 (‰) です。

#### 3) 補正<sup>14</sup>C年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

#### 4) 曆年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中<sup>14</sup>C濃度の変動を校正することにより算出した年代(西暦)。cal は calibration した年代値であることを示す。校正是、年代既知の樹木年輪の<sup>14</sup>Cの詳細な測定値、およびサンゴの U-Th 年代と<sup>14</sup>C年代の比較により作成された較正曲線を用いる。今回曆年代校正に使用したプログラムは、CALIB5.0.2 である。最新のデータベースでは約 19,000 年 BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000 年 BP 以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

曆年代の交点とは、補正<sup>14</sup>C年代値と曆年代較正曲線との交点の曆年代値を意味する。1 σ (68%確率) と 2 σ (95%確率) は、補正<sup>14</sup>C年代値の偏差の範囲を較正曲線上に投影した曆年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表示される場合や、複数の 1 σ・2 σ 値が表示される場合もある。曆年代範囲の後のカッコ内の百分率の値は、その曆年代範囲の確からしさ(確率分布)を示し、10%未満については省略した。

#### (参考文献)

Paula J Reimer,Mike G L Baillie,Edouard Bard,Alex Bayliss,J Warren Beck,Chanda J H Bertrand,Paul Blackwell,Caitlin E Buck,George S Burr,Kirsten B Cutler,Paul F Damon,R Lawrence Edwards,Richard G Fairbanks,Michael Friedrich,Thomas P Guilderson,Alan G Hogg,Konrad A Hughen,Bernd Kromer,Gerry McCormac,Sturt Manning,Christopher Bronk Ramsey,Ron W Reimer,Sabine Renne,John R Southon,Minze Stuiver,Sahra Talamo,FW Taylor,Johannes van der Plicht,Constance E Weyhenmyer.2004.INTCAL04 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration,0-26 cal kyr BP.Radiocarbon 46:1029-1058.

## II 花粉分析

### 1 はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的大域な植生・環境の復元に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

### 2 試料

分析試料は、弥生時代後期末の井戸 S E 02 の埋土より採取された試料 2 点(試料 A・B)、奈良時代の東四坊大路東側溝 S D 1015 の埋土より採取された試料 2 点(試料 C・D)の計 4 点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

## 3 方法

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行う。

- 1) 0.5% リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加え 15 分間湯煎
- 2) 水洗処理の後、0.5mm の筒で礫などの大きな粒子を取り除き、沈殿法で砂粒を除去
- 3) 25% フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置
- 4) 水洗処理の後、水酢酸によって脱水し、アセトトリシス処理（無水酢酸 9 : 過硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎）を施す
- 5) 再び水酢酸を加えて水洗処理
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 300 ~ 1000 倍で行う。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行う。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示す。イネ属については、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表阿断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。

## 4 結果

## (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉 19、樹木花粉と草本花粉を含むもの 3、草本花粉 14、シダ植物胞子 2 形態の計 38 である。これらの学名と和名および粒数を表 I に示し、花粉数が 200 個以上計数できた試料は、周辺の

表 I 半城京第 552 次調査採取試料の花粉分析結果

学名	和名	APFS02		第四歩道点密度(%)	
		A	B	C	D
Asteraceae pollen	樹木花粉				
Aster	セリ属	2	1		
Zizia	ツバ属	1	2	1	1
Pisum sativum, Diplotaxis	マツナ属	7	2	6	
Cryptomeria japonica	スギ	17	14	3	5
Sassafras officinale	コウヤクキ				1
Taxaceae-Cephaelanthaceae-Cyperaceae	イタチイ科-イヌガサ科-ヒノキ科	10	6	5	12
Agave	カルミ属	1			
Ailanthus	ハンノキ属	2	4	1	1
Betula	カバノキ属	3	2		
Carpinus-Ostrya japonica	クマシキ属-アザダ	2	1		
Castanea crenata	クリ	39	89	1	
Cuscuta	シイ属	30	20	4	6
Fagopyrum	ブナ属	3	1		1
Ochroma laguncularia	コナラ属-オカラ属	19	17	2	5
Ochroma subsp. Cyclocephalaopsis	コナラ属-カシガニ属	67	74	7	19
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ				1
Celtis-aquatica aquatica	エノキ属-クヌキ			1	
Symplocos	ムクロジ属			1	
Juglans	ハノイノキ属				1
Asteraceal - Nonstereoidal pollen	樹木-草本花粉				
Moraceae-Urticaceae	タリキ-イラクサ科	5	5	3	4
Lemnaceae	マメ科				1
Anthriscus	カゴヤ科			1	
Nonstereoidal pollen	原生花粉				
Sigillaria	オビゲノ属			1	1
Ginkgoaceae	イモ科	71	40	90	131
Oxalis type	イヌイモ属	3	2	1	4
Cyperaceae	カヤツリグサ科	1	2	10	8
Cannaceae-Amaranthaceae	アカバナ科-ヒマ科	67	42	7	12
Oxybaphaceae	オダシノキ科			1	1
Burmannia	キンボウヅク属				1
Cordifolia	アブラマツ科	5		45	39
Hydrostachyidae	ナドメグサ科				1
Apocynaceae	セリバタ科	22	15	3	
Plantago	オオバコ属	1	9	1	1
Lactucaeae	タンポポ属	4	3	2	2
Asteridae	タカセ科				2
Angiospermae	ヨモギ属	12	14	30	38
Pinus spore	シノブ植物孢子				
Musotima type spore	半光亮孢子	12	13	3	7
Trilete type spore	三光学孢子	4	8	3	1
Asteroidal pollen	樹木花粉	203	234	26	59
Asteroidal- Nonstereoidal pollen	樹木-草本花粉	5	6	3	5
Nonstereoidal pollen	草本花粉	186	129	190	240
Total pollen	花粉总数	394	369	219	304
Pollen frequencies of 1cm <sup>-2</sup>	試料 1cm <sup>-2</sup> の花粉密度	4.7	1.3	2.0	2.7
Unknown pollen	未同定花粉	$\times 10^3$	$\times 10^4$	$\times 10^3$	$\times 10^3$
Pinus spore	シノブ植物孢子	11	13	5	8
Holmornit agar	セラミド乳糖	(+)	(+)	(+)	(+)
Dianthus caryophyllus	明るかな舌状花被	(+)	(+)	(+)	(+)
Charcoal fragments	黒炭化物	(+)	(++)	(+)	(+)

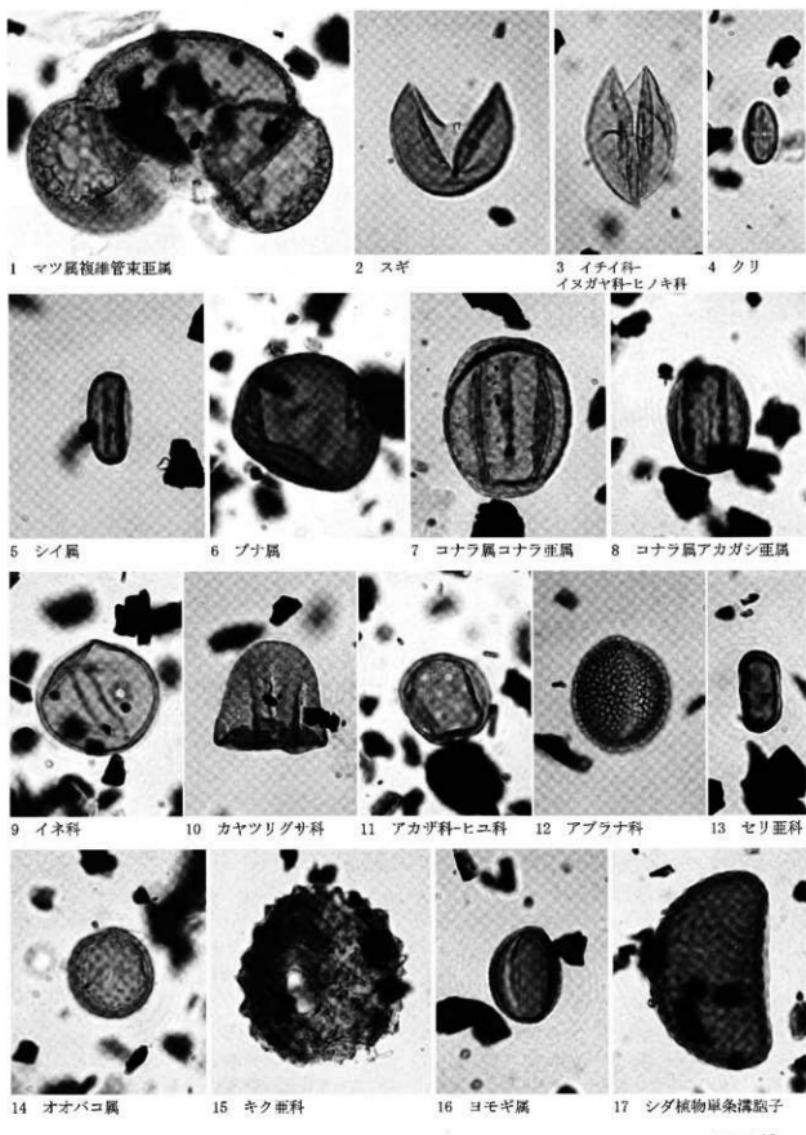


図1 平城京第552次調査 採取試料の花粉・胞子

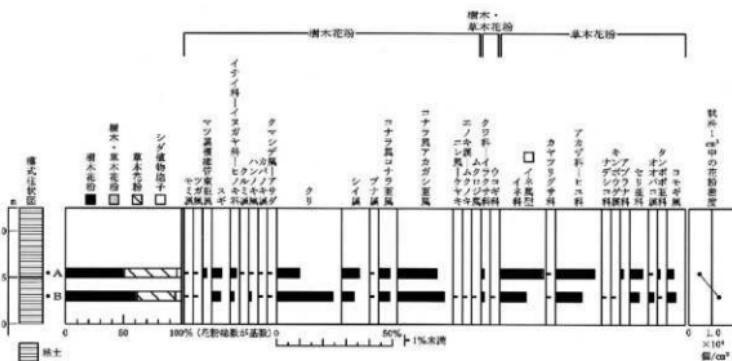


図2 井戸S E 02 埋土採取試料の花粉ダイアグラム

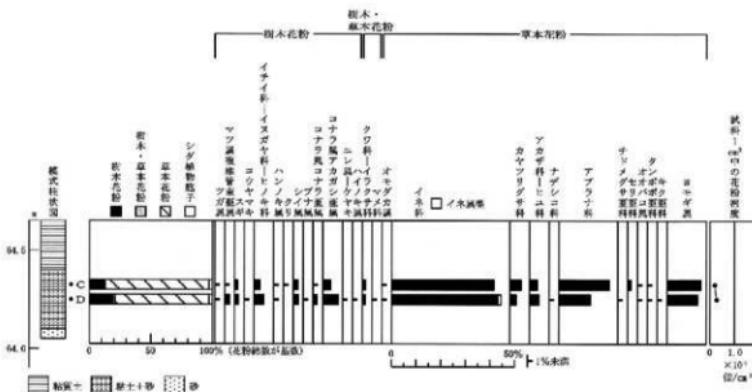


図3 東四坊大路東側溝 S D 1015 埋土採取試料の花粉ダイアグラム

植生を復元するために花粉総数を基準とする花粉ダイアグラムを図2・3に示す。主要な分類群は写真(図1)に示す。また、寄生虫卵についても観察したが検出されない。以下に出現した分類群を記載する。

#### [樹木花粉]

モミ属、ツガ属、マツ属複雜管束亞属、スギ、コウヤマキ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、クルミ属、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属ムクノキ、ムクロジ属、ハイノキ属

#### [樹木花粉と草木花粉を含むもの]

クワ科-イラクサ科、マメ科、ウコギ科

#### [草木花粉]

オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、アブランカ科、チドメグサ亜科、セリ亜科、オオバコ属、タンボボ亜科、キク亜科、ヨモギ属

#### [シダ植物胞子]

単条溝胞子、三条溝胞子

#### (2) 花粉群集の特徴

##### 1) 井戸S E 02 (試料A・B): 図2

試料Aでは樹木花粉の占める割合が草木花粉よりも高い。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属、クリが優占し、シイ属、コナラ属コナラ亜属、スギなどが出現する。草木花粉では、イネ属型を含むイネ科、アカザ科-

ヒユ科が比較的多く、セリ亞科、ヨモギ属、オオバコ属などが出現する。試料Aでは、樹木花粉と草本花粉の占める割合がほぼ同じになる。下位の試料Bで優占したクリは半減し、マツ属復縫管束亞属が出現する。

## 2) 東四坊大路東側溝 S D 1015 (試料C・D): 図3

樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ属型を含むイネ科が高率に出現し、次いでアブラナ科、ヨモギ属が優占することで特徴付けられ、カヤツリグサ科、アカザ科-ヒユ科などが伴われる。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亞属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、シイ属、スギ、マツ属復縫管束亞属、コナラ属コナラ亞属などが低率に出現する。花粉密度はやや低い。

### 5 花粉分析から推定される植生と環境

#### 1) 井戸 S E 02 (弥生時代後期)

樹木花粉の占める割合が比較的多く、比較的近隣に森林が分布していたと推定される。イネ科、アカザ科-ヒユ科を主に、セリ亞科、ヨモギ属、オオバコ属が産出する。路傍などの人里植物であるアカザ科-ヒユ科、ヨモギ属、オオバコ属の生育から、集落域などの人為地が示唆される。樹木ではコナラ属アカガシ亞属、クリ、シイ属、コナラ属コナラ亞属、スギなどが産出し、照葉樹林を主にクリ、スギなどが分布する。特にクリは虫媒花植物であり、近接した分布が示唆され、乾燥した環境が推定される。

#### 2) 東四坊大路東側溝 S D 1015 (奈良時代)

樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、周辺は草本の優勢は開けた状態であった。イネ科を中心に、アブラナ科、ヨモギ属、そしてカヤツリグサ科、アカザ科-ヒユ科など分布していた。アブラナ科、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科が比較的多く、路傍などの人里植物ないし畑作雜草の性格を有し、周辺が比較的乾燥した環境であったことが示唆される。周辺には樹木は基本的には分布せず、コナラ属アカガシ亞属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、シイ属、スギ、マツ属復縫管束亞属、コナラ属コナラ亞属などが孤立木かやや遠方に分布していたと推定される。

#### (参考文献)

- 金原正明 (1993) 花粉分析法による古環境復元。新版古代の日本第10巻 古代資料研究の方法。角川書店。p.248-262.
- 鳥山巳三郎 (1973) 日本植物の花粉形態。大阪市立自然科學博物館収蔵品目録第5集。60p.
- 中村純 (1967) 花粉分析。古今書店。p.82-102.
- 中村純 (1974) イネ科花粉について。とくにイネ (*Oryza sativa*)を中心として。第四紀研究。13,p.187-193.
- 中村純 (1977) 稲作とイネ花粉。考古学と自然科学。第10号。p.21-30.

中村純 (1980) 日本庵花粉の標識。大阪自然史博物館収蔵目録第13集。91p.

### III 珪藻分析

#### 1 はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する单細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持つている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復元の指標として利用されている。

#### 2 試料

分析試料は、奈良時代の東四坊大路東側溝 S D 1015 の堆土より採取された試料C・Dの2点である。

#### 3 方法

以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行う。

- 1) 試料から1cm<sup>3</sup>を秤量
- 2) 10%過酸化水素水を加え、加温反応させながら1晩放置
- 3) 上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗(5~6回)
- 4) 残渣をマイクロビペットでカバーグラスに滴下して乾燥
- 5) マウントメディアによって封入し、プレパラートを作成
- 6) 検鏡、計数

検鏡は、生物顕微鏡によって600~1500倍で行う。計数は珪藻被殻が100個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行う。

#### 4 結果

##### (1) 分類群

試料から出現した珪藻は、貧塩性種(淡水生種)1分類群である。表2に分析結果を示す。また、出現した分類群について顕微鏡写真(図4)を示す。以下に出現した分類群を記載する。

##### 〔貧塩性種〕

*Gyrosigma* spp.

##### (2) 珪藻群集の特徴

東四坊大路東側溝 S D 1015において、試料Cでは、珪藻密度が極めて低く、検出されない。試料Dでは、珪藻密度が低く、貧塩性種(淡水生種)の*Gyrosigma* spp.がわずかに検出される。

表2 東四坊大路東側溝 S D 1015 埋土採取試料の珪藻分析結果

分類群	東四坊大路東側溝SD1015	
	C	D
貧塩性種（淡水生種）		
<i>Gyrosigma</i> spp.	1	
合 計	0	1
未同定	0	0
破片	0	2
試料 1 cm <sup>3</sup> 中の個数密度	0.0	2.0 ×10 <sup>2</sup>
完形殻保存率 (%)	—	—

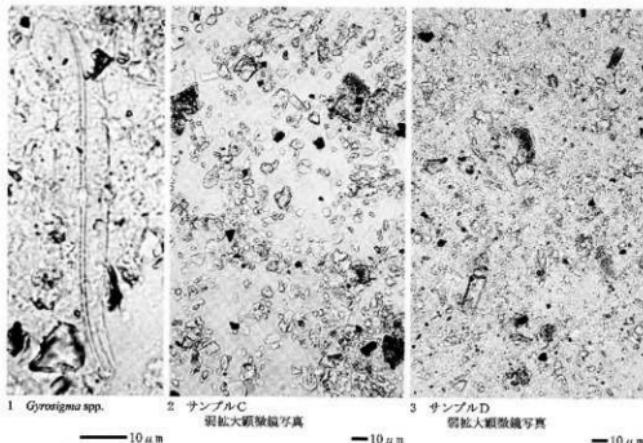


図4 東四坊大路東側溝 S D 1015 埋土採取試料の珪藻

### 5 硅藻分析から推定される環境

東四坊大路東側溝 S D 1015 の試料 C・D は、珪藻密度が極めて低いか珪藻が検出されない。のことから、東四坊大路東側溝 S D 1015 は、珪藻の生育できない乾燥した環境が示唆され、雨水等が一時に流れる環境であったと推定される。

(参考文献)

Asai,K.&Watanabe,T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom, 10, 35-47.

K.Krammer·H.Lange-Bertalot (1986-1991) Bacillariophyceae-1~4. 安藤一男 (1990) 淡水珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 東北地誌, 42, p.73-88.

伊藤良永・堀内誠 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析へ

の応用. 地理学会誌, 6,p.23-45.

小杉正人 (1986) 硅藻による古環境解析とその意義—わが国への導入とその展開—. 植生史研究, 第1号, 植生史研究会, p.29-44.

小杉正人 (1988) 硅藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究, 27, p. 1-20.

渡辺仁治 (2005) 淡水珪藻生態図鑑 群集解析に基づく汚濁指標 DALpo, pH耐性, 内田老舗圖, pp.666

(株式会社 古環境研究所)

## 2. 平城京第557次調査における自然科学分析

### I 放射性炭素年代測定

#### 1 はじめに

放射性炭素年代測定は、呼吸作用や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素( $^{14}\text{C}$ )の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。過去における大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度は変動しており、年代値の算出に影響を及ぼしていることから、年輪年代学などの成果を利用した校正曲線により $^{14}\text{C}$ 年代から曆年代に較正する必要がある。

ここでは、平城京第557次調査において確認された河川1の埋没時期を特定する目的で、加速器質量分析法による放射性炭素年代測定を行った。測定にあたっては、米国の Beta Analytic Inc. の協力を得た。

#### 2 試料と方法

測定試料は、河川1の埋土である灰色砂礫層で採取された流木1点である。放射性炭素年代測定の手順は以下のとおりである。

表1 測定試料及び処理

試料名	地点	種類	前処理・調整	測定法
No.1	河川1埋土 灰色砂礫層	木材	酸-アルカリ-酸洗浄	AMS

\* AMS (Accelerator Mass Spectrometry) は加速器質量分析法

表2 測定結果

試料名	測定No (Beta-)	$^{14}\text{C}$ 年代 <sup>①</sup> (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ <sup>②</sup> (‰)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 <sup>③</sup> (年BP)	曆年代(西暦) <sup>④</sup>
No.1	226059	3780±40	-29.0	3710±40	交点: cal BC 2130, BC 2080, BC 2060 1σ : cal BC 2190 ~ 2180 cal BC 2140 ~ 2030 2σ : cal BC 2200 ~ 2010 cal BC 2000 ~ 1980

#### 1) $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(AD1950年)から何年前かを計算した。 $^{14}\text{C}$ の半減期は国際的慣例によりLibbyの5,568年を使用した(実際の半減期は5,730年)。

#### 2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値試料の測定

$^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分率(‰)である。

#### 3) 補正 $^{14}\text{C}$ 年代値

$^{14}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代である。

まず、試料に二次的に混入した有機物を取り除くために、以下の前処理を行った。

- 蒸留水中で細かく粉碎後、超音波および煮沸により洗浄
- 塩酸(HCl)により炭酸塩を除去後、水酸化ナトリウム(NaOH)により二次的に混入した有機物を除去
- 再び塩酸(HCl)で洗浄後、アルカリによって中和
- 定温乾燥機内で80°Cで乾燥

前処理後、試料中の炭素を燃焼して二酸化炭素に変え、これを真空ライン内で液体窒素、ドライアイス、メタノール、n-ペントンを用いて精製し、高純度の二酸化炭素を回収した。こうして得られた二酸化炭素を鉄触媒による水素還元法でグラファイト粉末とし、アルミニウム製のターゲットホルダーに入れてプレス機で圧入しグラファイトターゲットを作製した。これらのターゲットをタンデロン加速器質量分析計のイオン源にセットして測定を行った。測定試料と方法を表1にまとめた。

#### 4) 曆年代 Calendar Age

$^{14}\text{C}$ 年代測定値を実際の年代値(曆年代)に近づけるには、過去の宇宙線強度の変動などによる大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動および $^{14}\text{C}$ の半減期の違いを較正する必要がある。曆年較正には、年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$ の詳細な測定値およびサンゴのU/Th(ウラン/トリウム)年代と $^{14}\text{C}$ 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新の較正曲線であるIntCal04ではBC24050年までの換算が可能である(樹木年輪データはBC10450年まで)。

曆年代の交点とは、補正 $^{14}\text{C}$ 年代値と較正曲線との交点の曆年代値を意味する。1σ(68%確率)と2σ(95%確率)は、補正 $^{14}\text{C}$ 年代値の偏差の範囲を較正曲線に投影した曆年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の1σ・2σ幅が交差される場合もある。

### 3 結果

年代測定の結果を表2に示す。

#### 4 所見

河川1の埋土より出土した流木について、加速器質量分析法(AMS)による放射性炭素年代測定を行った。その結果、 $3710 \pm 40$ 年BP(2σの曆年代でBC2200～2010年、BC2000～1980年)の年代値が得られた。

(参考文献)

Paula J Reimer et al. (2004) IntCal04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26-0 ka BP. Radiocarbon 46, 1029-1058.

尾高大真 (2005) INTCAL98からIntCal04へ。学術創成研究会 亦生農耕の起源と東アジアNa-3炭素年代測定による高精度編年体系の構築第一、p.14-15。

中村俊夫(1999) 放射性炭素法、考古学のための年代測定学入門。古今書院、p.1-36

## II 樹種同定

### 1 はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないとから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

### 2 試料

試料は、河川1埋土の灰色砂礫層より出土した木材1点(木1)で、同一試料で放射性炭素年代測定を行った。

### 3 方法

カミソリを用いて新鮮な横断面(木口と同義)、放射断面(柵目と同義)、接線断面(板目と同義)の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本と

の対比によって行った。

### 4 結果

試料はケヤキ *Zelkova serrata* Makino であった。以下に同定の根拠となった特徴を記し、各断面の顕微鏡写真(図1)を示す。

ケヤキ *Zelkova serrata* Makino ニレ科

横断面：年輪のはじめに大型の道管が1～2列配列する環孔材である。孔圈部外の小道管は多数複合して円形、接線状ないし斜線状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は單穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺のものは方形細胞でしばしば大きくふくらみ、なかには結晶を含むものがある。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、上下の縁辺部の細胞のなかには大きくふくらんでいるものがある。幅は1～7細胞幅である。

以上の形質よりケヤキに同定される。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20～25m、径60～70cmぐらいであるが、大きいものは高さ50m、径3mに達する。材は強健で従属性に富み、建築、家具、器具、船、土木などに用いられる。

### 5 所見

同定の結果、河川1より出土した木材は、ケヤキであった。ケヤキは、温帯に分布する落葉広葉樹で、谷沿いや河辺周辺などの適應な肥沃地に生育する。当時遺跡周辺に生育し、近隣からもたらすことができる樹種であったとみなされる。

(参考文献)

佐伯浩・原田浩(1985) 葉菜樹材の細胞、木材の構造。文永堂出版、p.20-48  
佐伯浩・原田浩(1985) 広葉樹材の細胞、木材の構造。文永堂出版、p.49-100

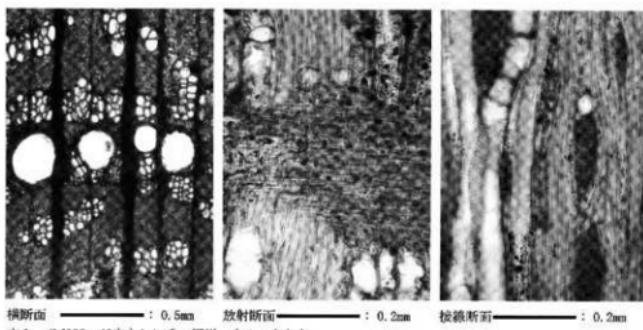


図1 河川1出土 木1断面(ケヤキ)

島地謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総観。堆山編, p.296  
山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成、植生史研究会  
完特別第1号、植生史研究会, p.242

### Ⅲ 花粉分析

#### 1 はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復元に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

#### 2 試料

分析試料は、河川1の堆土である灰色砂礫層中にはさまれた泥質砂層より採取された試料1点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

#### 3 方法

花粉の分離抽出は、中村 (1967) の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 0.5% リン酸三ナトリウム (12水) 溶液を加え 15 分間湯煎
- 2) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 3) 25% フッ化水素酸溶液を加えて 30分放置
- 4) 水洗処理の後、水酢酸によって脱水し、アセトトリシス処理 (無水酢酸 9 : 過硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1分間湯煎) を施す
- 5) 再び水酢酸を加えて水洗処理
- 6) 沈渣に炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 300~1000倍で行う。花粉の同定は、島倉 (1973) および中村 (1980) をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行う。結果は同定レベルによって、科、属、属、亚属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン (-) で結んで示す。イネ科については、中村 (1974, 1977) を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属とする。

#### 4 結果

##### (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉 20、樹木花粉と草本花粉を含むもの 2、草本花粉 3、シダ植物胞子 2 形態の計 27 である。これらの学名と和名および枚数を表3に示す。

し、花粉数が 200 個以上計数できた試料は、周辺の植生を復元するために花粉总数を基準とする花粉ダイアグラムを図3に示す。主要な分類群は写真(図2)に示す。また、寄生虫卵についても観察したが検出されない。以下に出現した分類群を記載する。

##### [樹木花粉]

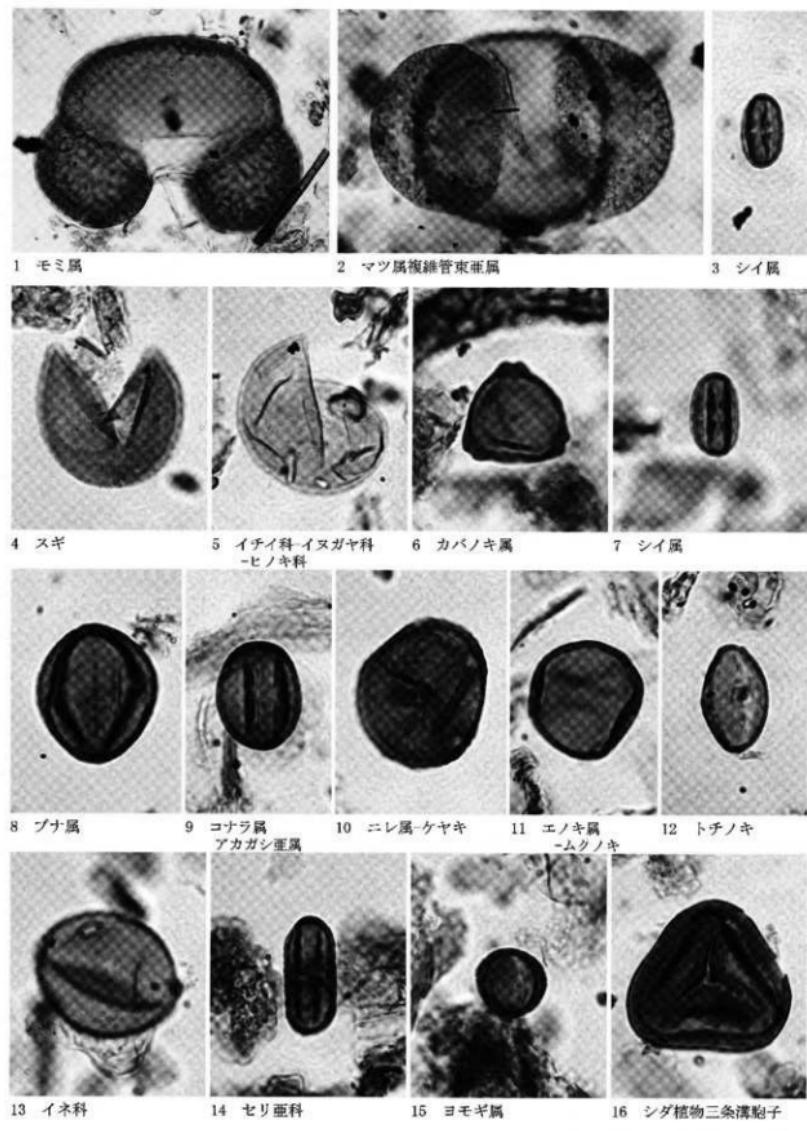
モミ属、ツガ属、マツ属複雜苞束亞属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤマモモ属、サワグルミ、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亞属、コナラ属アカガシ亞属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、モチノキ属、トチノキ、ムクロジ属、ブドウ属

##### [樹木花粉と草本花粉を含むもの]

クワ科-イラクサ科、ウコギ科

表3 河川1堆土採取試料の花粉分析結果

学名	和名	分類群		河川1 堆土
		樹木花粉	草本花粉	
<i>Abies holophylla</i>	日本冷杉			
<i>Aleurites</i>	セミ属			6
<i>Tsuga</i>	ツガ属			1
<i>Pinus sylvestris</i>	マツ属複雜苞束亞属			1
<i>Cyprinus japonicus</i>	スギ			1
<i>Taxaceae-Cephaelidaceae-Cupressaceae</i>	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科			7
<i>Afrevia</i>	ヤマモモ属			1
<i>Prunus cerasifera</i>	サワグルミ			2
<i>Betula</i>	カバノキ属			1
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ			5
<i>Castanea crenata</i>	クリ			21
<i>Contarinia</i>	シイ属			55
<i>Fagus</i>	ブナ属			3
<i>Quercus ilex</i> , <i>Liquidambar</i>	コナラ属コナラ属			4
<i>Quercus ilex</i> , <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属カガシ属			396
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ユリ属-ケヤキ			1
<i>Celtis-australis australis</i>	エキナセ-ムクノキ			12
<i>Hedera</i>	モチノキ属			1
<i>Aesculus carnea</i>	トチノキ			7
<i>Spiraea</i>	ムクロジ属			5
<i>Eriobotrya</i>	ズブ属			2
<i>Artemisia-Nanarthos pollen</i>	樹木-日本艾			
<i>Muscace-Urticace</i>	クモ科-イラクサ科			1
<i>Artemisia</i>	ウサギ科			1
<i>Nanarthos pollen</i>	草本花粉			
<i>Gramineae</i>	イネ科			3
<i>Apidae</i>	セリ蜂科			1
<i>Zygophylloidea</i>	ヨモギ属			1
<i>Foraminifer</i>	シダ植物胞子			
<i>Miospore type spores</i>	原生孢子			4
<i>Trilete type spores</i>	一形孢子			2
<i>Artemisia pollen</i>	樹木花粉			531
<i>Artemisia-Nanarthos pollen</i>	樹木-草本花粉			2
<i>Nanarthos pollen</i>	草本花粉			5
Total pollen	花粉総数			528
Pollen frequencies of 1cm <sup>-2</sup>	試料1cm <sup>-2</sup> 中の花粉密度			4.5
				±10 <sup>4</sup>
Dolomite pollen	赤鶴花粉			6
Foraminifer	シダ植物胞子			6
Holothrich eggs	寄生虫卵			(+)
Diplopoda rimosus	明らかな西北鉄城			(+)
Charcoal fragments	油類灰化物			(+)



1 — 10 μm, 2-16 — 10 μm

図2 河川1埋上採取試料の花粉

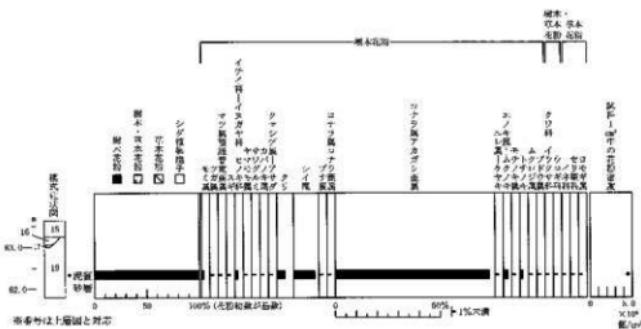


図3 河川1埋土採取試料の花粉ダイアグラム

(草本花粉)

### イネ科、セリ本科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

单条满胞子、三条满胞子

## (2) 花粉群集の特徴

河川 I 埋土の泥質砂層の試料においては、ほとんど樹木花粉で占められ、コナラ属アカガシ亜属が卓越する。シイ属、クリ、エノキ属ムクノキ、イチイ科イヌガヤ科ヒノキ科、トチノキ、モミ属などが低率に出現する。草本花粉では、イネ科、セリ亜科、ヨモギ属がわずかに出現する。

## 5 花粉分析から推定される植生と環境

河川1埋土の泥質砂層が形成された時期には、コナラ属アカガシ亜属が卓越し、周辺にカシ林が分布し、草本はほとんど見出されず、森林状態であったとみなされる。コナラ属アカガシ亜属のカシ林は大型植物遺体からイチイガシ林とみなされ、適潤な肥沃地が広がっていたと考えられる。またサワグルミ、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、トチノキは堆積地周辺の河川1沿いに生育していたとみなされる。シユ属やクリはやや乾燥地に小規模な森林を形成していたと推定される。

(参考文献)

- (草本花粉)

イネ科、セリ亞科、ヨモギ属

[シダ植物胞子]

单条溝胞子

(2) 花粉群集の特徴

河川1埋土の泥質砂層の試料においては、ほとんど樹木花粉で占められ、コナラ属アカガシ亜属が卓越する。シイ属、クリ、エノキ属一ムクノキ、イチイ科イヌガヤ科ヒノキ科、トチノキ、モミ属などが低率に出現する。草本花粉では、イネ科、セリ亞科、ヨモギ属がわずかに出現する。

### 5 花粉分析から推定される植生と環境

河川1埋土の泥質砂層が形成された時期には、コナラ属アカガシ亜属が卓越し、周辺にカシ林が分布し、草本はほとんど検出されず、森林状態であったとみなされる。コナラ属アカガシ亜属のカシ林は大型植物遺体からイチイガシ林とみなされ、適度な肥沃地が広がっていたと考えられる。またサワグルミ、ニレ属一ケヤキ、エノキ属一ムクノキ、トチノキは堆積地周辺の河川1治いに生育していたとみなされる。シイ属やクリはやや乾燥したところに生育するため、周辺のやや小高い乾燥地に小規模な森林を形成していたと推定される。

(参考文献)

金屋正明(1993) 花粉分析による古環境復原、新歴古代の日本第10巻  
山代資料研究会の方法、角川書店、p.248-262。

鳥居巳郎(1973) 日本植物の花粉形態、大阪市立自然博物館収蔵目録第5集、60p。

中村純(1967) 花粉分析、古今書院、p.82-102。

中村純(1974) イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として、第四紀研究、13巻、p.187-193。

中村純(1977) 稲作とイネ花粉、考古学と自然科学、第10号、p.21-30。

中村純(1980) 日本産花粉の標微、大阪自然史博物館収蔵目録第13集、91p。

辻誠一郎(1984) 岩木山南斜面、二ノ宮町における立川層の植物遺体群集、第四紀研究、23、p.21-29。

吉谷・田井(1993) 大阪層群と桜丘堆積層・沖積層の花粉化石、大阪近畿、創文社、p.247-255。

町田洋・野井房夫(2003) 新編火山火アトラス、東京大学出版会、p.269。

安田吉喜・三好敏夫(1998) 鹿児島地方の横生史、国説日本列島植物生歴、朝倉書店、p.73-81。

## IV 大型植物遺体同定

### 1 はじめに

植物の種子や果実は比較的強靭なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出し、その群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

### 2 試料

河川1の埋土の灰色砂礫層中にはさまれた泥質砂層より採取された試料1点である。

### 3 方法

試料(堆積物)に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行う。

  - 1) 試料に水を加え放置し、泥化を行う。
  - 2) ゆるやかに攪拌しながら、沈んだ砂礫を除去しつつ、葉、種実などの植物遺体を洗い出す。
  - 3) 葉、種実は肉眼ないし双眼実体顕微鏡下で観察し、形態的特徴及び現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で

示す。

#### 4 結果

##### (1) 分類群

###### 1) 種実

樹木 8 分類群が同定された。学名、和名および粒数を表4に示し、主要な分類群を写真(図4)に示す。以下に同定の根拠となる形態的特徴を記載する。

[樹木]

イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* K.Koch

種子(破片) イヌガヤ科

茶褐色で長楕円形を呈す。表面には顆粒状の隆起がある。断面は両凸レンズ形である。

ハシバミ *Corylus heterophylla* Fischer ex Besser var. *thunbergii* Bl.

堅果 カバノキ科

やや淡褐色で円錐体を呈す。基部は切形、着点は中心部にやや突き出す。

イチイガシ *Quercus gilva* Blume

堅果・幼果・殻斗 ブナ科

黒褐色で楕円形を呈し、先端に明瞭な花柱を持つ。花柱の先端は直上かやや内側に向き、殻斗壁が厚い。

殻斗は輪状紋をもち基部から先端に向かって直線な椀状を呈する。

サクラ属サクラ節 *Prunus* sect. *Pseudocerasus*

核 パラ科

黄褐色で楕円形を呈し、下端が大きくくぼむ。側面に縫合線が走る。表面はやや粗い。

カラスザンショウ *anthoxylum ailanthoides* Sieb. et Zucc.

種子(半形) ミカン科

黒色で楕円形を呈し、側面に長く深いへそがある。表面には大きい網目模様がある。

トチノキ *Aesculus turbinata* Blume

種子(破片) トチノキ科

黒色と茶褐色の部分とに分かれ、黒色の部分に光沢がある。

ミズキ *Swida controversa* Soják

核 ミズキ科

黒褐色で横長の楕円形を呈す。表面には縦方向に深い筋が走る。

エゴノキ *Styrax japonica* Sieb. et Zucc.

核 エゴノキ科

黒褐色で楕円形を呈し、下端にへそがある。表面に3本の溝が走る。

###### 2) 葉

樹木 2 分類群が同定された。学名、和名表示し、主要な分類群を写真(図4)に示す。以下に同定の根拠となる形態的特徴を記載する。

[樹木]

ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科

単葉で互生し、成葉は長さ4~7cm、幅9~12mmの狭長楕円状披針形を呈す。先端は次第に狹くなり銳頭。

基部は鋭形ないし鈍形である。ほぼ完形のものは2枚みられる。

イチイガシ *Quercus gilva* Blume ブナ科

単葉で互生し、倒披針形または広倒披針形を呈す。

先は鋭尖形で基部は鈍形。ほぼ完形のものは27枚みられる。

イチイガシ?

イチイガシと同定できる部分が少し見られるが、破片であつたり同定が困難な為、イチイガシ?とする。

不明

ある程度残りがいいのだが、観察できず不明とする。

###### (2) 大型植物遺体群集の特徴

種実は樹木ばかりであり、イチイガシ53、サクラ属

サクラ節4、トチノキ2、エゴノキ2、イヌガヤ1、ハ

表4 河川1堆土採取試料の種実同定結果

学名	分類群	部位	河川1堆土採取試料	
			種子(破片)	合計
<i>Afara</i>	樹木			
<i>Cephalotaxus harringtonia</i> K. Koch	イヌガヤ	種子(破片)	1	1
<i>Corylus heterophylla</i> Fischer ex Besser var. <i>thunbergii</i> Bl.	ハシバミ	堅果	1	1
<i>Quercus gilva</i> Blume	イチイガシ	堅果	6	6
<i>Prunus</i> sect. <i>Pseudocerasus</i>	分果			23
<i>Zanthoxylum ailanthoides</i> Sieb. et Zucc.	殻斗			24
<i>Aesculus turbinata</i> Blume	核			4
<i>Swida controversa</i> Soják	ミズキ			1
<i>Styrax japonica</i> Sieb. et Zucc.	エゴノキ			2
Total		合計		65
Unknown		不明種実		2
Unknown		不明幼果		1
			(200cm中0.25mm)	

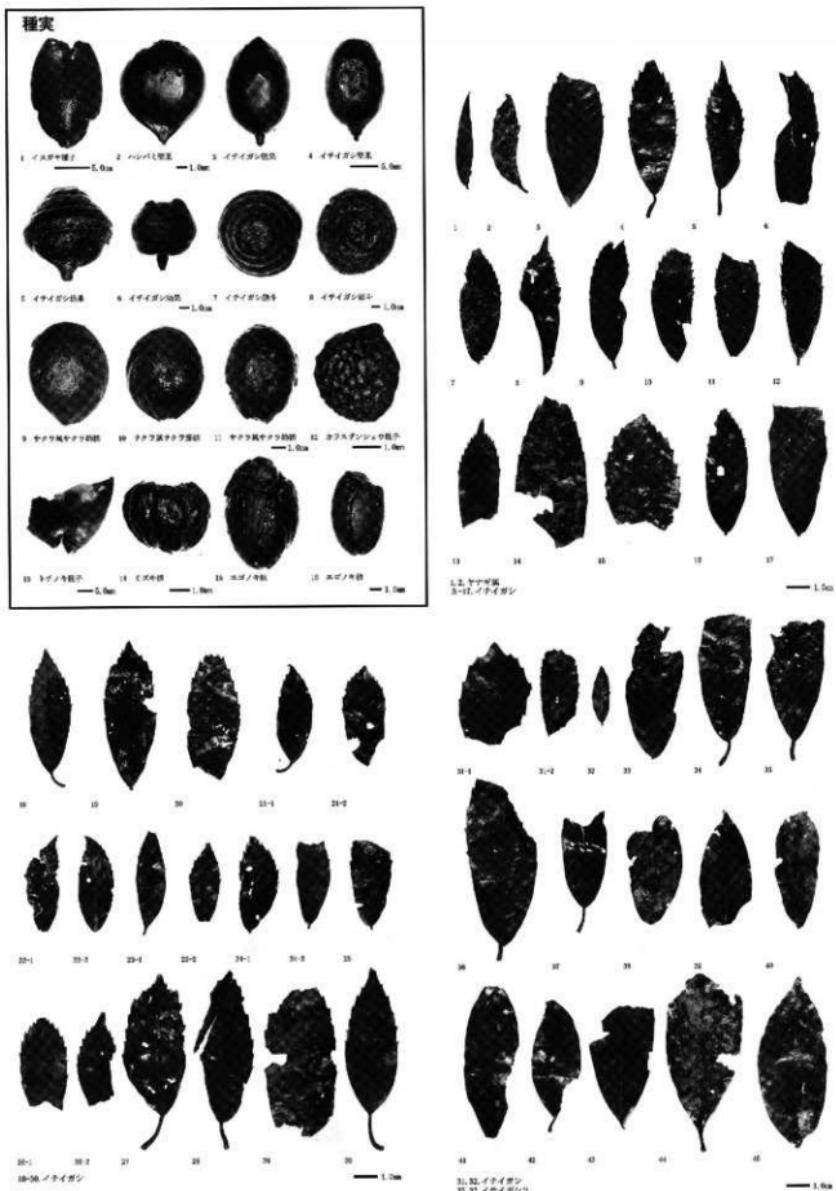


図4 河川1埋土採取試料の大型植物遺体（種実・葉）

シバミ1、カラスザンショウ1、ミズキ1が検出された。イチイガシは比較的対応する様に堅果、幼果、殻斗と葉が検出された。

葉は同定できるものは、ほとんどがイチイガシであり、ヤナギ属が少数同定された。

### 5 推定される植生

種実、葉とともにイチイガシが卓越することから、周辺はイチイガシ林が分布していたと推定される。他に同定されたサクランボ属・サクラ属、トチノキ、エゴノキ、イヌガヤ、ハシバミ、カラスザンショウ、ミズキ、ヤナギ属は、主要とはならないが照葉樹林に生育する樹木で、特にトチノキ、エゴノキ、ヤナギ属は谷沿いなどの湿润なところに生育する。これらの中でイチイガシ、トチノキは食用となる有用植物であり、イチイガシは西南日本の照葉樹林を構成する主要高木で、カシ類の中でアカ抜きなしに食べられる唯一の種類である。

#### (参考文献)

- 吉木龍彦 (1992) 長瀬地遺跡の歴史。月刊考古学ジャーナル No.3 ニューサイエンス社。p.18-22。  
南木鉄郎 (1993) 葉・果実・種子。日本第四紀学会編。第四紀試料分析法。東京大学出版会。p.276-283。  
渡辺誠 (1975) 奈良時代の植物食。雄山閣。187p.

(株式会社 古環境研究所)

## 3. 平城京第563次調査における花粉分析

### 1 はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的大域な植生・環境の復元に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

### 2 試料

分析試料は、奈良時代の溝SD08の埋土である灰色砂混じり粘土層より採取された試料1点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

### 3 方法

花粉の分離抽出は、中村(1967)の方法をもとに、以下の手順で行う。

- 0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加え15分間浴漬
- 水洗処理の後、0.5mmの筋で砾などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 水洗処理の後、水酢酸によって脱水し、アセトトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す
- 再び水酢酸を加えて水洗処理
- 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300~1000倍で行う。花粉の同定は、島倉(1973)および中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行う。結果は

同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示す。イネ属については、中村(1974, 1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表裏断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。

### 4 結果

#### (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉15、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉11、シダ植物胞子2形態の計31である。これらの学名と和名および粒数を表に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は、周辺の植生を復元するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを作成した(図1)。主要な分類群は写真(図2)に示す。なお、寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に出現した分類群を記載する。

#### [樹木花粉]

ツガ属、マツ属複雑管束亞属、マツ属単雑管束亞属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ハンノキ属、カバノキ属、クリ、シイ属、コナラ属コナラ亞属、コナラ属アカガシ亞属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、トチノキ、ブドウ属

#### [樹木花粉と草本花粉を含むもの]

クワ科-イラクサ科、マメ科、ウコギ科

#### [草本花粉]

イネ科、カヤツリグサ科、タデ属、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、セリ亜科、タンポポ科、キク亜科、ヨモギ属

#### [シダ植物胞子]

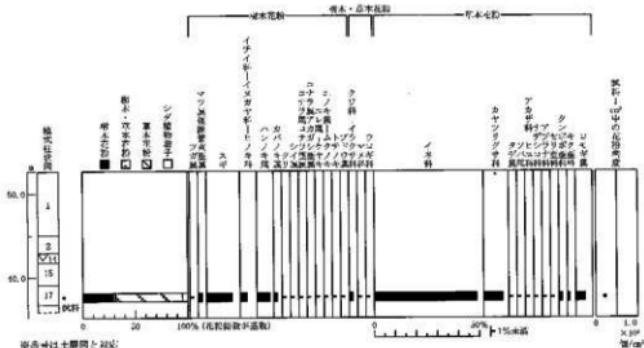


図1 満SD 08 埋土採取試料の花粉ダイアグラム

## 單条溝胞子、三条溝胞子

## (2) 花粉群集の特徴

試料の花粉群集は、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ科が高率に出現し、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが伴われソバ属が出現する。樹木花粉では、スギを主に、ハンノキ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、カバノキ属、マツ属複数管束亞属などが低率に出現する。

## 5 花粉分析から推定される植生と環境

奈良時代の満SD 08 の埋土である灰色砂混じり粘土層の堆積当時は、イネ科を主にカヤツリグサ科、ヨモギ属の草本が分布し、近隣には樹木は疎であったとみられる。ソバ属が出現し、畑の分布も考えられる。樹木は、近隣に孤立木として疎に分布するか、やや遠方にスギを主に、ハンノキ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、カバノキ属、マツ属複数管束亞属などの森林が分布していたと推定される。

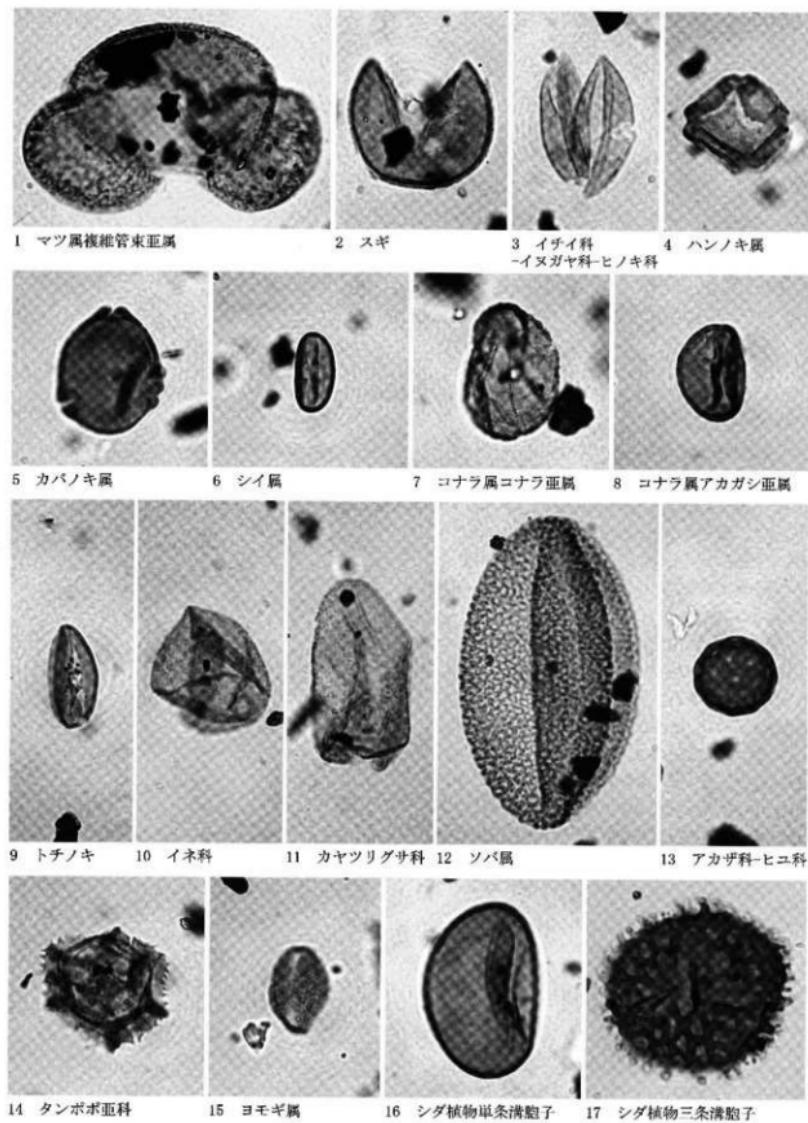
## (参考文献)

- 金原正明 (1993) 花粉分析法による古墳地復原、新説古代の日本第10巻  
古代資料研究の方法、角川書店、p.248-262。
- 馬鹿山一郎 (1973) 日本植物の花粉形態、大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集、60p。
- 中村純 (1967) 花粉分析、占今書院、p.82-102。
- 中村純 (1974) イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*)を中心として、第四紀研究、13, p.187-193。
- 中村純 (1977) 種子とイネ花粉、考古学と自然科学、第10号、p.21-30。
- 中村純 (1980) 日本国花粉の叢書、大阪自然史博物館収蔵目録第13集、91p。

(株式会社 古環境研究所)

## 表 満SD 08 埋土採取試料の花粉分析結果

花粉	2世紀		盛り上り 花粉量(%)
	年	種名	
Asteridae pollen	100	セトウチク	1
Trevo	100	ツタ	1
Pterid. Polyp.	100	マツモ類(葉被葉類)	1
Pterid. Adiant.	100	マツモ類(葉被葉類)	1
Cyperaceae	100	シダ	42
Ulmaceo-Cyathaleso-Capitatoe	100	イクイノキ-カヤツリグサ-ヒノキ科	1
Aster	100	ハンノキ	22
Betula	100	カバノキ属	6
Cuscuta crenata	100	クリ	1
Cistopteris	100	シイタケ	1
Osmunda cinn. Cyclophyllous	100	コウモリモリ(シラタマモ)	2
Ulmus-elliptica serrata	100	シレモモリヤナギ	2
Celtidio-Phenomea aquatica	100	エノキ属、ムクノキ	5
Aceraceae nemoralis	100	トリノキ	1
Grass	100	芝刈見	2
Asteroid - Nonherb. pollen	100	河内・高木花粉	1
Mesono-Urticaria	100	タガヤ-イブキモ	0
Lycopodiaceae	100	メノウ	1
Sphagnum	100	モウセンゴケ	1
Nonherb. pollen	100	モウセンゴケ	1
Osmunda	100	イヌヌカ	207
Cyperaceae	100	カヤツリグサ科	21
Adonis	100	シダ	1
Fragaria	100	ブナ	1
Chionodoxa-Asteraceae	100	アカツキ-ヒバ	2
Caryophyllaceae	100	ナデシコ	1
Crassula	100	アズキナ	1
Aquatic	100	セトウチク	1
Lamiales	100	シダモリ科	5
Asteraceae	100	タケ	4
Artemia	100	セイザン	23
Fern spore	100	シダ類(孢子)	0
Mosses type spore	100	モウセンゴケ	0
Trilete type spore	100	モウセンゴケ	0
Asteridae pollen	100	セトウチク	201
Asteroid - Nonherb. pollen	100	河内・高木花粉	8
Nonherb. pollen	100	モウセンゴケ	221
Jugl. pollen	100	モウセンゴケ	243
Pollen response of test <sup>2</sup>	100	河内100年の花粉量	1.2
✓	100	×10 <sup>3</sup>	1
Unknown pollen	100	モウセンゴケ	1
Pinus spore	100	シダ類(孢子)	15
Reedm. spore	100	モウセンゴケ	(+)
Gramineae	100	モウセンゴケ	(+)
Ovule fragments	100	モウセンゴケ	(+)



— 10  $\mu\text{m}$

図2 溝SD08採取試料の花粉・胞子

## 4. 平城京第 557 次調査出土金属製品の成分分析

### I 井戸 S E 508 出土 山形金具

#### 1 分析対象

井戸 S E 508 (奈良時代) 出土 山形金具: 1 点  
(図 1)



#### 2 使用機器及び原理

##### (1) 使用機器

エネルギー分散型蛍光X線分析装置 (以下、XRF)

セイコーアイソツルメンツ株 SEA5230

測定条件 管球: モリブデン管球

コリメータ径: 1.8mm

管電圧: 45kV

図 1 測定箇所

##### (2) 原理

試料の微小領域にX線を照射し、その際に試料から放出される各元素に固有の蛍光X線を検出することにより元素を同定する。

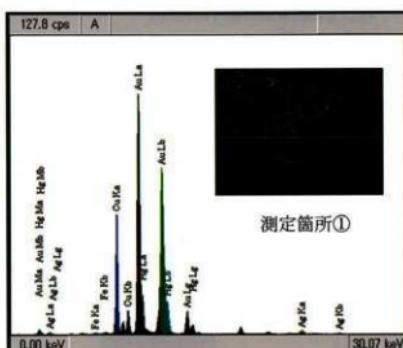


図 2 測定箇所①のXRFスペクトル

#### 3 分析方法

山形金具の材質を調べるために、XRFで元素分析を行った (測定箇所: 図 1)。

#### 4 結果

XRFの結果、測定箇所①から鉄(Fe)、銅(Cu)、銀(Ag)、金(Au)、水銀(Hg)を検出した (図2)。わずかに検出された鉄、銀は主要成分である銅や金の不純物由来であると考えられる。側面の測定箇所②から、銅が強く検出された (図3)。水銀が検出されていることから、銅に水銀を用いて金箔を貼ったか金アマルガム法により鍍金した銅製品であると考えられる。

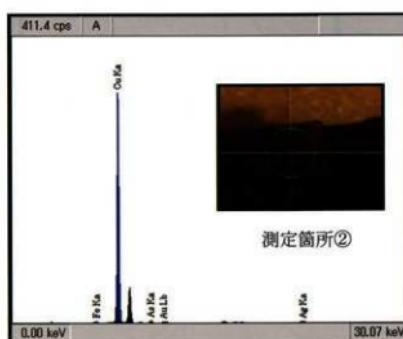


図 3 測定箇所②のXRFスペクトル

## Ⅰ 井戸 S E 509 出土 鉄製金具

## 1 分析対象

井戸 S E 509 (奈良時代) 出土 鉄製金具: 1 点  
(図 4)

## 2 使用機器

## A. エネルギー分散型蛍光X線分析装置 (以下、XRF)

セイコーインスツルメンツ(株) SEA5230

測定条件 管球: モリブデン管球

コリメータ径: 1.8 mm

管電圧: 45 kV

B. 全反射吸収測定・フーリエ変換型赤外分光光度計  
(以下、ATR-FTIR)

TECHNOLOGIES(株) Travel IR

測定条件 分解能: 4 cm<sup>-1</sup>

検出器: DLATGS

## 3 分析方法

鉄製金具の材質を調べるために、XRFで元素分析を行った (測定箇所: 図 4)。また、表面の膜成分を測定するため、剥落していた破片を ATR-FTIR にて分析した。

## 4 結果

金具の XRF 測定を行った結果、鉄 (Fe) のみが検出された (図 4)。鉄製金具の材質は、鉄である。逆の面からも測定した (データ省略) が、鉄のみを検出した。

破片の ATR-FTIR 測定を行った結果、漆の特徴的なスペクトル (約 2950, 1700-1600 cm<sup>-1</sup> にピークをもつ) は得られず、炭酸塩に特徴的なスペクトル (約 1400 cm<sup>-1</sup>) が得られた (図 5)。破片は、塗膜成分でなく、鉄錆が剥落したものである可能性が高い。

(財団法人 元興寺文化財研究所)

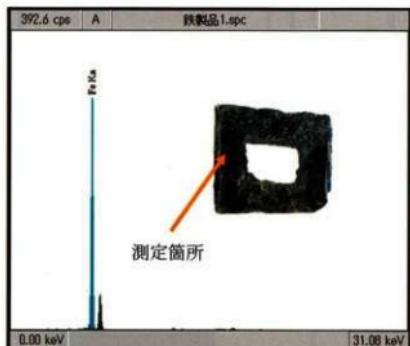


図 4 鉄製品の測定箇所と XRF スペクトル

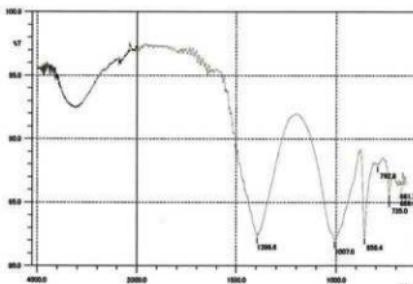


図 5 破片の ATR-FTIR スペクトル

## 第 3 章 平成 18 年度保存活用事業報告

---

## 平成 18 (2006) 年度埋蔵文化財保存活用事業報告

## 1. 展示

## A 常設展示

対象: 一般

会期: 平成 18 年 4 月 3 日(月)~10 月 27 日(金)  
平成 19 年 1 月 4 日(木)~3 月 30 日(金)  
(207 日間)

場所: 埋蔵文化財調査センター展示室

趣旨: 奈良市の歴史を埋蔵文化財の展示を通じて  
知ってもらう。内容: 古石器時代~江戸時代の各時代の埋蔵文化  
財を遺跡ごとに展示。

観覧者数: 1193 名

## B 泰良市指定文化財の展示

対象: 一般

会期: 平成 18 年 4 月 3 日(月)~7 月 7 日(金)  
平成 19 年 1 月 4 日(木)~2 月 28 日(金)  
(192 日間)

場所: 埋蔵文化財調査センター展示室前ロビー

趣旨: 奈良市が重要であると考え、指定した文化  
財について知ってもらう。内容: 考古資料「杉山古墳形埴輪」(この遺物  
については、平城京でも展示)  
考古資料「銅製壺形分銅」  
考古資料「ベンショ塚古墳出土品」  
(この遺物については常設展示で展示)

観覧者数: 235 名

C 第 24 回平城京展「古墳の残像—都の造営で壊され  
た古墳・残された古墳—」の開催

対象: 一般

会期: 平成 18 年 10 月 30 日(月)~12 月 27 日(金)  
(実質開館日 48 日間)場所: 埋蔵文化財調査センター展示室及びロビー  
趣旨: 平城京を造営する際に壊されて埋没してし  
まつた古墳と、残された古墳をテーマに出  
土遺物・パネルを展示。

観覧者数: 734 名

その他: 「なら教育の山」関連事業として実施。  
・案内を「しみんだより」11 月号に掲載。  
・奈良市役所のホームページに掲載。  
・宣伝用のポスター・チラシを配布。  
・展示解説用パンフレットの作成。

・事前に報道機関に資料を配布。

・職員による展示解説を実施(11 月 18 日)

11:00 ~、参加者 10 名)。

・埋蔵文化財講演会を実施。

11 月 25 日(土)13:00 ~16:00、参加者 45 名

開場: 埋蔵文化財調査センター講座室

岸本直文「平城京の造営で壊された古墳たち」

池田裕英「(仮称) 法華寺境内古墳の調査」

久保邦江「展示趣旨説明」

## D 発掘速報展示(2 回)の開催

対象: 一般

場所: 埋蔵文化財調査センター展示室前ロビー

趣旨: 平成 17 年度(夏期)・18 年度(春期)にど  
のように発掘調査を行い、どのような成果  
があったかを展示によって知ってもらう。

## ①夏期速報展示

会期: 平成 18 年 7 月 10 日(月)~8 月 31 日(木)  
(39 日間)内容: ・平城京跡(左京九条三坊十一坪・十二坪)  
の発掘調査。主な展示遺物・新羅土器、  
土馬  
・平城京跡(右京六条四坊十四坪)の発掘  
調査。主な展示遺物・鐵製釘・木棺墓の  
副葬品(須恵器壺)  
・古市桜谷遺跡の発掘調査。  
主な展示遺物・須恵器子持壺台

観覧者数: 396 名

その他: ・案内を「しみんだより」7 月号に掲載。  
・宣伝用ポスター・チラシの作成・配布。  
・展示リーフレットを作成。  
・事前に報道機関に資料配布。

## ②春期速報展示

会期: 平成 19 年 3 月 1 日(木)~3 月 30 日(金)  
(22 日間)内容: ・(仮称) 大森遺跡の発掘調査。主な展示  
遺物・赤土器・打製石器  
・平城京東市跡推定地の発掘調査。主な  
展示遺物・土器・須恵器  
・奈良町遺跡の発掘調査。主な展示遺物一  
江戸時代陶磁器・赤膚焼

観覧者数: 377 名

その他: ・案内を「しみんだより」3 月号に掲載。

- ・宣伝用ポスター・チラシの作成・配布。
- ・展示リーフレットを作成。
- ・事前に報道機関に資料配布。
- ・埋蔵文化財調査センターホームページで広報。

**E 年間観覧者数**

1927名(254日間)。累計:11609名。月平均:160.6名。  
月別、男女別、居住地別、年齢別は、表1の通り。

表1

月別:

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27	113	60	194	254	85	49	419	289	31	29	377

居住地別:

男女別:

学生:

奈良市内	奈良県内	近畿圏内	近畿圏外	男	女	学生
361	140	105	85	1423	494	46

## 2. 発掘調査現地説明会の開催

**A 平城京跡(左京三条六坊十坪)奈良町遺跡の調査**

## ○地元説明会の開催

対象:高天町・高天市町・中筋町・中御門町  
各自治会内の住民

期日:平成18年10月28日(土)

会場:調査地現地

## ○現地説明会の開催(2回)

対象:一般

期日:平成18年10月28日(土)  
平成19年1月20日(土)

会場:調査地現地

参加者数:約230名(第1回)・約700名(第2回)

その他:事前に記者発表(平成18年10月26日)  
(平成19年1月18日)

## ○現地見学の受け入れ

対象:愛知県岡崎市立福岡小学校

期日:平成18年10月30日(日)

## 会場:調査地現地

## ○公民館の講座

対象:平城東公民館主催の講座参加者  
期日:平成19年1月19日(金)

会場:調査地現地

**B 史跡大安寺旧境内東塔跡の調査**

## ○地元説明会の開催

対象:大安寺地区住民  
期日:平成18年12月14日(木)

会場:調査地現地

## ○現地説明会の開催

対象:一般

期日:平成18年12月17日(日)

会場:調査地現地

参加者数:277名

その他:事前に記者発表(平成18年12月15日)

## 3. 講演会・教室の開催

**A 「埋蔵文化財発掘調査報告会」の開催**

対象:一般

期日:平成19年3月17日(土)

会場:埋蔵文化財調査センター講座室

内容:平成18年度に埋蔵文化財調査センター  
が行った主な発掘調査の報告を行う。  
・久保清子「平城京跡(左京五条五坊  
二坪・東四坊人路)の調査」  
・安井宣也「平城京跡 東市跡推定地  
の調査」

・松浦五輪美「史跡大安寺旧境内東塔  
跡の調査」

・中島和彦「平城京跡(左京三条六坊  
十坪)・奈良町遺跡の調査」

趣旨:平成18年度に実施した調査を職員が、  
写真映像・図を使用しながら説明するこ  
とによって、どのような発掘調査を行い、  
どのような成果があったかを知ってもら  
う。

参加者数:36名

- その他：・募集案内を「しみんだより」3月号に掲載。  
・宣伝用ポスター・チラシの作成・配布。
- B 「夏休み親子考古学教室」**
- 対象：小学生の児童とその保護者  
期日：平成18年8月22日・23日各1回  
(各午後1:00～3:00)  
内容：埋蔵文化財調査センターの業務を紹介。

#### 4. 体験学習・実習の受け入れ

**A 博物館実習の受け入れ**

- 対象：追手門学院大学 5名  
期日：平成18年10月24日(火)～30日(月)  
5日間  
内容：第24回平城京展の展示設営  
遺物の写真撮影  
チラシの作り方(PC)

**B 高校体験学習の受け入れ**

(1)

- 対象：一条高校生徒(2年生)39名  
期日：平成18年9月19日(火)  
場所：埋蔵文化財調査センター  
内容：遺物の洗浄・注記・拓本

(2)

- 対象：一条高校生徒(2年生)38名  
期日：平成18年9月28日(木)  
場所：平城京跡・奈良町遺跡発掘調査現場  
(奈良市高天町・高天市町・中筋町)  
内容：発掘調査の体験学習

**C 中学校職場体験の受け入れ**

(1)

- 対象：伏見中学校男子学生(2年生)5名



夏休み親子考古学体験

- A. 瓦の拓本をとる。B. 瓦を洗浄する。  
会場：A. 埋蔵文化財調査センター 講座室  
B. 埋蔵文化財調査センター 洗浄室  
趣旨：古代の瓦について知ってもらい、発掘調査の遺物整理作業の一部である、瓦の洗浄・拓本を体験してもらうことによって、奈良市の歴史にふれてもらう。  
参加人数：A 22名 B 6名 合計28名

- 期日：平成18年7月31日～8月2日3日間  
場所：埋蔵文化財調査センター・JR奈良駅南地区周辺土地区画整理事業地の発掘現場(大森町)

(2)

- 対象：春日中学校男子学生(2年生)4名  
期日：平成18年9月12日～9月14日  
3日間

- 場所：埋蔵文化財調査センター・  
平城京跡・奈良町遺跡発掘調査現場  
(高天町・高天市町・中筋町)

- 内容：遺物洗浄・注記作業・発掘調査

(3)

- 対象：登美ヶ丘中学校男子学生(2年生)5名  
期日：平成18年11月9日・10日の2日間  
場所：埋蔵文化財調査センター  
内容：遺物洗浄作業・注記作業

(4)

- 対象：二名中学校女子学生(2年生)2名  
男子学生(2年生)1名  
期日：平成18年11月14日・15日の2日間



中学校職場体験

場所	埋蔵文化財調査センター・旧田中家住宅	内 容	遺物洗浄作業・注記作業・旧田中家管理
内 容	遺物洗浄作業・注記作業・旧田中家管理	(6)	
対象	三笠中学校女子学生（2年生）1名	対象	京西中学校男子学生（2年生）4名
男子学生（2年生）4名		期日	平成19年1月16日～18日の3日間
期日	平成18年11月16日・17日の2日間	場所	埋蔵文化財調査センター
場所	埋蔵文化財調査センター・旧田中家住宅	内 容	展示替え・遺物箱包作業材製作 ・遺物洗浄・遺物注記作業

## 5. 職員の講師等派遣等

### A 奈良県立図書情報館長公開講座

期日：平成18年5月27日(土)

場所：奈良県立図書情報館

（奈良市大安寺西一丁目）

派遣人数：1名

内 容：史跡大安寺旧境内（西塔跡）の発掘調査

### B (財) 奈良市生涯学習財団主催講座

まちかど記者～防災と考古学の最前線～

期日：平成18年8月4日(金)

場所：奈良市埋蔵文化財調査センター

（奈良市大安寺西二丁目）

派遣人数：3名

内 容：埋蔵文化財調査センターの業務紹介

### C (財) 奈良市生涯学習財団都跡公民館主催事業

「みあとキッズ探偵団」

期日：平成18年8月5日(土)

場所：埋蔵文化財調査センター

（奈良市大安寺西二丁目）

派遣人数：2名

内 容：埋蔵文化財調査センターの見学と土器  
デッサン

### D 桜井市立埋蔵文化財センター秋季特別展

『桜井の井戸』講演会

期日：平成18年11月18日(土)

場所：桜井市埋蔵文化財センター

（桜井市大字芝）

派遣人数：1名

内 容：「井戸からわかることあれこれ」

### E (財) 奈良市生涯学習財団富雄南公民館主催事業

「いきいきクラブ」

期日：平成19年1月19日(金)

場所：富雄南公民館（奈良市中町）

内 容：発掘調査の手順と方法・埋蔵文化財の活用

### F (財) 奈良市生涯学習財団平城東公民館主催事業 「イチから学ぶ“発掘調査”」

期日：平成19年1月19日(金)・2月21日(木)  
3月14日(土)

場所：平城京跡・奈良町遺跡発掘調査現場（高天町・高天市町・中筋町）  
平城東公民館（奈良市朱雀六丁目）  
埋蔵文化財調査センター  
(奈良市大安寺西二丁目)

派遣人数：4名

内 容：発掘調査の手順と方法・埋蔵文化財の活用

### G 平成18年度奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会「発掘調査報告会」

期日：平成19年3月3日(火)

場所：桜井市まほろばセンター  
(桜井市大字桜井)

派遣人数：2名

内 容：①平城京跡 東市跡発掘調査  
②平城京跡（左京三条六坊十坪）・奈良町遺跡の調査

### H (財) 奈良市生涯学習財団平城東公民館主催事業 「二名生涯学習セミナー」

期日：平成19年3月8日(木)

場所：埋蔵文化財調査センター  
(奈良市大安寺二丁目)

派遣人数：3名

内 容：発掘調査の手順と方法・埋蔵文化財の活用

## 6. 埋蔵文化財調査センター保管遺物・写真等の貸し出し、ほか

埋蔵文化財調査センターで保存・管理している遺物・写真などの資料提供・掲載許可を行った。また、学術研究に関わって、資料の閲覧を受け入れた。

A 遺物等の貸出 13件(表2のとおり)

B 写真等の貸出 10件(表3のとおり)

C 学術研究に関わる資料閲覧 16件(表4のとおり)

表2

	貸出機関	使用目的	貸出期間	貸出内容
1	東京国立博物館	平成館考古展示室に常設展示	平成18年4月1日～平成19年3月31日	平城京跡出土木簡10点(織進上木簡1点、木借鏡申請木簡1点、豹皮分付札1点、波皮御山侍奴画指木簡1点、北宮封職木簡1点、衛府進塙付札1点、緑布付札1点、槐花進上木簡1点、造酒司符1点、瓦進上木簡1点)、分銅(模造品)1点(平城京跡第167次調査出土)
2	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	速報展「大和を掘る・24」～2005年度発掘調査速報展	平成18年6月27日～平成18年9月8日	人骨2点、齒2点、刀子1点、耳環2点、須恵器3点、土師器1点、写真パネル(キャッシュショット)3点、図パネル1点(歌姫赤井谷横穴出土)、鶴尾8点、写真パネル1点、図パネル1点(西大寺旧境内 第19次調査出土)、龜文上器深鉢1点、集石炉1点、写真パネル1点(別所下ノ前遺跡第4次調査出土)
3	株式会社古環境研究所	九州古代種子研究会にて土器圧痕モデリング法の実施	平成18年6月29日～平成18年7月4日	弥生土器底部1点(平城京跡第373次調査出土)、弥生土器被片2点(平城京跡第375次調査出土)
4	(財)元興寺文化財研究所	平成18年度特別展示「ヤマ・サト・マチの民間信仰～具現化された民衆の心～」に展示	平成18年8月30日～平成18年11月17日	犬形土製品2点(元興寺旧境内第48次調査出土)
5	上田市立信濃国分寺資料館	特別展示「古代信濃と東山道諸国の中の国分寺」に展示	平成18年9月6日～平成18年11月7日	軒平瓦1点(平城京跡第504次調査出土)
6	旧原本町教育委員会	平成18年度秋季企画展「弥生時代の青銅器鑄造～唐古・鍛跡出土品を中心に～」	平成18年10月10日～平成18年11月24日	坩埚3点、送風管3点、被熱瓦2点、炉壁片3点、木炭4点、からみ5点、神功開寶および鎌棹、銅片9点、鍛型4点(平城京跡第405次調査出土)、和同開珎(平城京跡第413次調査出土)、ガラス小玉鍛型1点(平城京跡第20次調査出土)、ガラス小玉鍛型1点(平城京跡第366次調査出土)
7	めばえ幼児才能学園	自然体験学習	平成18年10月31日～平成18年11月12日	火おこしセット5セット ヒモギリ式3セットマイギリ式1セット 火打ち石1セット
8	茨城県立歴史館	平成18年度特別展示「すもう今昔」展示	平成19年1月15日～平成19年3月31日	墨書き器4点「相撲所」2点、「左相撲 助」1点、「左相撲」1点(平城京跡第28次調査出土)

奈良市管内

9	奈良県上木部水道課	下水道展'06展示	平成18年7月25日～平成18年7月28日	土管2点(平城京跡第133次調査出土)
---	-----------	-----------	-----------------------	---------------------

10	なら奈良館	常設展示	平成 18 年 4 月 1 日～ 平成 19 年 3 月 31 日	上篠器 9 点（東市跡第 4 次・6 次調査出土、平城京跡第 52 次・314 次調査出土）須恵器 14 点（東市跡第 4 次調査出土、平城京跡第 52 次調査・157 次調査出土）木製品 2 点（平城京跡第 174 次調査出土上曲物 1 点、第 257-3 次調査出土へら 1 点）パネル 1 点（貴族の食卓風景）
11	奈良市水道局	常設展示	平成 18 年 4 月 1 日～ 平成 19 年 3 月 31 日	軒平瓦 2 点、軒平瓦 1 点（平城京跡第 28 次調査出土）
12	辰市人権文化センター	常設展示	平成 18 年 4 月 1 日～ 平成 19 年 3 月 31 日	埠 1 点（平城京跡第 14 次調査出土）
13	富雄公民館	常設展示	平成 18 年 4 月 1 日～ 平成 19 年 3 月 31 日	弥生土器 2 点（杏遺跡出土）古墳時代の須恵器 2 点、土師器 2 点（杏遺跡出土、平城京第 162 次調査出土）、奈良時代の上篠器 1 点、須恵器 5 点（平城京跡第 52 次調査、第 92 次調査、第 133 次調査、第 157 次調査、第 222 次調査出土）、墨レプリカ 1 点、鎌倉時代の土師器 1 点、瓦器 1 点（奈良町遺跡・菅原東遺跡出土）室町時代の土師器（奈良町遺跡、元興寺旧境内第 4 次調査・第 13 次調査出土）、江戸時代の土師器・陶磁器（奈良町遺跡、元興寺旧境内第 15 次調査出土、菅原東遺跡出土）、パネル 12 点

表 3

	申請日	申請機関	目的	内容	その他
1	平成 18 年 3 月 31 日	国土環境（株）大阪支店	「京奈和自動車道（大和北道路）環境影響評価準備書（奈良県）」に掲載	パンフレット「史跡大安寺旧境内」に掲載の「大安寺旧境内全景（西南から）」の航空写真	転載許可
2	平成 18 年 4 月 20 日	地域情報ネットワーク株式会社	月刊「大和路ならら」2006 年 5 月号の「なららトビックス」に掲載	西大寺旧境内第 19 次調査出土 鶴尾	撮影、写真掲載
3	平成 18 年 5 月 26 日	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	速報展「大和を掘る・24」～2005 年度発掘調査速報展の展示図録掲載	歌姫赤井谷横穴写真 3 点・横穴構造圖 1 点、西大寺旧境内第 19 次調査発掘現場写真 4 点、別所下ノ前遺跡発掘現場写真 4 点（デジタルデータ）	貸出、掲載許可
4	平成 18 年 6 月 19 日	上山市立信濃国分寺資料館	特別展示「古代信濃と東山道諸国の中分寺」の展示図録掲載	平城京跡第 504 次調査発掘区 全景写真 1 点、井口/SX05 写真 1 点（6×7 カラーポジ）	貸出、掲載許可
5	平成 18 年 6 月 27 日	奈良県土木部水道課	下水道展 '06 展示用 DVD 作成	平城京跡第 133 次調査 SX06 検出写真 1 点（35mm スライドフィルム）	貸出
6	平成 18 年 7 月 20 日	奈良新聞社	奈良新聞「地下に眠るやまととの遺跡」掲載のため	平城京跡第 283 次調査出土飾り弓の写真・同図	掲載許可
7	平成 18 年 7 月 6 日	茨城県歴史館	平成 18 年度特別展示「すもう今昔」図録掲載	平城京跡第 28 次調査出土墨青上器「相撲所」2 点、「相撲所」1 点、「左相撲 助」1 点、「左相撲」1 点（35mm スライドフィルム）	貸出、掲載許可
8	平成 18 年 8 月 7 日	(財) 元興寺文化財研究所	平成 18 年度特別展示「ヤマ・サト・マチの民間信仰～具現化された民衆の心」の図録に掲載	元興寺旧境内第 48 次調査出土犬形土製品の写真（4×5 ポジフィルム）	貸出、掲載許可

9	平成 18 年 8 月 21 日	山原本町教育委員会	平成 18 年度秋季企画展「弥生時代の青銅器铸造～焼古・鍛造跡出土品を中心に～」展示図録掲載	半城京跡第 405 次調査、413 次調査出土遺物写真、HJ 第 405 次調査井戸 S E 14 烧古(4 × 5 カラーポジフィルム)	貸出、掲載許可
10	平成 19 年 1 月 18 日	(株)至文堂	「出土建築部材が解く古代建築」『日本の美術 第 490 号』掲載	史跡人安寺旧境内第 44 次調査出土 家形埴輪写真	掲載許可
11	平成 19 年 3 月 8 日	株式会社 青木書店	吉村武彦・山路直充編『都城とシンボリズム』青木書店 2007 年 3 月刊掲載	「平城京右京二条三坊二坪の遺構図」、「平城京左京四条四坊十五・十六坪遺構概念図」、「平城京左京九条大路周辺の発掘調査 I 区遺構図」、「平城京左京四条九条大路周辺の遺存地割と調査区図」	掲載許可

表 4

	閲覧日	申請者	目的	閲覧資料名
1	平成 18 年 4 月 24 日～ 6 月末	大理大学大学生	中世土器の研究	古市遺跡出土中世土器
2	平成 18 年 6 月 14 日	京都大学大学院生	修士論文作成	芝辻遺跡(平城京跡 第 375 次調査)出土 弥生土器
3	平成 18 年 6 月 20 日	立命館大学大学生	調査研究	赤田横穴・狐塚古墳・敷島町出土陶棺
4	平成 18 年 7 月 1 日	埴輪研究会	研究会活動	佐紀古墳群・杉山古墳・背原東遺跡出土埴輪
5	平成 18 年 7 月 7 日	立命館大学講師	個人研究	発掘調査で作成した地層断面図
6	平成 18 年 8 月 7 日	大阪大学大学院生	修士論文作成	長谷遺跡出土土器
7	平成 18 年 9 月 11 日	(財)元興寺文化財研究所職員	個人研究	西隆寺跡調査第 7 次調査遺構略測図・西大寺旧境内第 17 次調査遺構略測図
8	平成 18 年 9 月 26 日	河内長野市教育委員会職員	個人研究	菅原東遺跡・長谷遺跡・南紀守遺跡出土土器
9	平成 18 年 10 月 11 日	奈良大学大学生	卒業論文作成	菅原東遺跡出土土器
10	平成 18 年 10 月 18 日	石川県立金沢商業高等学校教員	個人研究	背原東遺跡出土猪玉製品
11	平成 18 年 11 月 9 日	奈良女子大学大学院生	修士論文作成	ゼニヤクボ遺跡出土鉄鏃
12	平成 18 年 11 月 20 日	國學院大學日本文化研究所職員	個人研究	平城京跡第 266 次調査出土唐花六花鏡断片
13	平成 18 年 12 月 4 日	京都大学大学院生	修士論文作成	平城京跡第 148 次調査・第 162 次調査・第 181 次調査出土土師器
14	平成 19 年 3 月 26 日	(財)元興寺文化財研究所職員	隣接地発掘調査のための資料確認	平城京跡第 84 次調査・第 422 次調査遺構平面図・写真
15	平成 19 年 3 月 29 日	奈良女子大学大学院生	修士論文作成	史跡東大寺旧境内・史跡大安寺旧境内・元興寺旧境内第 47 次調査出土山茶碗

## 第 4 章 紀要

---

## 目 次

1. 率川古墳と外京条坊および出土埴輪	鍾方正樹 .....	149
2. 法華寺址内古墳とその埴輪	池田裕英 .....	159
3. 人安寺旧境内から出土した平安時代以降の軒瓦	原田憲二郎 .....	166

# 率川古墳と外京条坊および出土埴輪

鐘方正樹

## Iはじめに

中世以降に興福寺や東大寺の門前町として発展する奈良の旧市街地（奈良町）の中に、開化天皇陵として管理される坂上山古墳が1基だけ単独で残っている。しかし、近年実施した坂上山古墳周辺での発掘調査によって、市街化に伴い破壊された古墳の痕跡や遺物が少なからず発見されつつある。複数の古墳が点在する古墳群が本来形成されていた可能性が高いことが判明してきた。

率川古墳も現在地上から姿を消してしまった古墳の一つである。1987年2月13日に東邦生命ビル建設に伴い奈良市本子守町11番地で実施した緊急の発掘調査（86年度-19）によって発見された古墳跡である（図1）。古墳周溝内から埴輪が多く出土し、市街地に消えた古墳群の様相を看取できる新知見を得ることができた。今回、その調査概要と出土埴輪について報告し、知られざる古墳群の一端について紹介する。また、率川古墳の確認から派生する平城京外京の条坊復元との関連性についても調査概要との関連の中で少し言及してみたい。

## II 発掘調査（86年度-19）の概要（図2～図4）

率川古墳 発掘調査で確認できたのは埴丘南側の裾部と周溝（S D 03）の一部だけで、古墳の全容は不明である。検出部分の形状から、直径約10mの円墳、あるいは後円部が同規模となる前方後円墳の可能性を考えられる。埴丘部には、盛土の一部とみられる厚さ0.15mの黄灰褐色砂質土（12層）が残る。周溝S D 03は、幅3.2m以上、深さ約0.9mである。周溝内の堆積土層を観察すると、埴丘裾に埴輪を包含する暗黒灰色砂質土（11層）、底に黒灰色砂質土・灰色砂質土（10・9層）がまざり堆積する。その後に奈良時代後半～末頃の遺物を包含する炭泥じり茶灰褐色土・黄褐色砂質土（8・7層）が埴丘周囲に堆積して周溝の幅が狭くなる。最終的に暗灰褐色砂質土・灰褐色砂質土・茶褐色砂質土（5・4・3層）で周溝は埋没し、埴丘を削平して茶灰色砂質土（2層）で平坦に整地された。

上層構造 この整地土（茶灰色砂質土）の上から井戸S E 01と南北溝S D 02が掘り込まれている。S E 01は直径3.45m以上、深さ0.7m以上で、南側の一部を検出したことにとどまる。S D 02は幅0.9～1.05m、深さ0.4mである。S E 01の埋土から11世紀後半の土師器皿・皿・瓦器碗など、SD 02埋土から12世紀代の土師器皿・

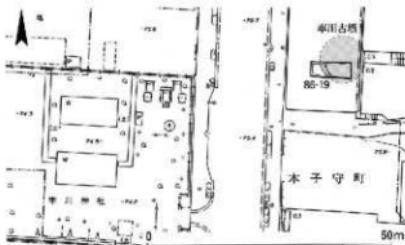


図1 86年度-19調査位置図 (1/1,000)



図2 86年度-19調査地と率川神社（東から）



図3 86年度-19調査区全景（東から）

瓦器楕・皿などが出土しており、9～11世紀後半までの間に古墳が削平されたことがわかる。逆に言えば、奈良時代には埴丘が残されていたことになる。また、11世紀後半には井戸が構築されており、遅くとも平安時代後期には調査地が宅地内であった可能性が高いと推測できる。

### Ⅲ 外京六坊の条坊復元と率川古墳

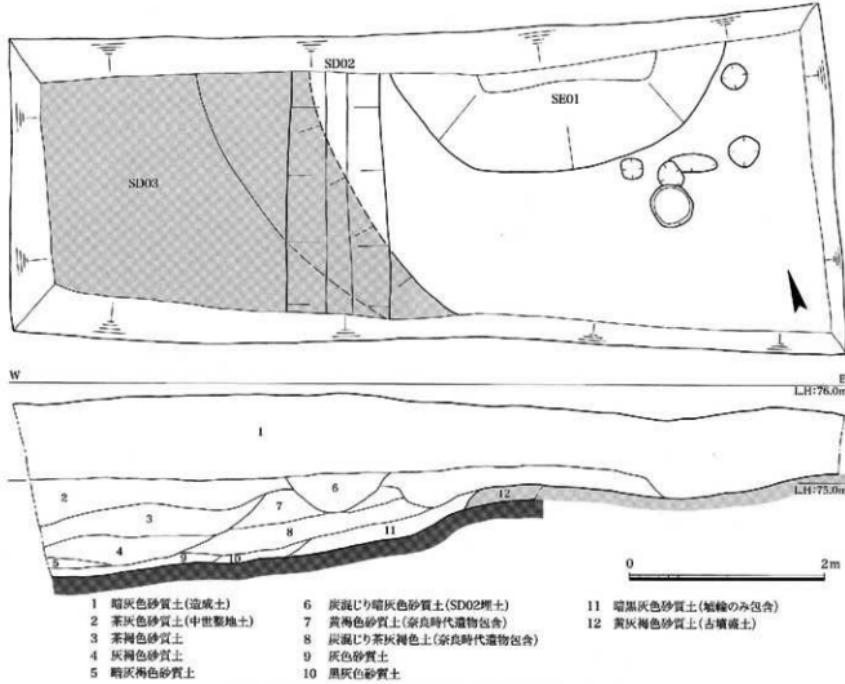
従来の平城京条坊復元によると、調査地は外京（左京）四条六坊八坪の東端および八坪と九坪を区切る六坊坊間路の推定地に相当する。発掘区の位置も六坊坊間路の確認を主目的として設定したが、調査地内でそれを確認することはできなかった。

これまでに実施した三条大路より北側での六坊坊間路推定地の調査でもそれが確認されたことがなく、路面推定箇所で10世紀前半の井戸（市HJ第89次調査S E 02）や11世紀末～12世紀前半の土坑（市HJ第228次調査SK 05）などが見つかっている。路面推定箇所に平安時代の井戸や土坑が構築されている事実は、遷

都後の中世都市化が進んでいない時期においてもそこが宅地として利用されていたことを示している。率川古墳が奈良時代まで路面推定箇所に遺存し、9世紀以降に削平されたと推定できる点は他の調査成果とも整合的であり、ここに条坊道路が存在したとは考古学的に考え難い。

そこで改めて注目できるのは、井上和人が掲げた「左京外京域では東四坊大路～東五坊大路間が537.0m、東六坊大路～東七坊（東京極）大路間が523.0mであるのに対し、東五坊大路～東六坊大路の間隔が516.0mと著しく狭い」という点である。井上はその理由を「左京六坊の西辺（東辺の誤り？）の坪に限って東西幅を狭く設定することにより、興福寺の寺地の占地を優先させた結果として生じた造営計画の誤差を解決したのではないか」と想定している（井上2004）。

興福寺の西を限る東六坊大路は、京造営基準尺で単純に割り付ける従来の条坊復元によると急崖の上を突っ切る位置にあり、現在残る地形からみても妥当な復元とは考えられない。むしろ、南北方向に尾根を切断するよ



うに急崖のすぐ下を東六坊大路が通るとした方が自然である。そうした場合、東六坊大路東側溝は従来の条坊復元よりも図上で測って約 22 m 西へずれる位置に想定できそうだ。この誤差は、井上が推測する 62.5 大尺（約 22.2 m）と大差ない（井上 2004）。東五坊大路の位置はほぼ従来の条坊復元通りの位置から見つかっており（市HJ 第 394 回調査）、遺存地割りとも合致するので、左京六坊だけが全体的に東西方向に狭まっていることになる。

そこで問題となるのは、左京六坊内の南北道路をどのように設定したのかである。東六坊大路に面する左京六坊の十三から十六坪だけを東西方向に縮小してその差を解消させたとする井上の想定（井上 2004）では、左京六坊内の条坊は従来通りとなり、実際の調査成果とは合致してこない。この問題を解決するには、東六坊大路と共に左京六坊内の幾つかの南北道路が従来の復元よりも西へずれると仮定するのがよいのではないかと推測する。仮に約 22 m 西へ南北道路をずらしていくと、坊間

東小路と坊間路が現在まで残る遺存地割としての南北道路（小西通・やすらぎの道など）の位置とほぼ合致してくれる点は重要な論拠となり得るだろう。ただし、（財）元興寺文化財研究所が最近実施した西新在家町 16 番地の発掘調査において東六坊坊間西小路と二条条間南小路の交差点が確認され、坊間西小路がほぼ従来の条坊復元位置にあることが判明した点は考慮されなければならない。坊間西小路については、坊間東小路・坊間路と比べて遺存地割がさほど明瞭でなく、調査成果を重視する必要がある。

外京六坊においては南北方向の条坊道路確認例がほとんどないという状況にあり、確定的なことは未だ言えない。しかし、以上のような幾つかの微証からみて、左京六坊の東西長縮小に伴う誤差は大路に面しない西から数えて南北第二列となる五～八坪で解消させた可能性が高いと想定することは可能であろう。なお、東六坊大路や六坊坊間路の正確な道路幅が不明であるため、詳細な条坊復元案を提示するのは今のところ困難である。そこで、



図5 外京六坊と率川古墳群 (1/4,000) [網伏せの条坊復元線が本稿の想定案]

断片的な資料から一つの推論を以下に少し述べておきたい。

東六坊大路は、特に興福寺西側において南北方向に尾根を大きく切削し構築されている。地形的制約を受けていたために、当初から幅員を大きく設定するのは無理があったと考えられる。これまでに確認されている南北方向の大路の中で幅員が最小となるのは、西二坊大路（市HJ第283次調査）と東四坊大路（市HJ第168次調査・377-1次調査）であり、側溝心々間距離で約16m（45大尺）となっている。仮に東六坊大路幅も同様に45大尺（1大尺0.355m）であったと推定し、市元興寺第40次調査SD01をその東側溝と仮定すると、東六坊大路心はX=-147,085.000m Y=-15,403.3275mとなる。同様に、東六坊大路のすぐ西側に設定された南北方向の坪境小路についても最小幅員で設定されたと考え、井上氏復元例を参照して幅員を15小尺（1小尺0.296m）と推定してみる。市HJ第67次調査SD01をその西側溝と仮定すると、坪境小路心はX=-146,161.000m Y=-15,540.580mとなる。この2点を定点とし、平城京造営方位の振れをN0度15分41秒W（奈良文化財研究所2003）と仮定してその間の距離を計算すると、133.0361mという数値が得られる。この値は1坪の設定長である375大尺に相当し、1大尺0.3548mで近似値を示す。

以上のように推定できるとすれば、さらに375大尺西側の位置にある六坊跡間隔はやすらぎの道路面の下に重複していることになり、やすらぎの道周辺の調査でそれを確認できないことと符合する（図5）。

さらに、外京六坊の条坊を復元する上で三条大路の幅員についても看過できない問題である。外京四条五坊一坪の調査（市HJ第299次・第318次調査）で三条大路の南側溝を確認し、三条大路の幅員は約16m（45大尺）と推定された。東六坊大路と同様に、三条大路は興福寺南側において地形的制約を大きく受けたに違いなく、幅員60大尺（約21.3m）をそこで確保することは困難である。したがって、外京の五坊から七坊にかけての三条大路の幅員は約16mであった可能性が想定できる。三条大路南側溝は推定通りの位置近くから見つかっており、北側溝及び道路心の位置が少し南へ動くことになる。条間南小路も3mほど南へ推定位置が移動するので、漢國神社東南古墳（後述）の南側をかすめて通る位置となる。

以上に言及したように、率川古墳の存在は外京六坊における条坊復元の再検討を改めて示唆する資料である。

今後の調査によって東六坊大路や六坊内南北小路の確認例が増加すれば、より具体的な条坊復元が可能となるだろう。

#### IV 出土埴輪の概要

率川古墳の周溝埋土から円筒埴輪・朝顔形埴輪のほかに石見型埴輪・蓋形埴輪・動物形埴輪が出土している。埴輪は遺物整理箱4箱分が出土し、埴輪の人半が円筒埴輪で占められる。埴輪の色調は橙色系（黄橙色・赤橙色）から灰色系（黄灰色・赤灰色）を呈し、無黒斑一部に須恵質に焼成された例もある。各種埴輪の概要について次に報告する。

**円筒埴輪**（図6-1～3・5～7）すべて破片化しており、底部から口縁部まで接合できて全体形がわかる個体はない。ただし、下から2段目と上から2段目に2個1対の円形透孔があり、6・8の例から1段置きにおよそ90度位置をずらして円形透孔を配置するという特徴が判明するので、4条突帯5段構成の円筒埴輪で下から2段目と4段目に円形透孔を穿孔する形態を推定復元することができる。以下、この推定復元に基づいて各例の観察所見を記述する。

口縁部全体が残るのは1～3の3点である。1は復元口径26.3cm・口縁部高8.7～8.8cm、2は復元口径29.0cm・口縁部高8.7～9.0cm・突帯間隔8.0～9.0cm、3は復元口径21.6cm・口縁部高7.7～8.0cmである。外面調整はいずれもタテハケ、内面調整は1・2がナナメナデ、3が口縁部のみヨコハケを行う。3点共に4段目に円形透孔がある。

底部が残るのは5・7の2点である。5は復元底径18.0cm・底部高11.4～9.7cm、7は底径17.0～21.0cm・底部高11.8～12.3cm・突帯間隔10.9～11.4cmである。2点共に外面調整はタテハケ、内面調整はナナメナデを行なう。5の底部下半には押圧による底部調整を行なうが、7には底部調整が認められない。底面には作業台表面の痕跡が残り、5は板目、7は藁の圧痕がみられる。2点共に底部は高さ8cm前後の粘土帶で成形する。7の2段目に円形透孔がある。

6は休部品で、底部と口縁部を欠失する。外面調整はタテハケ、内面調整はナナメナデを行なう。2段目と4段目に90度位置をずらして円形透孔を配置する。下から3条目の突帯直上の位置で積上げ休止面が認められ、2度の小工程を経て円筒埴輪が製作されたことがわかる。

突帯はすべて断続ナデ技法Aで成形されており、ヨコナデを省略する断続ナデ技法Bは認められない。

**朝顔形埴輪**（図6-4・8）円筒埴輪と同様に4条突

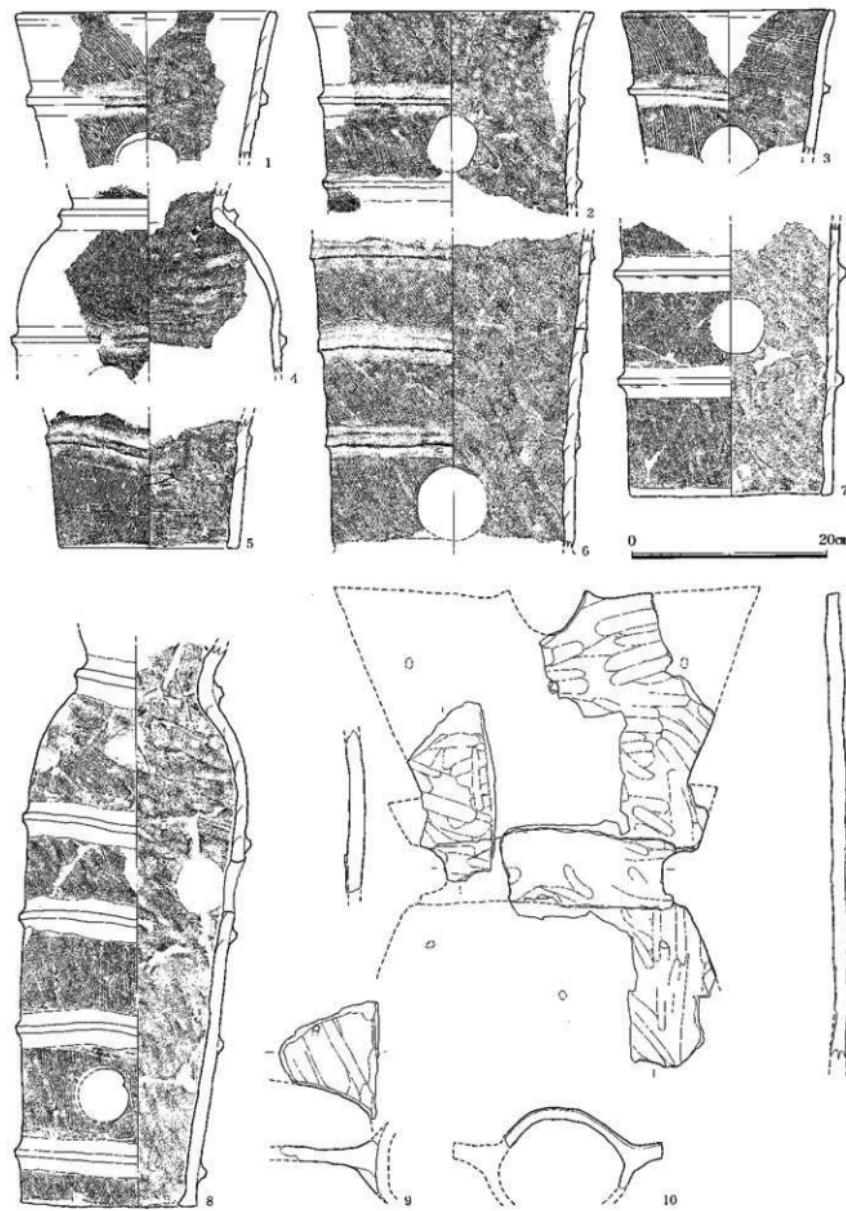


図6 出土埴輪実測図① (1/5)

帶5段で底部～肩部が構成されている。8は残存高57.8cmで、底部から頸部の一部まで遺存し、口縁部を失する。底径17.0～18.0cm・底部高3.7～5.4cm・2段目突帯間隔12.1～13.7cm・3段目突帯間隔10.8～11.5cm・4段目突帯間隔8.5～10.1cm・肩部高15.7cm。突帯間隔と比べて著しく底部高が低いという特徴を有する。外面調整は底部から頸部がタテハケ、肩部がナナメハケ、

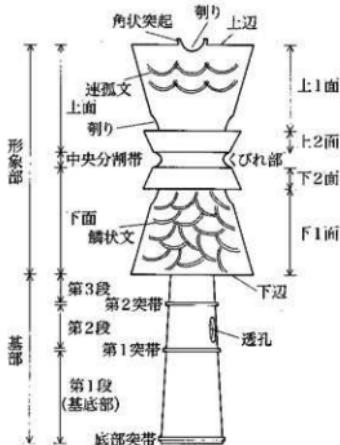


図7 右見型埴輪の各部名称

頸部がタテナデである。内面調整は底部から頸部がタテナデ、肩部がナナメナデ、頸部がナデである。底部調整は認められず、底面には作業台表面の薙の圧痕がみられる。2段目と4段目に90度位置をずらして円形透孔を配置する。

4は接合しない2点の肩部片から復元実測したもので、4段目と頸部の一部が残る。肩部高13.2cm前後に復元できる。外面調整は肩部がタテハケ、肩部がナナメハケ、頸部がヨコナデである。内面調整は肩部から頸部がナナメナデ、頸部がヨコナデである。4段目に円形透孔がある。外面に赤色顔料（ベンガラ）を塗布した痕跡が残る。

**石見型埴輪**（図6・9・10、図8・11・12）2個体以上の破片がある。いずれも無紋で、中央に粘土を貼り付けて形象部を上下に区画するという特徴を有する。石見型埴輪の各部名称については、図7に示した。

10は形象部の一部で、直接接合しない2片から復元図示した。残存長48.8cmで、上面の一部と下面の大半を欠失する。上面の高さ24.5～25.2cmで、上辺の長さ44cm前後・くびれ部の幅22.2cm前後に復元できる。上・下面共に無紋で、それを上下（1・2面）に分割する線刻もない。上辺中央に刺りがあり、小さく角状突起を作り出す。上1面の側面には刺りが認められない。中央分削帶は、2条の線刻で区画した後に粘土を貼り付け、一段高く盛り上がる。上面中央上寄りと下面右側上寄りに

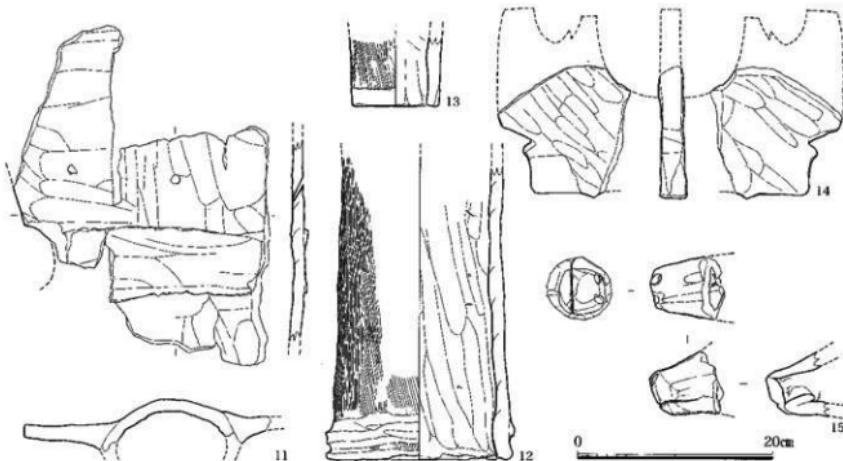


図8 出土埴輪実測図(1/5)

断面方形の小穿孔があり、裏面まで貫通している。調整は、内外面共に指ナデである。円筒部の側面に粘土板を鱗状に貼り付け、その外周を右見型の形状にヘラで切り落として形象部を成形している。中央分割帯の線刻と粘土貼り付けはその後に行われる。

9は形象部下1面左下の部分で、円筒部からの剥離面が残る。残存長11.95cm、小穿孔が一つ確認できるものの、裏面まで貫通していない。調整は、内外面共に指ナデである。裏面側に補充粘土を足して円筒部に貼り付け、端面をヘラで切り落とす。

11は形象部の中央分割帯を中心に上・下2面の一部が残存する。残存長34.6cm、くびれ部の幅22.0cm以上で右端部を欠失する。上・下面共に無紋である。中央分割帯の上下に粘土紐を貼り付け、一段高く盛り上げて表現する。上2面に二つの小穿孔があり、上から下方向へ割り箸状の棒を差し込んで穿孔するが、裏面では貫通していない。調整は、内外面共に指ナデである。円筒部の側面に粘土板を鱗状に貼り付け、その外周を右見型の形状にヘラで切り落として形象部を成形している。なお、ヘラで切る方向がくびれ部と上2面で異なり、くびれ部端面を上から下へ抉るように切った後に、上2面の端面を下から上へ切り取る。

12は基部の一部で、底径19.2cm・残存高39.5cmである。底面から少し上の位置に底部突帯があり、その間隔は3.0～3.8cm。外面はタテハケ調整、内面はタテナデ調整で、底面は未調整のままである。底から粘土紐を積み上げて製作しており、内面の一部に接合痕跡が残る。

蓋形埴輪（図8-14）立飾の破片で、残存長13.5cm・厚さ2.1～2.8cmである。表裏ともに指ナデ調整し、線刻文様は認められない。端面をヘラで切り落として成形する。

動物形埴輪（図8-13・15）13は動物形埴輪の脚部片で、残存高7.1cm・底径8.8cmである。外面をタテハケ調整、内面をタテナデ・ナナメナデ調整し、底部外面に幅2cm前後の粘土紐を貼り付ける。底面に板目の圧痕が残る。

15は動物形埴輪の頭部片で、残存長7.6cmである。鼻先から口にかけての部分が残る。外面はナデ調整を行い、内面は無調整である。粘土板を巻いて円錐形筒状の頭部をつくり、鼻先に粘土を押し込み塞いで成形している。口は線刻で表現する。

#### V 出土埴輪の検討

##### 1. 出土埴輪の時期

円筒埴輪の突帯は断続ナデ技法Aで成形され、突帯間

隔が均等に設定されていない。そして、底部調整を認められる例があることなどから、V群系埴輪の特徴を有する畿内共通編年第V期の資料と判断できる。右見型埴輪は、中央分割帯によって形象部を2分割するAII類（鍾方ほか1995）に相当する。中央分割帯に粘土を貼り付ける点が特徴的で、上下面は無紋である。AII類はMT15～TK43型式の須恵器と共伴して出土している。中でも無紋のAII類は京都府木津川市音乗谷古墳出土例があり、TK10型式の須恵器が共伴する点は参考となろう。蓋形埴輪の立飾よりも6世紀代によくみられる小型無紋の形態的特徴を有している。率川古墳では埴輪以外の共伴遺物が出土しておらず、埴輪だけでは後期古墳の築造時期について詳細を明確にし難いものの、概ね6世紀前葉～中葉頃の古墳と考えて大過ないだろう。

#### 2. 低位置突帯埴輪と形象埴輪の底部突帯

近畿地方において6世紀の形象埴輪を通観すると、基部に底部突帯を貼り付ける例が一般的に認められる。そして、特に器材埴輪の基部については、円筒埴輪状の製品をいったん製作しそれを倒立させて基部に利用することが多い。これを高橋克壽は倒立技法と呼んでいる（高橋1992）。しかし、率川古墳出土石見型埴輪の基部は倒立技法でなく、粘土紐を積み上げる一般的な技法で製作されている。この点は、底部高が著しく低い朝顔形埴輪（8）とも共通する特徴である。そして、朝顔形埴輪（8）の底部高は3.7～5.4cmで、石見型埴輪の底面から底部突帯までの高さ3.0～3.8cmと近似することも見逃せない。すなわち、率川古墳では、石見型埴輪の基部と朝顔形埴輪に密接な関連性を看取できると思われる。朝顔形埴輪はその形態的特徴から焼成前に倒立させるのが困難であり、底部調整は基本的に行われない（川西1978）。そのため、底部の低い位置に突帯を貼り付けることが可能となったのだろう。

さらに、朝顔形埴輪底部の突帯は、形象埴輪の底部突帯と共に関東地方で注意されてきた低位置突帯円筒埴輪とも関連性を有し、その出現背景を推考する上でも重要な手掛かりとなる可能性がある。なぜならば、低位置突帯円筒埴輪も底部調整の有無と製作上において密接に関係するからである。

関東地方では底部調整を行わない例が多く認められるが、特に大型品にはその傾向が強い。そして、低位置突帯円筒埴輪も5～6条突帯の大型品に多いという特徴があり、共通している。また、低位置突帯円筒埴輪の底部と底部突帯を貼り付ける形象埴輪の基部が形態的・技法的に非常によく似ており、破片資料の場合は識別が困難

である。実際に両者を混同している場合も指摘されている（新山 2007）。こうした状況を整合的に理解しようとすると、底部調整を行わない円筒埴輪の底部に形象埴輪の基部形状を模倣して底部突帯を貼り付ける例があらわれたと推測できる。その背景には、円筒埴輪と形象埴輪の製作工人の間に厳密な区別がなくなり、両者を同一工人が製作するなど形態共有の発現が生じやすくなつたことを反映している可能性があらう。

かつて川西宏幸は「畿内から伝わった底部調整が大古墳の円筒埴輪には受容されず、中小古墳の円筒埴輪にとりいれられる、という重層的な受容のしかた」を関東地方の北武藏や上野の地域で想定した（川西 1978）。しかし、北武藏の埼玉県鴻巣市出生塚遺跡では底部調整のない中・大型品（突帯 4 条以上）と底部調整のある小型品（突帯 2・3 条）が共に製作されており（鴻巣市教育委員会 1994）、この場合は同一の製作集団内での重層的な受容を推定するのは困難ではないかと思われる。むしろ、大型品については中期以来の小工程を積み上げる製作方法が残存し、小型品についてのみ小工程を反復せずに仕上げるため底部調整を行う例が生じてきたと考えられる。重層的に存在した古墳の多様性に合わせて、大きさの異

なる埴輪が製作方法を違えて作り分けられたため、両者の形態変遷が相違するという現象に発展した。関東地方北部に認められるこのような地域性が母体となり、形象埴輪基部の底部突帯から影響を受けた底部調整しない円筒埴輪に低位置突帯を付加する場合が現れてくるのだろう。

### 3. 石見型埴輪の評価

石見型埴輪の形象部の高さは、上面の高さ 25cm 前後、中央分割帯の高さ 7~8cm である点からみて、60cm 前後であったと復元できる。かつて、高さ 70cm を境に石見型埴輪を大小 2 種に分類したが、それによると S 種に該当する。なお、最近の研究では、資料数が増加する中で大小の区分が不明確となってきたことが指摘されており（和田 2006）、その有効性も再検討が必要である。ただし、中央分割帯によって形象部を 2 分割する A II 類のほとんどが S 種である点は、依然として認める事ができる。

そこで、形象部の大きさについて、製作方法が類似する他の形象埴輪と共にその高さを基準として考えてみよう。高さを復元できる他の形象埴輪との共伴事例には、宇治市菟道門ノ前古墳・城陽市冴山 1 号墳・奈良市秋篠町奈良少年院出土埴輪などがある。それぞれのおおよそ

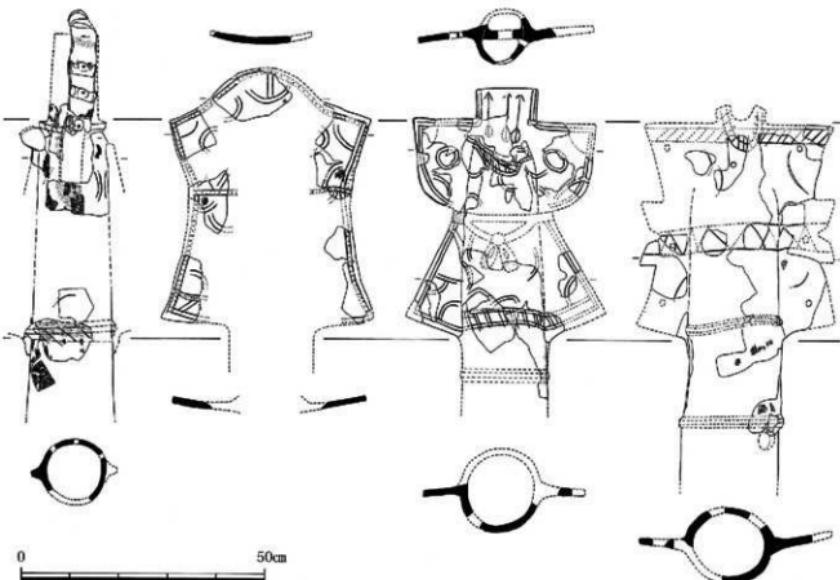


図9 菟道門ノ前古墳出土形象埴輪の規格性 (1 / 10)

の高さを図上で計測すると、菟道門ノ前古墳は、石見型埴輪 49 × 50cm・盾形埴輪 53cm・鰐形埴輪 52cm、城陽市青山1号墳は、石見型埴輪 54cm・人物埴輪 56cm、奈良少年院出土例は、石見型埴輪 46 × 48cm・盾形埴輪 51cmである。遺跡ごとにその高さが概ね近似することがわかる。これらはいずれも円筒埴輪状の製品を基部に使用してつくられており、基部の高さを一定に製作しておけば、形象部の大きさを左右に揃えて配列することができるようになっている。

さらに、形象部の製作方法を観察すると、人物埴輪を除く他は基部の上に一定の高さまで円筒をつくり、その両側面から上部にかけて鱗状の粘土を貼り付け製作するという共通点を有している。そして、その高さは概ね一定になるようつくられているから、鱗状の粘土を切り取る形によって石見型・盾形・鰐形をつくり分けることが可能となる。菟道門ノ前古墳の大刀形埴輪についても、鱗が貼り付く鞘部の高さが他と近似するように復元されており、柄部の製作前に同様の過程を経た可能性が想定できる(図9)。青山1号墳の人物埴輪のように、形象部の製作方法が異なる埴輪でも、高さだけは他と整合させている場合がある。

このような製作方法によって、器材埴輪の製作が6世紀に効率化すると同時に、大きさの統一も容易に実現するようになったと評価できる。石見型埴輪の小型化傾向およびS種と同じ大きさが他の形象埴輪でも多く認められる点には、以上のような背景が内在していると推定したい。

また、A II類は他の石見型埴輪と系統が異なり、山城南部から大和北部の地域に分布が集まるという現象が看取できる。率川古墳例もその分布範囲内に相当するが、粘土を貼り付けて中央分割帯を表現するのは他にない特徴である。そこで、中央分割帯の表現に改めて注目してみると、山城南部地域では斜格子紋・鋸歯紋・線刻・大和北部地域では斜格子紋・線刻・粘土貼付を確認できる。両地域で確認できる斜格子紋例には、長岡市木塚本古墳・城陽市青山1号墳<sup>14</sup>・奈良市秋篠町奈良少年院出土埴輪があり、いずれもMT 15型式期の製作と推定されるので、A II類の中でも相対的に古相の資料と考えられる。それに対して、鋸歯紋例(宇治市菟道門ノ前古墳)・線刻例(木津川市音谷古墳・奈良市苔原東遺跡埴輪窯跡群)・粘土貼付例(率川古墳)が後出するTK 10～TK 43型式期の古墳などから出土している。なお、線刻例が出土した音谷古墳は、木津川以南の大和北部北端に接して位置し、地理的には大和北部と非常に近いところにある。

以上の点を考慮すれば、A II類の中央分割帯の表現は、木津川以北の山城南部地域で斜格子紋から鋸歯紋へ、木津川以南を含めた大和北部地域で斜格子紋から線刻・粘土貼付へとそれぞれ変化した可能性が想定できることになる。そして、2地域における変化の違いは、異なる埴輪製作集団の動向と密接に関連すると思われる。この二つの埴輪製作集団は、当初において非常に親密な関係を有していたが、時期が下がるにつれてそれぞれ独自の表現を顕在化させたと考えられる。

## VI 率川古墳群の動向

率川古墳の北西約250mの位置には、開化天皇陵に治定されている坂上山古墳がある。坂上山古墳は全長約105mの前方後円墳と考えられているが、墳丘は後世の改変をかなり受けしており、詳細な形状や規模はよくわからない。宮内庁書陵部が実施した西側外堤の調査で、畿内共通編年第III期とみられる円筒埴輪片が出土した。また、坂上山古墳周辺で行った市HJ第269・287・449次調査からも同様に第III期の埴輪片が出土しており、おそらく坂上山古墳の築造時期はその範囲で理解できると推測する。

市HJ第449次調査では、古墳の周溝の一部である可能性が高いSD 01から遺物整理箱1箱分の埴輪が8～12世紀末の遺物と共に出土している。埴輪は円筒埴輪ないしは朝顔形埴輪であり、形象埴輪はみられない。表面が風化した小片ばかりであり、底部高や突窓間隔などがわかる資料はない。口縁部の形態には、端部を短く外反させる例や突窓を貼付ける例がみられる。外皿調整にB種ヨコハケを行う例や突窓剥離箇所に凹線を認める例がある。透孔は円形で、黒斑がみられる例を含む。表面に朱塗りを認める例もある。このような特徴からみて、第III期後半の資料と判断できる。また、SD 01から想定される古墳の規模は直径20m前後で、坂上山古墳の東約100mの位置に築造された円墳と想定される。本稿では、これを漢國神社東南古墳と仮称しておく。

率川古墳群として認識できる古墳は、今のところ坂上山古墳・漢國神社東南古墳・率川古墳の3基のみであるが、この周辺で埴輪片が出土した地点は他にもあり、古墳の数は今後さらに増加することが予測できる。市HJ第75次調査では、第IV期の埴輪が出土する溝が確認されており、古墳群の造営時期は畿内共通編年第III期から第V期に及ぶと考えられる。そして、坂上山古墳の築造を契機として、古墳群の造営が始まる可能性が想定できる。ただし、第III期の古墳は相対的に規模が大きく、その後に築造された古墳の中に現時点では大型古墳を見込

みにくい点を考慮すれば、第IV期以降は散在的に小古墳がつくられただけにとどまるのだろう。

## 註

- 1) 緊急的に調査対応する必要性が生じたため、県文化財保存群今尾文昭、市越麻文化財調査センター森下憲介、森下浩行の3名で調査が行われた。  
奈良市教育委員会 1987『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 昭和61年度』
- 2) 奈良市教育委員会 1988『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 昭和62年度』
- 3) 奈良市教育委員会 1992『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成3年度』
- 4) 奈良市教育委員会 1998『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成9年度(第2分冊)』
- 5) 奈良市教育委員会 1994『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成5年度』
- 6) 奈良市教育委員会 1989『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 昭和63年度』
- 7) 奈良市教育委員会 1998『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成9年度(第1分冊)』
- 8) 奈良市教育委員会 1994『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成5年度』
- 9) 奈良市教育委員会 1985『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 昭和59年度』
- 10) 奈良市教育委員会 1996『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成7年度』
- 11) 城陽市背山1号墳出土の石瓦型埴輪については、内部を4分割するよう側面に模様が公表されている(城陽市史編さん委員会 1999)。また両端に、和田一之輔はこれを4分割型に分類している。しかし、上面と上2面を分割する位置に縫合がある統計1点のみによる値であり、むしろ上・下面を2分割する位置に縫合がない破片の方が多くみられる。したがって、本稿では背山1号墳出土例をAII類とみなして検討を進める。
- 12) 奈良市教育委員会 2002『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成12年度』

## 【参考文献】

- 井上仁人 2004『古代都城制地圖再考』『古代都城制地圖の実証的研究』  
宇治市教育委員会 1998『先道門ノ前古墳・菟道跡差額調査報告書』宇治市文化財調査報告第5編  
小栗明彦 2007『蓋形埴輪軸付油』『埴輪證考 I』円筒埴輪を読み解く』大阪大学博物館報告書第53号  
鰐方正樹・中島和彦・根上直子 1995『奈良市秋篠町奈良少年院出土埴輪の研究(上)・(下)』『古代文化』第47巻第5号・第6号  
川西宏幸 1978『円筒埴輪總論』『考古学雑誌』第64巻第2号  
鴻巣市教育委員会 1994『高見市道跡群 出土埴輪調査(D-5地点)』  
財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1988『京都府遺跡調査概要』第27回  
財團法人長岡京市埋蔵文化財センター 1985『長岡京市埋蔵文化財センター年報 昭和59年度』  
新川保和 2007『群馬県出土の低位窓突帯埴輪』『研究紀要 25』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事務局  
城陽市史編さん委員会 1999『城陽市史』第3巻  
高橋文寿 1992『器財埴輪』『古墳時代の研究』第9巻(古墳Ⅲ 墓輪)  
中島和彦 1993『開化天皇陵』『天皇陵』総説・歴史読本特別刊行・事典シリーズ  
文第19号

奈良文化財研究所 2003『平城京条坊総合地図』奈良文化財研究所史料第60冊  
和田一之輔 2006『石見製埴輪の分布と樹立古墳の探査』『考古学研究』第53巻第3号

## 【図出典】

- 図1 奈良市道路工事監査図(平成10年)に加筆して筆者作成
- 図2 調査担当者撮影
- 図3 調査担当者撮影
- 図4 墓丘原より筆者作成
- 図5 奈良文化財研究所 2003に加筆修正して筆者作成
- 図6 筆者作成
- 図7 鶴方正樹ほか 1995から転載
- 図8 筆者作成
- 図9 宇治市教育委員会 1998から加筆修正して転載

# 法華寺垣内古墳とその埴輪

池田裕英

## I はじめに

平成16年度に奈良市法華寺町で行った発掘調査（市平城京第520次調査）で、墳丘部が削平されて埋没した前方後円墳を検出した。調査地は、平城宮跡から東に約500mのところで、北約500mの地には古墳時代中期の前方後円墳であるウワナベ古墳、コナベ古墳がある。検出した古墳は、字名から法華寺垣内（ほつけじかいと）古墳と称している。

この調査は宅地造成に先立つ事前の発掘調査で、造成地の調整池及び宅地内道路になる部分に5つの発掘区を設けて行ったものである（図1）。この5つのうち4つの発掘区で古墳の葺石と周濠を検出した。この調査の概要是『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成16年度』に記したが、そこでは出土した遺物について報告できなかつたため、ここで古墳に関わる埴輪について紹介することしたい。まず、「概報」と重複することにはなるが、古墳に関する調査成果を述べ、その後に埴輪についてふれることとする。

## II 古墳の概要

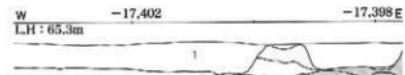
この調査では5つの発掘区を設けて調査を行ったが、第1・3・4・5発掘区で葺石と周濠を検出した。葺石は、第1・3発掘区では人為的に崩された状態で、第4・5発掘区では古墳に葺かれた状態で検出した。調査範囲が狭いので詳細はわからないが、墳丘は東側がより大きく崩されている可能性が考えられる。最も残りのよかつた第4発掘区で検出した葺石は南北方向で、東から西に向かって下り、南北3.8m、東西2.3m、高さ0.9m分を検出した（写真1・図2）。葺石に用いられた石は拳大かそれよりやや大きいものであるが、西端部には人頭大の石が用いられており、基底石と考えられる。第5発掘区では東西方向の葺石並びに基底石を検出している。葺石の多くには三笠山安山岩、チャート、珪岩が用いられており、これら以外には花崗岩や三笠山凝灰岩が少量みられる。また、岩石の円磨度は低く、角を残すものが多い。こういった特徴から、石材は佐保川で採取されたと考えられるようである。また、各発掘区の土層の観察から、墳丘盛土に関する見知を得ることができた（図2・図3）。特徴的なことは、黒褐色腐植土が鱗状に積まれた状況がわかることで、おそらく鍬のような道具を用いて土を盛った作業単位を示しているのであろう（図2・3-a）。盛土の中



図1 調査地と発掘区の位置 (5,000)



写真1 第4発掘区全景（西から）



- W -17,402  
L.H.: 65.3m  
E -17,398  
  
1 塩丘盛土  
2 淡青灰色土（奈良時代盛土地）  
3 黒褐色腐植土（河原底土）

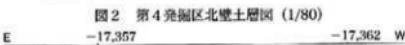


図2 第4発掘区北壁土層図 (1/80)



E -17,357 -17,362 W  
L.H.: 66.0m

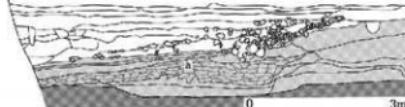


図3 第3発掘区南壁土層図 (1/100)



図4 発掘区の位置と墳丘復原図 (1/2,000)

からは詳細な時期は不明であるが、布留式土器が出土している。葺石を覆うように黒褐色腐植土が堆積しており(図2-3)、周濠にはいくらかの水が溜まっていた時期があつたことが窺える。周濠は墳丘を削った土で埋められ、整地されており(図2-2)、奈良時代以降の造構面となつてゐる。

以上のような発掘調査の成果と、調査終了後に行った工事立会の結果等を勘案して墳丘を復原すると、第1発掘区は墳丘前方部南東隅部、第2発掘区は後円部、第3発掘区は東側くびれ部へ造り出し部、第4発掘区は西側造り出し部、第5発掘区は前方部墳端部にあたると考えられ、墳丘全長が約110mの後円部を北に向ける前方後円墳になると推定される。前方部くびれ部付近の東西には造り出しがつく。墳丘が削平された時期については、周濠の埋土から奈良時代の遺物が出土していることや古墳を削るほどの大規模な造成を行う必要があった事由等を推測すると、平城京造営の際と考えるのが妥当であろう。

### III 墓輪の概要

本調査で出土した埴輪は遺物整理箱にして10箱分ある。種類としては円筒埴輪、朝顔形埴輪、蓋・盾・家形の形象埴輪がある。第2発掘区を除くいずれの発掘区からも出土しているが、ある特定の埴輪が特定の発掘区から集中して出土するという傾向等はみられない。埴輪の残存状況は概して悪く、小破片で、表面の摩滅や剥落が激しく、調整等の不明なものが大多数を占める。本来なら、形態や調整手法などにより分類を行い、その比率等を数



図5 円筒埴輪の形態分類

値化して示すべきであろうが、小破片や調整手法がわからない資料が多いことからその作業が困難である。そして、少ない資料を数値化した場合にその数字が必ずしもこの埴輪群の実態を示すとは思えないことから、今回はその作業を行わなかった。

以下に出土した埴輪について報告する。

#### 円筒埴輪 (図6-1~8)

**法量** 全形のわかるものはなく、また口径が復原できるものもない。底部径が復原できる資料は2点のみで、一つは18.2cm(8)、もう一つは47.2cm(7)である。底部の器厚は0.8~2.5cmである。胴部の器厚は1~2cmである。

**形態** 全体的なプロポーションはよくわからない。口縁部は図5に示したように、

a類 口縁部が直立する形態。端部が外側に肥厚するもの、平坦な面をなすもの、内傾するものがある。

b類 口縁部が緩やかに外反する形態。外面に若干突起状の面をつくるもの、端部を上方へつまみあげるものなどがある。

c類 口縁部を外方へ強く屈曲させる形態。端部は、上端を上へつまみあげるもの、外傾するもの、内傾するものがある。

の3つに大別することができる。

口縁部から最上段の突起上辺までの間隔がわかる資料は1点あり(図6-1)、その間隔は10.8cmである。

突起は断面が台形状のものが多いが、M字状のものもある(3・5)。台形状のものにはヨコナデが強いために断面が三角形に近い形をしているもの(2)もある。

突起の高さは、器壁と同程度のものが多いようである。突起の間隔がかかる例は2の1例しかなく、その上辺の計測値は11.3cmである。

底部は7のように直立する例が多いが、斜め外方へ開き気味になるものもある(8)。底部接地面から第1突起上辺までの高さがわかる資料はこの2点のみで、7が18.0cm、8が13.9cmである。

透孔の形はすべて円形である。復原できた透孔の径は4cmである。全形を復原できるものがないので、何段目

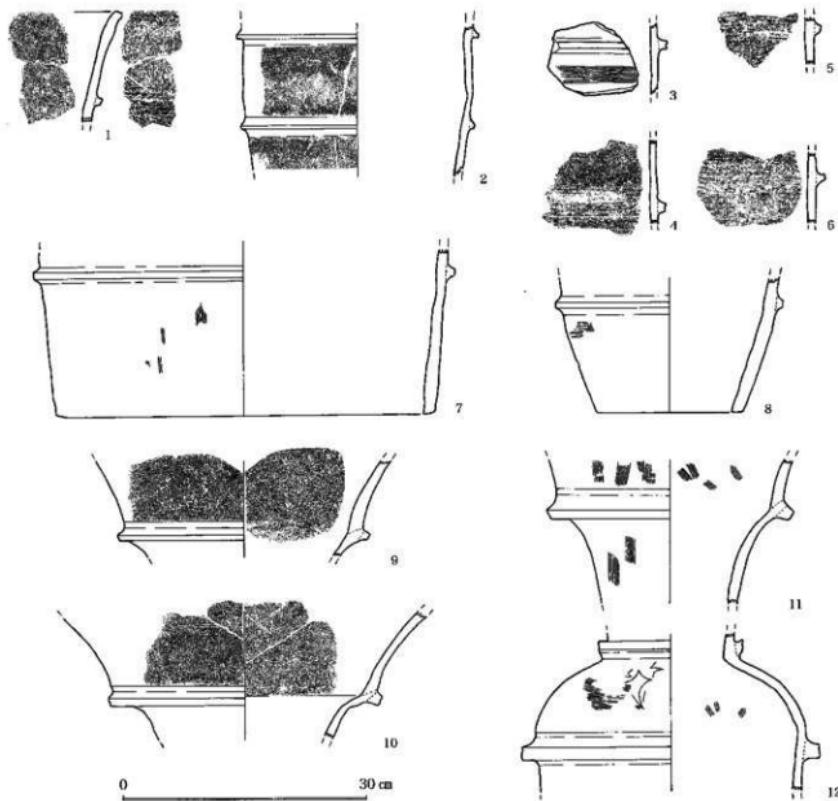


図6 丹指輪・網脚印加輪 (1/6)

にいくつ穿孔されていたのかはわからない。

**外面調整** 1次調整でタテハケを行った後、2次調整のヨコハケを行って外面を仕上げている例が多いが、2のようにヨコハケを省略したものも少なからず見受けられる。ヨコハケの重複や静止痕が確認できる例はわずかで、ハケの重複が確認できるものは1例あるが、A種ヨコハケかBa種かの特定はできず、確実にA種といえるものはない。B種も突帯間がわかる資料がないことからBb種かBc種かのいずれであるかの特定は困難である(3~6)。Bd種はみられない。ハケ条線の間隔は5本/cm~9本/cmであるが、ハケ原体の幅や静止痕間隔がわかる資料はない。底部は一般的に調整が省略されることが

多く、調整が確認できるものでは7のようにタテハケのみの例が多いが、8のように上部にヨコハケを施したものもある。

**内面調整** ハケとナデがみられる。ハケにはタテハケとヨコハケがある。内面に粘土紐の痕跡が残るものがあり、それらをみると全体の大きさによる違いはあるかもしれないが、幅3~5cmの粘土紐を積み上げて成形していることがわかる。

**焼成** 烧成具合は概ね軟質で、外面に黒斑のあるものが多い。内外面の色調は茶褐色~茶橙色で、断面が灰黑色をしているものが目立つ。全て野焼きによるものであろう。

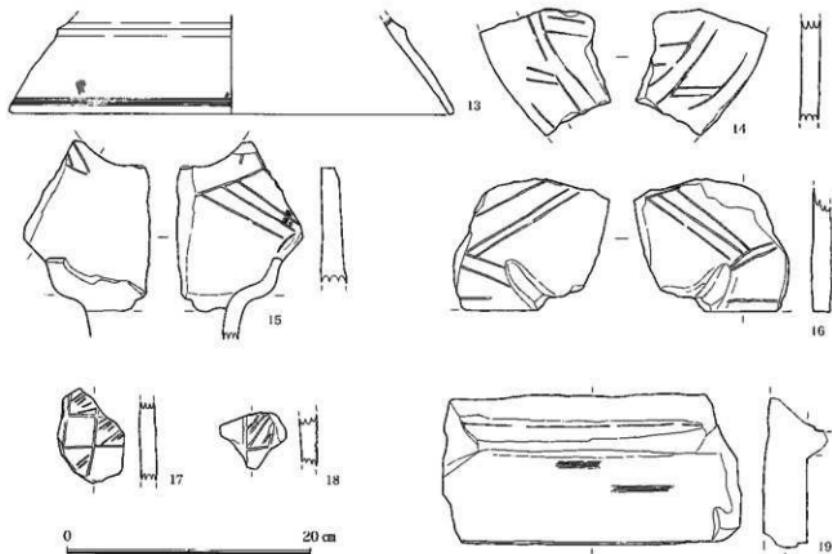


図7 形象埴輪(1/4)

ヘラ記号 ヘラ記号があるのは1の例のみで、口縁部外面に記されている。鋸歯文のようにも思えるが、何を表現しているのかはよくわからない。

**朝顔形埴輪(図6-9~12)** 口縁端部まで残るものはない。頸部突帯の復原径は30.8cm(11)~34.1cm(10)である。調整は頸部外面・口縁部外面をタテハケしているものが多い。肩部は12の1点のみで、外面をヨコハケで調整し、ヘラ記号がある。内面調整は口縁部、肩部とともにナナメハケである。色調や焼成具合は円筒埴輪と共通している。12の肩部には曲線によって菱形のような岡形を描いたヘラ記号がある。

**形象埴輪(図7)** 出土量はわずかではあるが、蓋・盾・家形といった形象埴輪が出土している。

**蓋形埴輪(13~16)** 13は笠部下半部である。復原径は36.4cmである。中位に突帯が付き、先端部外面に三条の沈線がある。笠下半部の布張りの表現については、表面の剥落が著しいためにわかりにくいが、無文の可能性が高い。外面の調整は不定方向のナナメハケとみられるが、内面は剥落のため不明である。14は飾り板片である。表・裏面に線刻による文様が施されているが、摩滅のため調整は不明である。15・16は飾り板・飾り板受

部片である。これら2点は同じ発掘区から出土しており、胎土・色調や飾り板の文様が類似していることからみて同一個体としてよいと思われる。表・裏面ともナデによる調整である。飾り板の文様はいずれも用形文(斎藤・宇佐 1952)である。

**盾形埴輪(17・18)** 格子状に区切られた方形区画の中に互い違いに斜線が線刻されている。いずれも剥落が激しく、調整は不明である。

**家形埴輪(19)** 壁体部片と考えられる。外面にわずかではあるが、赤色顔料が残る部分がある。外面はヨコハケ、内面は不定方向のナデで調整されている。上面の粘土帶接合面に、接合をよくするために付されたと思われるハケの痕跡がみられる。

以上、法華寺境内古墳から出土した埴輪について記した。次に、これらの埴輪の時期をいつ頃に位置づければよいかという点について考えてみたい。

#### N 墓輪の編年的位置づけの検討

出土点数と残り具合からみて、他の古墳から出土した埴輪との比較が可能と思われる円筒埴輪と蓋形埴輪をとりあげることとする。

まず円筒埴輪であるが、法華寺境内古墳から出土した